

平成 31 年度
水産多面的機能発揮対策支援委託事業

調査報告書

令和 2 年 3 月

全 国 漁 業 協 同 組 合 連 合 会
全 国 内 水 面 漁 業 協 同 組 合 連 合 会
公 益 社 団 法 人 全 国 豊 かな 海 づ くり 推 進 協 会
一 般 社 団 法 人 水 産 土 木 建 設 技 術 セ ン タ ー
株 式 会 社 水 土 舎

目 次

1. 水産多面的機能発揮対策事業の評価・検証.....	3
1-1. 自己評価結果のとりまとめ.....	3
1-2. 実施状況取りまとめ報告書のデータベース化.....	3
1-3. 新たな評価手法等の検討.....	4
1-4. 有識者による検討委員会の開催.....	4
2. 水産多面的機能発揮対策事業の技術サポートの推進.....	6
2-1. 講習会の開催.....	6
(1) 講習の対象と講習場所の選定.....	6
(2) 講習内容とテキストの作成.....	7
(3) 参加状況及び開催結果.....	12
(4) アンケート結果.....	16
2-2. サポート専門家による技術的指導.....	36
(1) サポート専門家の登録.....	36
(2) サポート専門家による指導と参考資料の作成.....	44
① 個別サポート.....	44
② ヒアリング.....	48
(3) 指導内容の整理と参考資料の作成.....	65
2-3. 効果的な保全手法等の開発.....	66
2-4. 水産多面的機能発揮対策事業の情報提供・共有.....	68
(1) 模範、参考となる活動組織（優良事例）の抽出と報告会の開催.....	68
① 優良事例の紹介.....	68
② 事例報告会の開催.....	69
(2) 事例集の作成.....	87
(3) 各種媒体による情報提供.....	87
① ポスターの配布.....	87
② ウェブサイト.....	88
③ 新聞広告.....	92
④ イベント出展.....	93
(4) 「教育・学習」資料の作成・編集.....	110
3. 平成 31 年度支援事業の成果と課題.....	113
3-1. 活動組織によるモニタリング及び自己評価.....	113
3-2. 講習会の開催.....	113
3-3. サポート専門家による技術的指導.....	114
3-4. 効果的な保全手法等の開発.....	114
3-5. 模範、参考となる活動組織の抽出.....	117
3-6. 事例報告会（シンポジウム）の開催.....	117
3-7. 各種媒体による情報提供.....	118

資料編 1	平成 30 年度モニタリング結果等の整理	資 1-1
資料編 2	平成 30 年度実施状況とりまとめ結果	資 2-1
資料編 3	監視実績入出力システム (マニュアル)	資 3-1
資料編 4	検討委員会・専門家会議議事録	資 4-1
資料編 5	講習会議事録	資 5-1
資料編 6	サポート専門家による個別サポート報告書	資 6-1
資料編 7	サポート専門家によるヒアリング報告書	資 7-1
資料編 8	技術開発等報告書	資 8-1
資料編 9	報告会議事録	資 9-1
資料編 10	教育・学習資材	資 10-1
資料編 11	取組情報ページ入力マニュアル	資 11-1

別冊 平成 30 年度自己評価結果とりまとめ報告書

別冊 講習会テキスト (運営編)

別冊 講習会テキスト (技術編) 青森会場

別冊 講習会テキスト (技術編) 東京会場

別冊 講習会テキスト (技術編) 福岡会場

別冊 報告会 (シンポジウム) テキスト

別冊 水産多面的機能発揮対策活動事例集

1. 水産多面的機能発揮対策事業の評価・検証

平成 30 年 3 月 28 日付け水産庁長官通知「水産多面的機能発揮対策交付金実施要領の運用」(以下、「要領の運用」) 第 6 の 10 に規定する対象活動組織が行なった前年度(平成 30 年度)の自己評価及び地域協議会の 2 次評価を基に、成果実績その他の評価結果を活動項目別に集計・整理し、平成 30 年度における活動組織の成果を評価した。

1-1. 自己評価結果のとりまとめ

活動組織が行なった 30 年度の自己評価及び地域協議会の 2 次評価を基に、表 1-1-1 に示す成果指標及び自己評価点を活動項目ごとに集計、整理し、水産庁に提出した(別冊)。

また、「環境・生態系保全」に関しては、活動組織が実施したモニタリングデータを収集し、海藻の被度やゴミの収集量など、数値による定量的な成果を整理した。併せて、前年度に JF 全漁連及び全内漁連が実施した活動成果に係るアンケートを回収し、定性的な成果についても整理した(資料編 1 に収録)。

表1-1-1 自己評価表の整理・集計項目

活動項目		成果指標	自己評価点
1. 環境・生態系保全	① 藻場の保全	対象水域における生物量の増加	成果目標 組織体制 横展開
	② サンゴ礁の保全		
	③ 種苗放流		
	④ 干潟等の保全		
	⑤ ヨシ帯の保全		
	⑥ 内水面生態系の維持・保全・改善		
	⑦ 漂流、漂着物、堆積物処理		
	⑧ ③⑥⑦の効果促進		
	⑨ 廃棄物の利活用		
2. 海の安全確保	⑩ 国境・水域の監視	不審船または環境異変の通報件数の増加	成果目標 組織体制 横展開
	⑪ 海の監視ネットワーク強化		
	⑫ 海難救助訓練	海難救助に参加した件数の増加	
	⑬ 資機材等の整備		
上記に関連し、その効果を高め、漁村文化の継承に資する教育・学習		理解度	成果目標 組織体制 横展開

1-2. 実施状況取りまとめ報告書のデータベース化

データベースとして整理する項目は表 1-2-1 に示すとおりとし、今後の効果的な事業の推進に資するための資料を作成した(資料編 2 に収録)。

表1-2-1 データベース化した項目

項目	内容
基礎情報	都道府県名、地域協議会名、市町村名、活動組織名
活動項目等	活動項目、保全活動面積、モニタリング後の面積
項目別の活動内容	実施面積、実施時期、参加人数、協定に係る要件確認の有無、市町村チェックの有無
項目別の実施状況 (実績額)	<ul style="list-style-type: none"> ・収入額（合計額、うち交付金の額） ・支出額（合計額、日当・謝金、傭船料、資材購入・リース費、交通費・運搬費、委託費、その他協議会等で設定した独自の費目）

1-3. 新たな評価手法等の検討

モニタリング及び自己評価を実施するにあたり、対象生物の設定が難しい浅場（干潟等の保全）で活動する活動組織を対象として、後述する「2.3 効果的な保全手法等の開発」において、「対象生物の増加量」とは異なる新たな評価手法の検討を行った。

また、「国境・水域監視」や30年度に始まった「海の監視ネットワーク強化」の実績を可視化するため、監視に出動した船舶の監視位置や、不審船・環境異変等の視認情報を整理し、報告書に出力するためのプログラム「監視実績入出力システム」を作成して、各活動組織に配布した（資料編3に収録）。

1-4. 有識者による検討委員会の開催

上記の実施にあたっては、表1-4-1に示す有識者から意見を聴取し、今後の評価を実施するにあたっての課題を含め、効果的な事業の推進に必要な課題の抽出を行った。

また、適宜サポート専門家を招聘して事業の推進に関する意見交換（専門家会議）を行った。検討委員会及び専門家会議の開催状況を表1-4-2に、各会議の議事録を資料編4に収録した。

表1-4-1 検討委員（有識者）

氏名	所属・役職	選定理由
乾政秀	(株) 水土舎 最高顧問	平成13年度公益的機能等調査委託事業及び平成14年度多面的機能評価等調査委託事業等に関わり、水産業・漁村の多面的機能の評価及び沿岸環境保全についての造詣が深い。
柿野純	(株) 東京久栄 技術顧問（元千葉県水産試験場）	平成25～31年度 水産多面的機能発揮活動サポート専門家。アサリを主とした干潟の二枚貝類の調査及び保全技術についての造詣が深い。
鹿熊信一郎	沖縄県海洋深層水	平成25～31年度 水産多面的機能発揮活動サポート専門家

	研究所 所長	家。サンゴ礁の保全技術及び海外のMPA（海洋保護区）における評価手法等について造詣が深い。平成27年度「水産業・漁村の多面的機能発揮の支援のあり方に関する検討会」委員。
桑原久実	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産工学研究所 水産土木工学部 部長	平成25～31年度 水産多面的機能発揮活動サポート専門家。藻場・干潟造成に関する造詣が深い。平成27年度「水産業・漁村の多面的機能発揮の支援のあり方に関する検討会」委員。
藤田大介	東京海洋大学 准教授	平成25～31年度 水産多面的機能発揮活動サポート専門家。海藻類の生態及び藻場の保全技術（磯焼け対策）についての造詣が深い。
樋田陽治	元山形県内水面漁連	平成25～31年度 水産多面的機能発揮活動サポート専門家。内水面漁業に関する行政、研究両面での経験が豊富なだけでなく、県内水面漁連では内水面漁業振興に尽力。現在、希少種の保護にも取り組んでいる。
崎長威志	広島県内水面漁連 参与	平成25～31年度 水産多面的機能発揮活動サポート専門家。水産行政に関する経験が豊富であり、県内水面漁連では内水面資源の回復、河川環境の再生対策の推進にも携わる。前広島県内水面漁場管理委員。
桐生透	元山梨県水産技術センター	平成25～31年度 水産多面的機能発揮活動サポート専門家。河川環境保全、外来生物など、内水面漁業が直面するさまざまな課題に造詣が深い。現在、長野県内水面漁場管理委員。

表1-4-2(1) 検討委員会・専門家会議の概要 (1)


検討委員会	
日時	2019年6月11日 13:30～15:30
場所	コープビル 7F 中会議室（東京都千代田区内神田 1-1-12）
協議事項	<p>(1) 平成30年度支援委託事業の報告</p> <p>(2) 平成31年度支援委託事業の計画</p> <p>(3) 自己評価結果について</p> <p>(4) 今後の検討委員会の進め方について</p>
	

表1-4-2(2) 検討委員会・専門家会議の概要 (1)


検討委員会 藻場部会	
日時	2019年7月29日 13:30～15:30
場所	コープビル 7F 中会議室 (東京都千代田区内神田 1-1-12)
協議事項 (1) 藻場の保全活動及びサポートにおける課題について	
	

表1-4-2(3) 検討委員会・専門家会議の概要 (1)

検討委員会 干潟部会	
日時	2019年8月2日 13:30～15:30
場所	コープビル 7F 役員会議室 (東京都千代田区内神田 1-1-12)
協議事項 (1) 干潟の保全活動及びサポートにおける課題について	

2. 水産多面的機能発揮対策事業の技術サポートの推進

水産多面的機能発揮活動の技術的水準の向上を図るため、本事業に取り組む活動組織等を対象として、技術的事項に関する講習会の開催及びサポート専門家による技術的な指導を行った。

2-1. 講習会の開催

活動組織による「海の安全確保」「環境・生態系保全」に係る活動の技術的水準の向上と適切な組織運営の推進を図ることを目的として、本事業に取り組む活動組織等を対象とした講習会を開催した。

(1) 講習の対象と講習場所の選定

講習会の参加対象は、活動組織、協定市町村、地域協議会会員等の事業関係者とし、地域協議会を通じて参加を促した。会場及び開催日程は表 2-2-1 に示すとおりである。

表 2-1-1 講習会の日程と会場

開催地	日程	会場
青森県青森市	7月16日(火)	青森県観光物産館(アスパム) (青森県青森市安方1-1-40)
東京都千代田区	8月28日(水)	コープビル (東京都千代田区内神田1-1-12)
広島県広島市	9月27日(金)	ホテルチューリッヒ東方2001 (広島県広島市東区光町2-7-31)
福岡県福岡市	10月29日(火)	福岡県中小企業振興センター (福岡県福岡市博多区吉塚本町9-15)

(2) 講習内容とテキストの作成

講習会は活動項目別の部会形式とし、特に藻場・干潟については、開催地ごとに技術的なテーマを絞り開催した。

開会時は、全参加者が一堂に会し、事業の概要、サポート専門家派遣制度、取組情報の入力等についての全体講習を行った。

その後は各部会に分かれ、サポート専門家のコーディネートのもと、他の組織の模範となる活動組織の代表などが講師となって取組の要点を紹介した。参加活動組織は成功・先進地区と自分たちの活動を比較し、自分たちの組織に足りない点や、今後、積極的に取り入れていくべき点を自己診断し、サポート専門家、講師、参加活動組織間で課題解決策等について意見交換等を行った。

なお、平成29年4月に閣議決定された水産基本計画においては、多面的機能の発揮について、「一層の国民の理解の増進を図りつつ効率的・効果的な取組を促進する」ことが明記されたことを鑑み、藻場、干潟、内水面、サンゴ礁の各部会では、昨年度開催した「教育・学習部会」での内容を実践的に行うための資料づくり等について、それぞれ部会の中で講習が行われた。

当日配布したテキストの内容は、モニタリングの手引きの他、参加活動組織の活動内容と実績を整理したものとし、参加者が他の活動組織の情報を把握しやすいものとした。各会場で配布したテキストは別冊に整理した。

表 2-1-2 (1) 講習プログラム (青森会場)

12 : 30	受付 (5 階白鳥)	
13 : 30～ 14 : 30	●全体講習 事業概要、運営、サポート専門家派遣制度等 (5 階白鳥)	
14 : 30～ 16 : 30	藻場部会 (5 階白鳥)	海の安全確保部会 (7 階むつ)
	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ：海藻のタネ不足対策とウニ類を中心とした食害対策について ●コーディネーター：中嶋泰氏 ●事例紹介組織： 久遠地区藻場保全活動組織 (北海道せたな町) ●意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター：益原寛文氏 ●事例紹介組織： 小泊海の監視ネットワーク活動組織 (青森県中泊町) ●意見交換

表 2-1-2 (2) 講習プログラム (東京会場)

12 : 30	受付 (6 階 第 3 会議室付近)		
13 : 30～ 14 : 30	●全体講習 事業概要、運営、サポート専門家派遣制度等 (6 階第 3 会議室)		
14 : 30～ 16 : 30	藻場部会 (6 階第 3 会議室)	干潟部会 (5 階第 1 会議室)	内水面部会 (6 階第 2 会議室)
	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ：藻場の維持管理について ●コーディネーター： 中嶋泰氏 ●事例紹介組織 城ヶ島藻場保全活動組織 (神奈川県三浦市) ●意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ：底質の改善について ●コーディネーター： 吉田司氏 ●事例紹介組織 船橋市漁業協同組合活動グループ (千葉県船橋市) ●意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター： 樋田陽治氏 ●事例紹介組織 桜川多面的機能活動組織 (茨城県つくば市) ●意見交換
16 : 30～ 17 : 30	●個別相談 各部会会場にて		

表 2-1-2 (3) 講習プログラム (広島会場)

【第1部】

9:00	受付 (3階レオポルト付近)	
9:30~ 10:30	●全体講習 事業概要、運営、サポート専門家派遣制度等 (3階レオポルト)	
10:30~ 12:30	藻場部会 (3階レオポルト)	海の安全確保部会 (3階さくら)
	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ：アマモの活動について ●コーディネーター：片山貴之氏 ●事例紹介組織 柳井藻場保全グループ (山口県柳井市) ●意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター：益原寛文氏 ●事例紹介組織 香住の海の会 (兵庫県香美町) ●意見交換

【第2部】

13:00	受付 (3階レオポルト付近)	
13:30~ 14:30	●全体講習 事業概要、運営、サポート専門家派遣制度等 (3階レオポルト)	
14:30~ 16:30	干潟部会 (3階レオポルト)	内水面部会 (3階アイネクライネ)
	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ：稚貝の確保について ●コーディネーター：吉田司氏 ●事例紹介組織：前潟干潟研究会 (広島県廿日市市) ●意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター：崎長威志氏 ●事例紹介組織：江の川かっぱ道場 (広島県三次市安芸高田市) ●意見交換
16:30~ 17:30	●個別相談	

表 2-1-2 (4) 講習プログラム (福岡会場)

【第1部】

9:00	受付 (ホールA+B)	
9:30~ 10:30	●全体講習 事業概要、運営、サポート専門家派遣制度等 (ホールA+B)	
10:30~ 12:30	<p>干潟部会 (ホールA+B)</p> <p>●テーマ：食害等の対策について ●コーディネーター：吉田司氏 ●事例紹介組織：鏡町あさり活動組織 (熊本県八代市) ●意見交換</p>	<p>海の安全確保部会 (401 会議室)</p> <p>●コーディネーター：益原寛文氏 ●事例紹介組織：勝本地区活動組織 (長崎県壱岐市) ●意見交換</p>

【第2部】

13:00	受付 ホール (A+B)		
13:30~ 14:30	●全体講習 事業概要、運営、サポート専門家派遣制度 ホール (A+B)		
14:30~ 16:30	<p>藻場部会 (ホールA+B)</p> <p>●テーマ：魚類を中心とした食害対策について ●コーディネーター：南里海児氏 ●事例紹介組織：外海地区活動組織 (長崎県長崎市) ●意見交換</p>	<p>内水面部会 (401 会議室)</p> <p>●コーディネーター：稲田善和氏 ●事例紹介組織：上桂川を守る会 (京都府京都市) ●意見交換</p>	<p>サンゴ礁部会 (ホールC)</p> <p>●コーディネーター：岩瀬文人氏 ●事例紹介組織：伊豆 FNY 活動組織 (静岡県南伊豆町) ●意見交換</p>
16:30~ 18:00	●個別相談		

表 2-1-3 藻場部会及び干潟部会のテーマ

会場名	藻場部会	干潟部会
青森会場	海藻のタネ不足対策とウニ類を中心とした食害対策について	-
東京会場	藻場の維持管理について	底質の改善について
広島会場	アマモの活動について	稚貝の確保について
福岡会場	魚類を中心とした食害対策について	食害等の対策について

表 2-1-4 各会場のコーディネーター及び先進地区活動組織事例紹介

会場名	部会	コーディネーター	事例紹介先進地区活動組織
青森	藻場部会	中嶋泰氏	久遠地区藻場保全活動組織（北海道） 高森直也氏
	海の安全確保部会	益原寛文氏	小泊海の監視ネットワーク活動組織（青森県） 小林寿伸氏
東京	藻場部会	中嶋泰氏	城ヶ島藻場保全活動組織（神奈川県） 石橋英樹氏
	干潟部会	吉田司氏	船橋市漁業協同組合活動グループ（千葉県） 柴田進介氏梅田新也氏
	内水面部会	樋田陽治氏	桜川多面的機能活動組織（茨城県） 鈴木清次氏
広島	藻場部会	片山貴之氏	柳井藻場保全グループ（山口県） 酒井章氏
	海の安全確保部会	益原寛文氏	香住の海の会（兵庫県） 駒居慧一氏
	干潟部会	吉田司氏	前潟干潟研究会（広島県） 下戸成治美氏
	内水面部会	崎長威志氏	江の川かっぱ道場（広島県） 西村亮氏
福岡	干潟部会	吉田司氏	鏡町あさり活動組織（熊本県） 徳田司氏、石澤修氏
	海の安全確保部会	益原寛文氏	勝本地区活動組織（長崎県） 土肥栄幸氏
	藻場部会	南里海児氏	外海地区活動組織（長崎県） 林実氏
	内水面部会	稲田善和氏	上桂川を守る会（京都府） 奥居正敏氏
	サンゴ礁部会	岩瀬文人氏	伊豆FNY活動組織（静岡県） 石川憲一氏

(3) 参加状況及び開催結果

参加状況は、表 2-1-5 に示すとおりであり、福岡会場が 183 名と最も多く、4 会場で 480 名が参加した。

各会場における議事録を資料編 5 に収録した。

表 2-1-5 参加状況

会場	出席者	藻場	干潟	内水面	海の安全	サンゴ礁	全体講習 (第 1 部)	全体講習 (第 2 部)
青森	55	40	—	—	14	—	55	—
東京	126	61	40	25	—	—	123	—
広島	116	43	55	36	19	—	62	90
福岡	183	119	50	30	49	18	99	167
合計	480	263	145	91	82	18	339	257



全体講習

全体講習

図 2-1-6(1) 講習会の開催状況（青森会場）



図 2-1-6(2) 講習会の開催状況 (東京会場)



第1部全体講習



藻場部会



海の安全部会



第2部全体講習



干潟部会



内水面部会



図 2-1-6(3) 講習会の開催状況（広島会場）



第 1 部全体講習



干潟部会



海の安全確保部会



第 2 部全体講習



図 2-1-6(4) 講習会の開催状況（福岡会場）

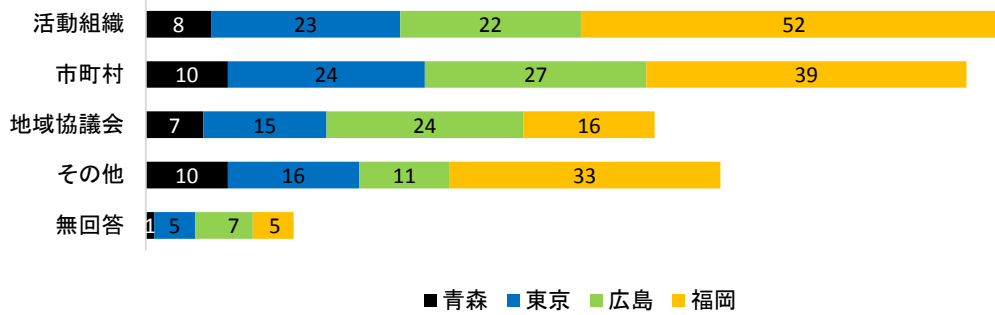
(4) アンケート結果

以下、各会場で実施したアンケート（図 2-1-2）の結果を示す。

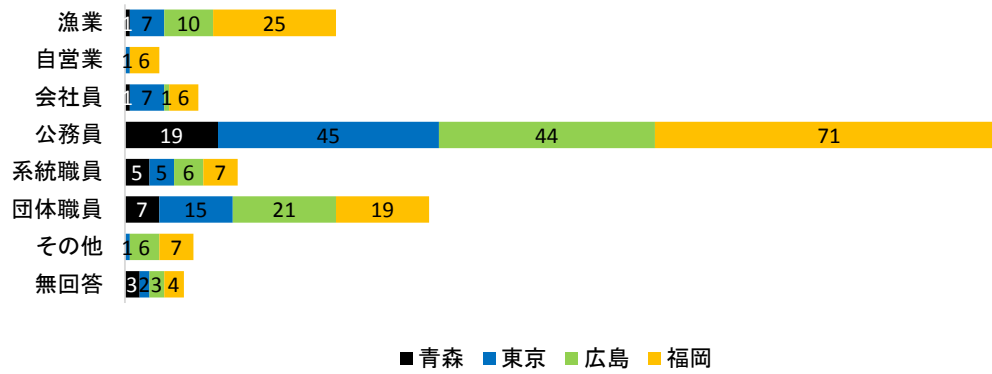
青森会場では参加者（事務局、関係団体、コーディネーター、事例報告者を除く）42 名のうち、36 件の回答を得た（回答率 85.7）。東京会場では参加者 99 名のうち、83 件の回答を得た（回答率 83.8%）。広島会場では参加者延べ 140 名のうち、91 件の回答を得た（回答率 65.0%）。福岡会場では参加者延べ 206 名のうち、145 件の回答を得た（回答率 70.4%）。

●参加者の所属・年齢・職業

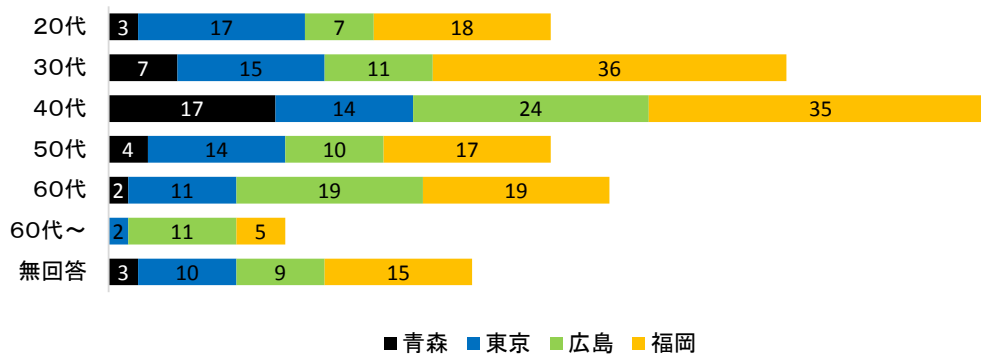
所属



職業

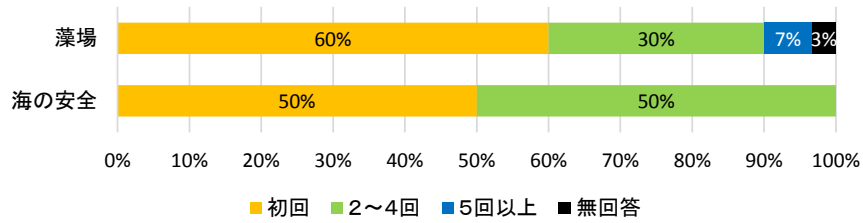


年齢

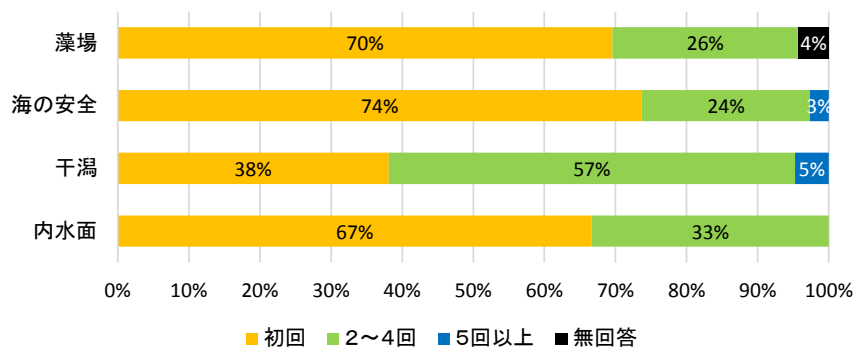


会場別参加回数

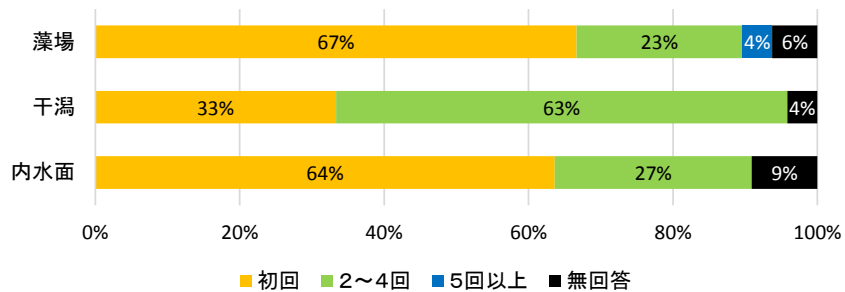
青森会場



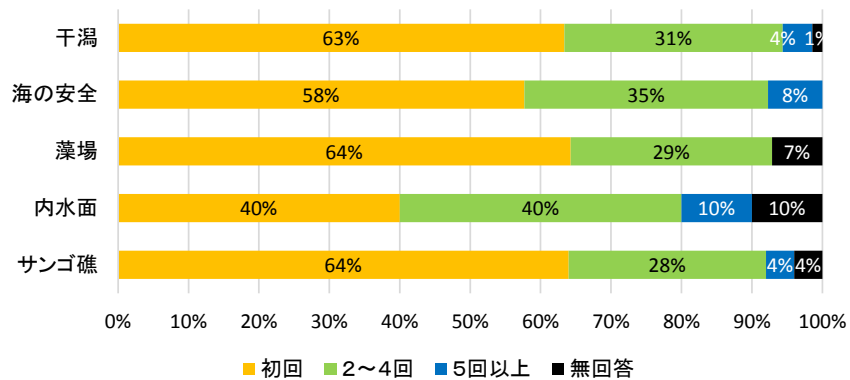
広島会場



東京会場



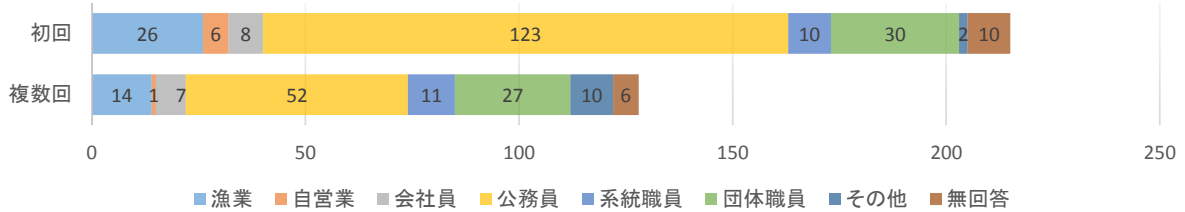
福岡会場



職業別参加回数

講習会の参加回数について参加者の職業別に集計した。

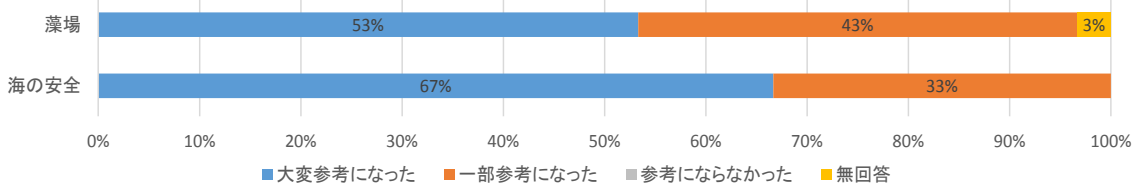
職業別の参加回数



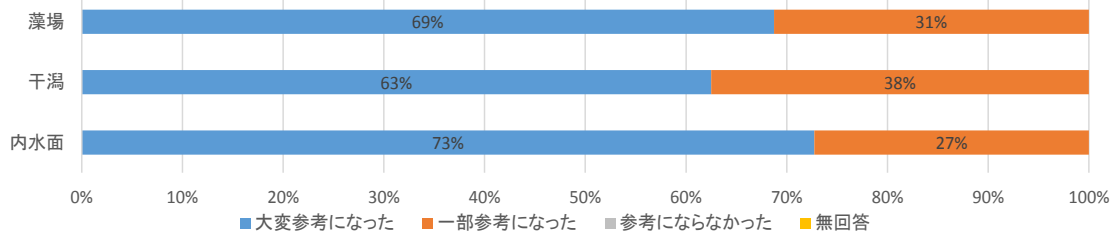
回答343件のうち、初回参加は215件で全体の62.7%を占める。また、講習会の参加が最も多い職業である公務員では、公務員の参加のうち初回の割合は69.5%となっている。

(1) 内容は今後の活動の参考になりましたか？

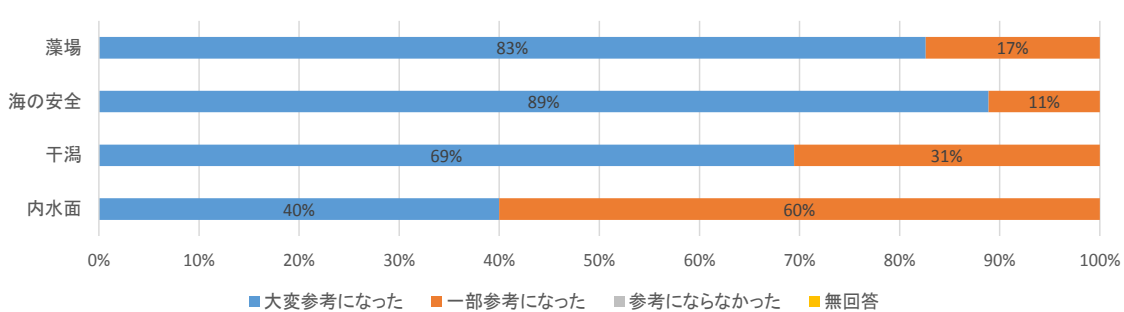
青森会場



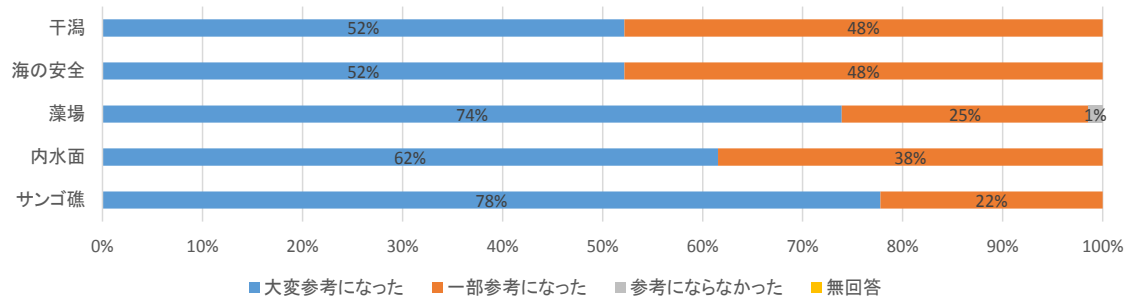
東京会場



広島会場



福岡会場

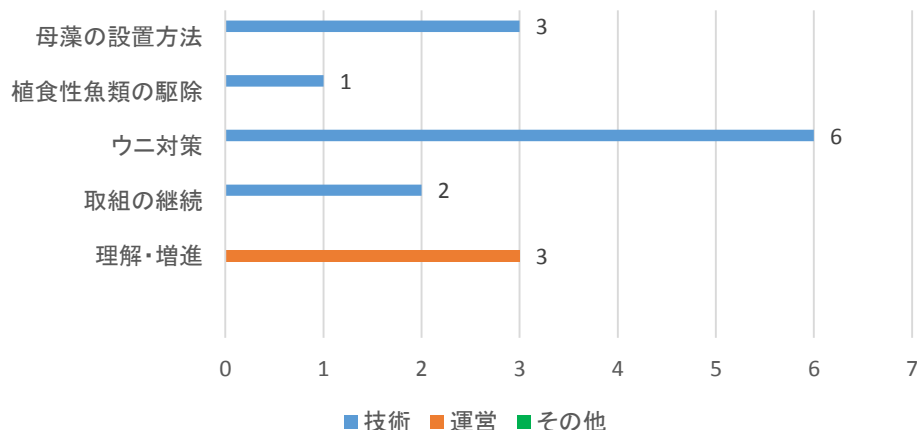


(2) 事例紹介と自組織の活動を比較して、足りない点や、今後、積極的に取り入れていくべきと感じた点、また、発信したい点等をお書きください。

【青森会場】

○藻場部会

藻場部会



①技術

<母藻の設置方法>

- ・スポアバックも検討したい
- ・縛り作業が不要なトウモロコシスポアバックは良いと思った
- ・海藻のタネ付けについて参考になった

<植食性魚類の駆除>

- ・魚類駆除の難しさ

<ウニ対策>

- ・潜水でのウニ駆除も検討したい
- ・1 haでウニ540キロ回収しても藻場が回復しない状況の厳しさを感じた
- ・ウニ駆除やモニタリングの工夫を自県でも活用したい

- ・磯焼け対策に様々なことを取り組んでいることが勉強できた。ウニフェンスというものを初めて知ったので詳しく勉強し、漁場で使えるか検討したい
- ・駆除したウニの活用など本事業で採用したウニを利用した取組など一歩先に進んだ内容の可能性を広げて欲しい
- ・ウニフェンスについて参考になった

<取組の継続>

- ・藻場の回復には長期の時間を要す、長く地道に続ける
- ・継続するために小規模から始めること

②運営

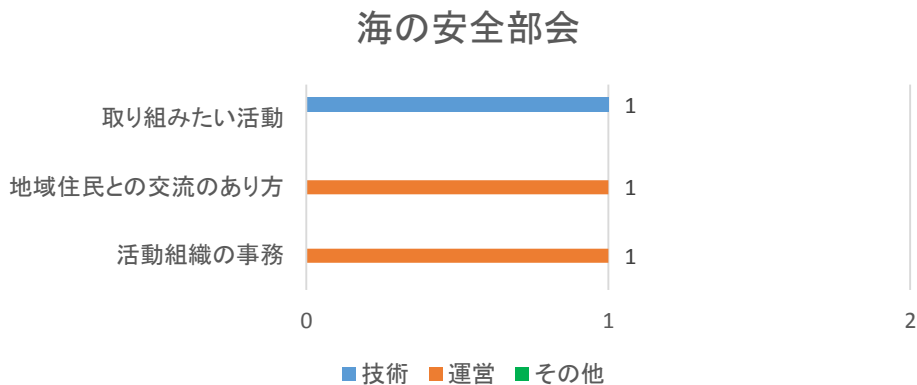
<国民への理解の増進>

- ・地域住民への理解・増進
- ・現場の活動は当たり前だが理解を求める活動については取り入れていくべきと感じた
- ・漁業者が講師となった講演を自組織のみならず町としても実施してみたい

③その他

なし

○海の安全部会



①技術

<取り組みたい活動>

- ・わからなかった事が理解できたので地元で出来るものやってみたい

②運営

<地域住民との交流のあり方>

- ・活動組織以外の方が取組に参加できるようにした方が良かった

<活動組織の事務>

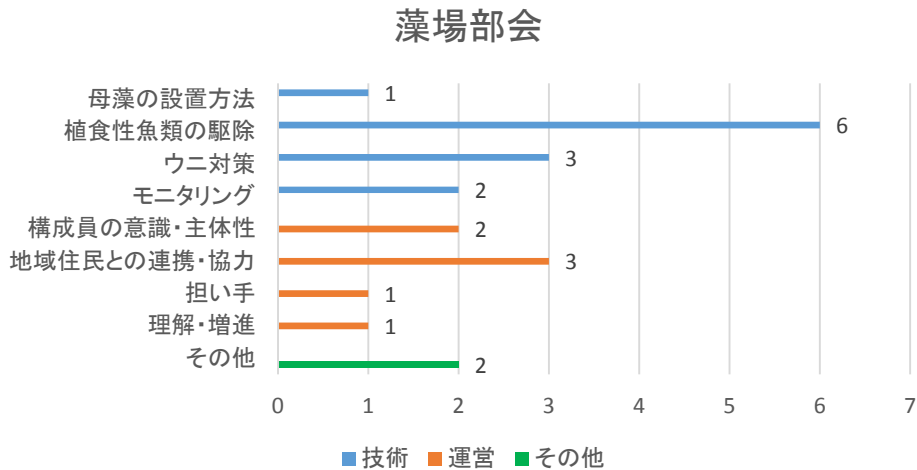
- ・かなりまじめに取り組んでいると感じた。又漁協がかなり負担を負っていると感じた

③その他

なし

【東京会場】

○藻場部会



①技術

＜母藻の設置方法＞

- ・水中ボンドを使った母藻の設置も考えてみる

＜植食性魚類の駆除＞

- ・魚類駆除の時期
- ・網目の大きさを変えて魚の駆除をする
- ・トラップで魚の捕獲をやってみたい
- ・今までウニ駆除のみであったので藻食性魚類の駆除も検討したい
- ・食害対策
- ・藻場の保全活動を行っている組織があるが、魚類の駆除を行っていないので参考となった

＜ウニ対策＞

- ・ガンガゼ駆除活動について事例をもっと聞きたい
- ・ウニ等食害生物の公高次的な利用
- ・カジメ石の設置と併せて食害防止柵を入れるなど足りない点が沢山あると感じた

＜モニタリング＞

- ・モニタリングを今より積極的に行う必要あり
- ・定期モニタリングの強化

②運営

＜構成員の意識・主体性＞

- ・自組織では漁業者の参加が少ない
- ・藻場保全の成果が出ず活動組織のモチベーションが下がり気味であるので他地区事例を参考にし

て伝えたい

＜地域住民との連携・協力＞

- ・組織としてのまとまりと地域での取組
- ・他地区と比べ地域の他機関との連携が足りない
- ・地元漁業者とより協力を強めて行く必要があると感じた

＜担い手＞

・活動する人の高齢化、担い手不足のため藻場保全に関心のあるダイバーなど外部との連携が必要。地元の抵抗、コーディネートが課題です

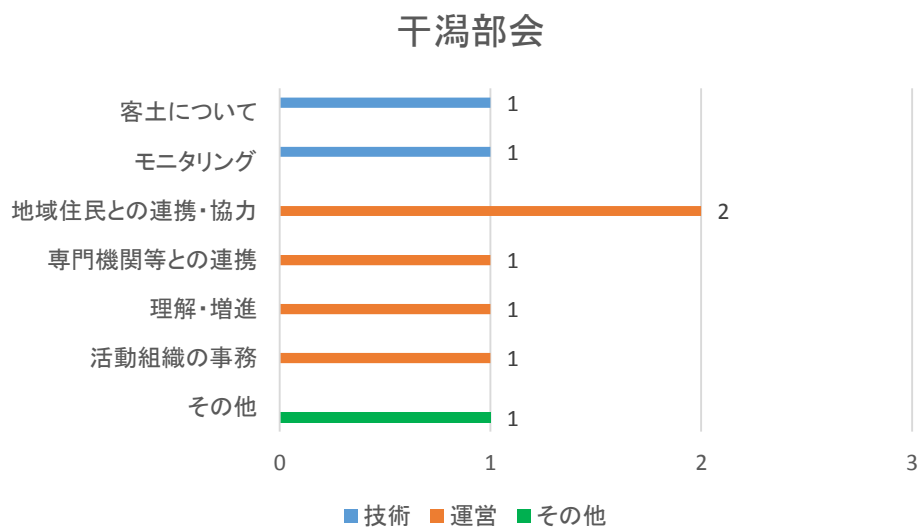
＜理解・増進＞

- ・より広く国民に理解を深める点

③その他

- ・藻場の減少などは食害の他に色々なファクターはあります。種組成や生理的な要因などがあるので様々な目線で見ると必要があると思います
- ・地域の理解を得るのが難しい。同じ漁業者でも漁業種類によって反対者もいる。海が変化してきており、生態系が変化しつつある。変化を受け入れるか維持に努めるのか。

○干潟部会



①技術

＜客土について＞

- ・船橋市の成功事例を参考に砕石覆砂を取り入れたい

＜モニタリング＞

- ・モニタリングについての考え方が大変参考になった持ち帰って共有する

②運営

＜地域住民との連携・協力＞

- ・一般市民との連携
 - ・漁業者以外との連携
- <専門機関等との連携>
- ・本県の取組には大学や企業等との連携が足りないと思った

<理解・増進>

- ・地域への発信

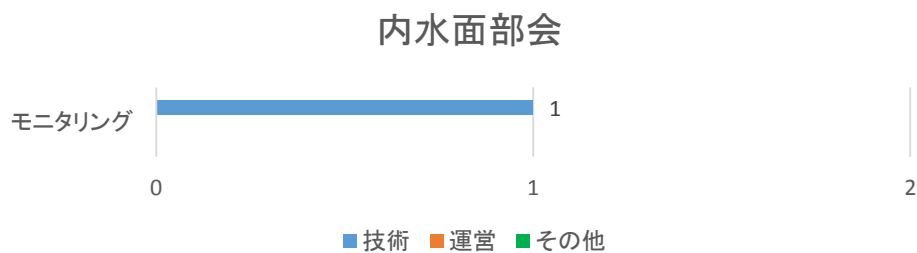
<活動組織の事務>

- ・記録の残し方等の事務テクニックなどもあればよい

③その他

- ・アサリメジャーの使い方
- ・当市の活動組織の中にもアサリを対象としている組織があるため参考としたい
- ・教育・学習活動を実施出来ていないので、テキスト等を参考に検討してもらってみたいと思った。
- ・ホトトギスマットの対策を知りたい

○内水面部会



①技術

<モニタリング>

- ・モニタリング箇所の見直し

②運営

なし

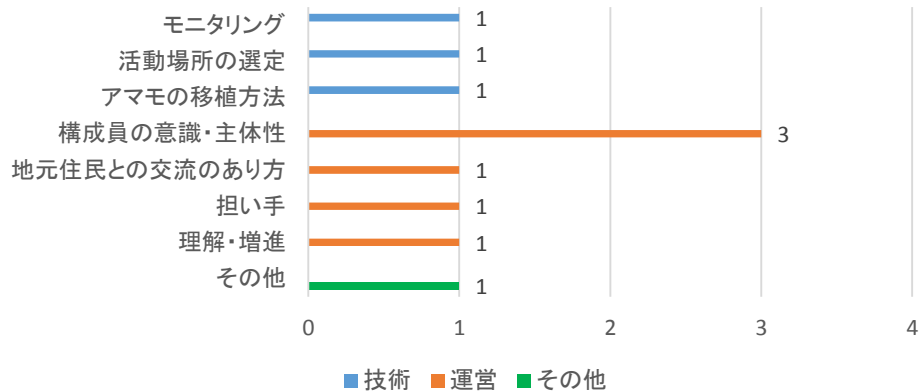
③その他

なし

【広島会場】

○藻場部会

藻場部会



①技術

<モニタリング>

- ・モニタリングの検証

<活動場所の選定>

- ・活動が順調でない場合、漁場にマッチした地域の成功事例を取り入れる必要がある

<アマモの移植方法>

・アマモをタネのまま土に植える発想に驚いた。試してみたいが砂場が少ないのでうちなりの方法を考えてみたい

②運営

<構成員の意識・主体性>

- ・構成員の長期的視点、意識の持ち方
- ・目的意識、やる気
- ・地道に継続していくこと

<地域住民との交流のあり方>

- ・周囲へのアピール、巻き込み方

<担い手>

- ・人材確保

<理解・増進>

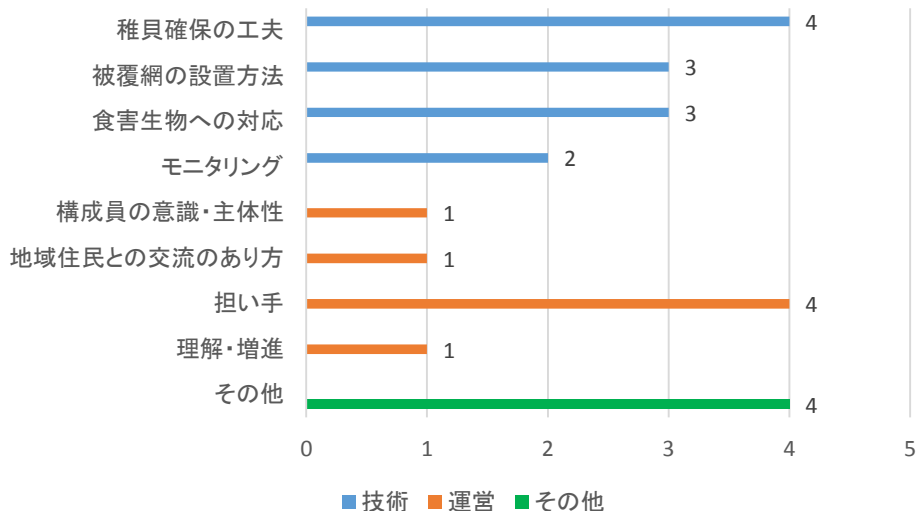
- ・教育・学習の実施

③その他

- ・アマモのことをもっと勉強してから取り組みたい

○干潟部会

干潟部会



①技術

< 稚貝確保の工夫 >

- ・大野方式アサリ採苗
- ・稚貝の確保

< 被覆網の設置方法 >

- ・大野方式の区割り
- ・網掛けの効果
- ・自組織は網掛けが目的になっている（増えた稚貝を会員に配るなど、会員のメリットが少ない）

< 食害生物への対応 >

・水中カメラによる食害魚の実写は感銘した。食害の状況を把握してから対策を練ることが大事と思う

- ・海中カメラ撮影
- ・食害対策

< モニタリング >

- ・エンドレスのモニタリングによる改善
- ・モニタリングによる資源調査

②運営

< 構成員の意識・主体性 >

- ・長期的視点、問題意識

< 地域住民との交流のあり方 >

- ・外部の人を巻き込んでいく点

< 担い手 >

- ・高齢者対策
- ・生産者の高齢化によるパワー不足
- ・人員確保の方法を改善する必要があると感じた。人員確保に成功している組織はある程度実績を積み重ねている共通点があると感じた。実績が全くない状況で人手を集めるのは難しいと思うのでその点を改善していきたい
- ・人集めの大変さは何処も変わらないと思いました

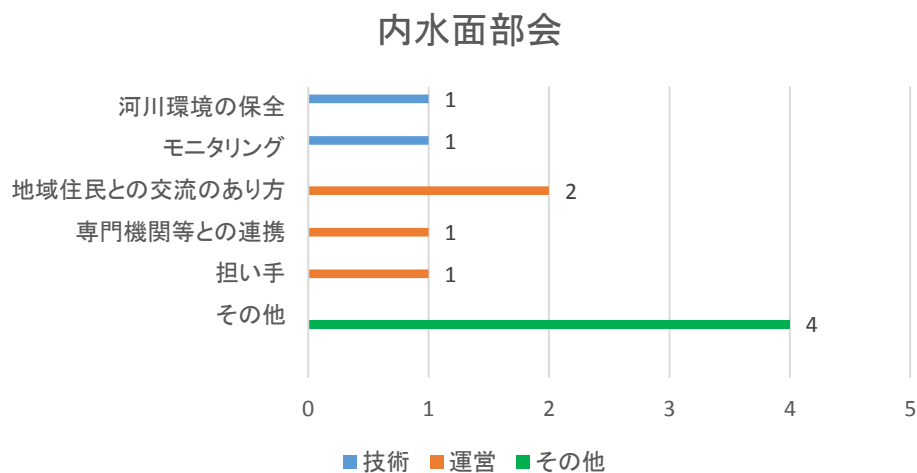
<理解・増進>

- ・教育・学習に対する取組

③その他

- ・アサリの環境への影響度の理解
- ・アサリメジャー
- ・大野の漁場のように網やロープにアオサやカキが大量に付着する生物を育む海にしないといけにと思いました。何も付着しない海ではアサリも育たない
- ・とにかく海をきれいにした

○内水面部会



①技術

<河川環境の保全>

- ・河川内清掃

<モニタリング>

- ・細かなデータ集積がなされている点を見習いたい

②運営

<地域住民との交流のあり方>

- ・地域住民がもっと参加できる工夫が必要だと思った
- ・事例紹介地域のようにもっと漁業者以外の参加者に呼びかけを行いたい

<専門機関等との連携>

- ・ダムとのもっと深い連携

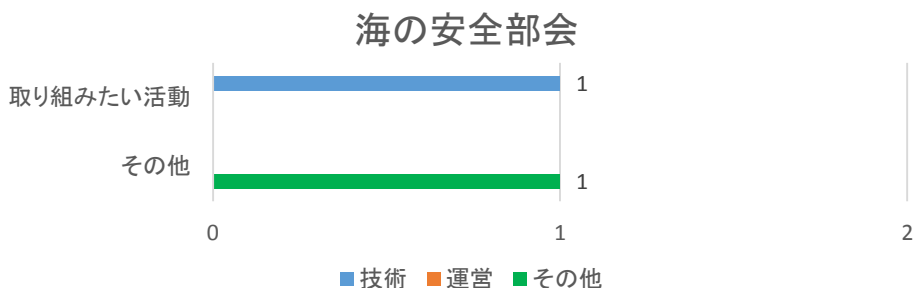
<担い手>

- ・若い人の参加を望んでいる。平筒沼をすばらしい沼、地方の宝とするため頑張りたい

③その他

- ・種苗放流について活動組織からの問い合わせがあるので地域協議会として内容をよく理解して可能であれば取り入れていきたい
- ・スライドの取り入れ、モデル的事業の現地見学、実践発表を増やす、事業採択河川の積極的な参加を指導する
- ・活動が多岐にわたっている。現在自己負担で行っている活動で本事業の対象となりそうなものが多くあると感じた
- ・活動実績資料に活動範囲や簡単な概要があるともう少しわかりやすい

○海の安全部会



①技術

<取り組みたい活動>

- ・無線機器の導入、海難救助等について検討したい

②運営

なし

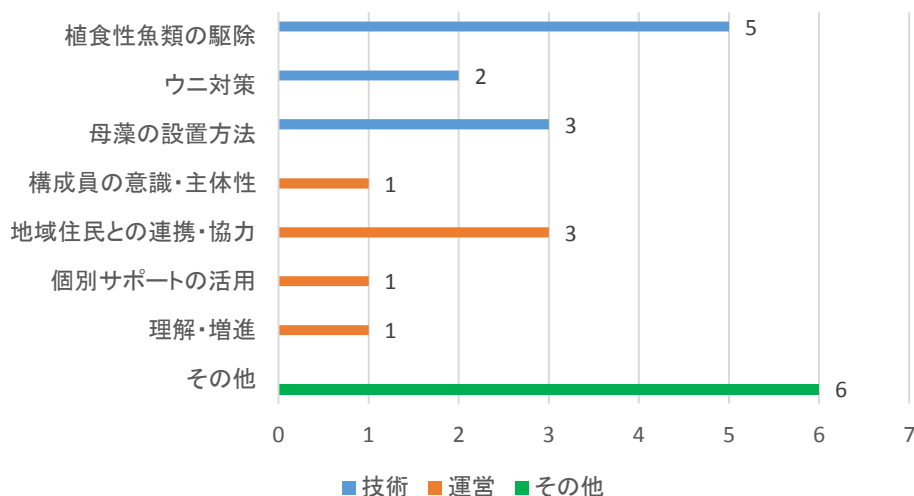
③その他

- ・活動組織を増加できる可能性を感じた

【福岡会場】

○藻場部会

藻場部会



①技術

<植食性魚類の駆除>

- ・植食性魚類の駆除方法について積極的に活動を行いたい。モニタリングについて確実にやりたい
- ・魚の食害対策も取り入れていくべきと感じた
- ・魚類の駆除もカンガゼ駆除と同様にやったほうがいいのかも
- ・スポアバックで種子をまくだけでなく魚類の食害対策など様々な要因を考え、取組内容を見直す必要があると感じた
- ・網駆除に改善の余地があることがわかった

<ウニ対策>

- ・ウニハードルを実施してみたい
- ・ウニハードル等活用

<母藻の設置方法>

- ・流れ藻キャッチャー、ストッカー、ブロックによる種苗の移植
- ・ウニ駆除は行っていたが母藻設置は行っていなかったなので今後積極的に取り入れて行こうと思う
- ・母藻防護ネットを実施したい

②運営

<構成員の意識・主体性>

- ・長崎大学との取組のきっかけがサポート専門家によることであった。管内の活動組織にも積極的に活用してほしいが後ろ向きなのが現状

<地域住民との連携・協力>

- ・学生との連携と外部への発信
- ・漁協・漁業者以外との連携
- ・漁業者以外の人々を巻き込むような発想と実績をつくっていききたい

<個別サポートの活用>

・漁業者、漁協職員だけでは限界があることに気づいた。サポート専門家のサポートを受けたいと思う

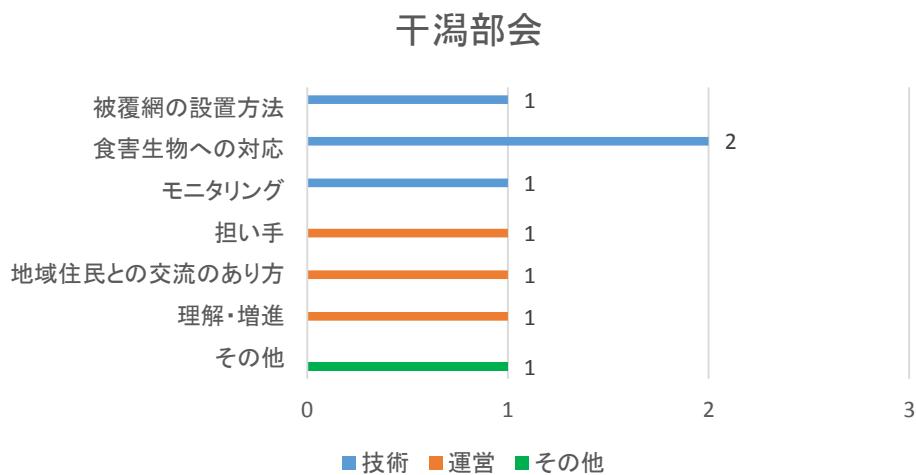
<理解・増進>

・若者を巻き込んだ活動をすることで漁村の取組を世間に強く PR 出来ることがわかった。藻場があるところにブロックを入れて採苗する方法を全ての活動組織や市に紹介したい

③その他

- ・活動日数が少ないと感じた
- ・藻場に関する知識向上に努めたい
- ・魚類を中心とした対策で、対策後に藻場がどうなったかがわからない
- ・藻場再生に向けて様々な取組を行っている活動組織が多いが広く手を出しすぎて効果が出づらい状況になっているのではないかと感じた
- ・自分の市町の分析が足りないと感じました
- ・毎年同じ活動をするだけでは意味がないと感じた。活動組織と話し合いながらよい活動にしていかなければならないと思った

○干潟部会



①技術

<被覆網の設置方法>

- ・被覆網のメンテナンス

<食害生物への対応>

- ・食害種を食すことは効果的だと思った
- ・食害の除去と食用

<モニタリング>

- ・モニタリング、各活動の手法（効率化、省人数化）が参考になった

②運営

<担い手>

・高齢化が進んでいることは同じであるが、それを理由に市内組織は消極的な取組がみられる。高齢化が進む中で積極的な取組事例として情報展開したいと思った

<地域住民との交流のあり方>

・活動の周知、地域住民の理解

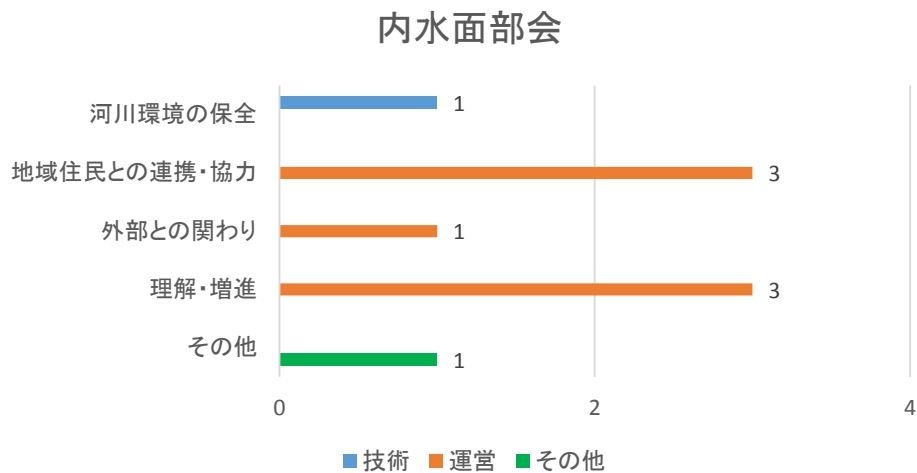
<理解・増進>

・地域や行政、あるいはメディア（TV局）とともに一緒に巻き込んで取り組んでいきたいと思った

③その他

・食害対策、海底耕耘、清掃など強化してほしい

○内水面部会



①技術

<河川環境の保全>

・清掃活動について参考になった

②運営

<地域住民との連携・協力>

- ・自治会や学校等に活動組織に入っていただく
- ・地域住民との連携
- ・地域での連携

<外部との関わり>

- ・県外や外部の人と取り組むこと

<理解・増進>

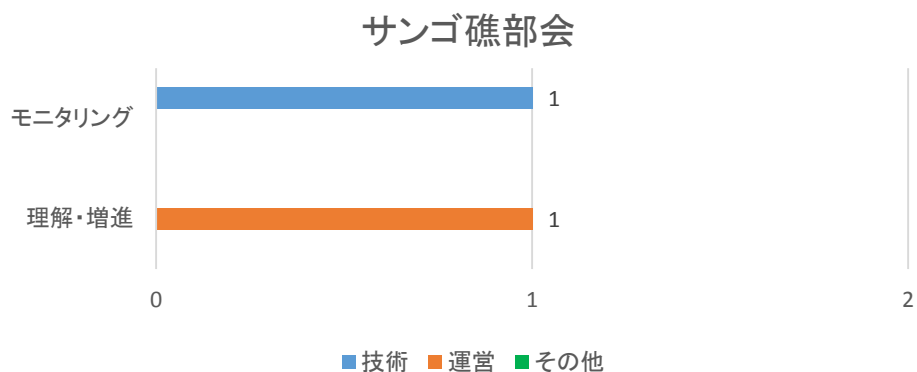
- ・活動をPRすることの重要性
- ・川について子供、大人にもっと知ってもらいたい

・教育活動の推進

③その他

なし

○サンゴ礁部会



①技術

<モニタリング>

・データの取り方を参考にしたい

②運営

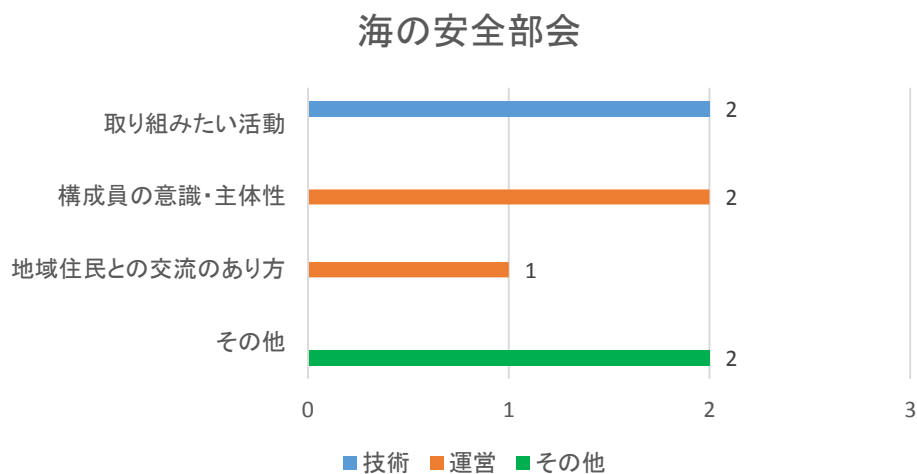
<理解・増進>

・広報の方法を参考にしたい

③その他

なし

○海の安全部会



①技術

<取り組みたい活動>

- ・海上保安部に船を出してもらい消火訓練が出来れば良いと思う。保安部が離れているので協力してもらえるかが課題
- ・海難救助訓練について実施していければと思う

②運営

<構成員の意識・主体性>

- ・漁協と漁業者との関係をもっと密にしていきたいと感じた
- ・事例紹介組織では事業の意味、目的を認識されて活動している印象

<地域住民との交流のあり方>

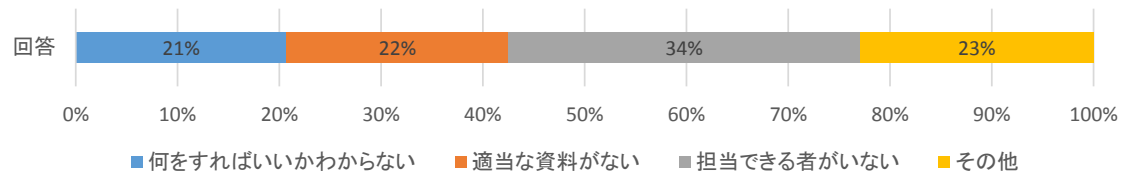
- ・地域での共通認識が必要

③その他

- ・漁協事務の負担が大きい。手数料が少ない
- ・本県では外国船の監視は難しいと感じる

(3)

①理解・増進（教育・学習活動）を行っていない活動組織は理由をお書きください。（複数回答可）

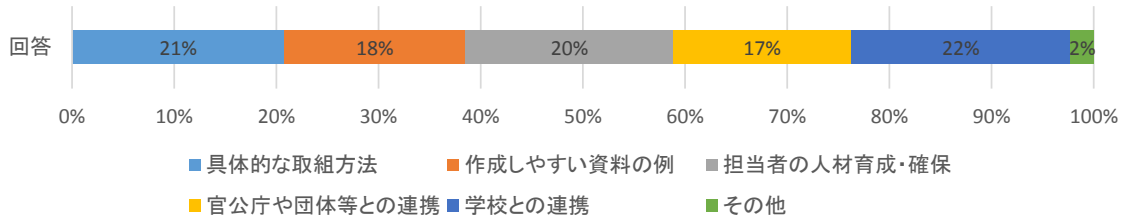


その他の理由は以下のとおり。

- ・保全の活動に関しては教育していないが、水産関係の学習活動を地域の学校で行っているため
- ・子どもが地区にいない
- ・小中学校が近くにない
- ・事業の実施、準備を優先しているため
- ・自県では出来ない
- ・水産多面的事業としては行っていないが、活動を組織を含む漁協で行っている
- ・要望がない
- ・災害復旧のための活動組織であり、余裕がなかったため
- ・日程調整等が難しかったため。また担当職員が少ないため
- ・少人数でしか出来ない
- ・地方公共団体の補助金の対象になっていない
- ・実施した場合。地方公共団体の交付金対象としていないため

- ・以前は魚食普及授業を行っていたが、事業対象外となったため実施していない

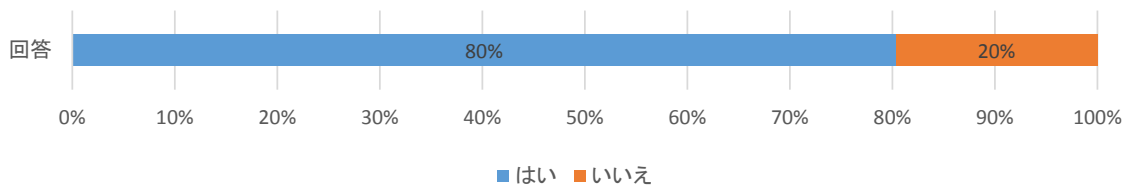
②理解・増進のために必要と考える事項をお書きください。



その他の事項は以下のとおり。

- ・漁協との調整
- ・興味・理解させやすい取組
- ・県庁の考え方

③本日の講習会で紹介のあった教材を取り入れて、今後、理解・増進活動に取組を行いますか？



はいと回答した理由など

- ・各地区で出来ること出来ないことがあるので検討が必要
- ・浜のためになると思う
- ・素晴らしい活動を行っていると思う。どういう取組が出来るか検討していく
- ・将来的に検討したい
- ・行政に出来ることを考えたい
- ・紙芝居を利用していきたい
- ・勉強材料にしたい
- ・様々な分野の方と連携し課題等を共有し合うことが大切
- ・担当できる人の育成またはサポートが必要
- ・プラスとなることは参考にしたい
- ・わかりやすく説明出来ると思う

いいえと回答した理由や改善点など

- ・関係組織との調整を検討
- ・組織数が多く統一した考えの整理が必要で、整理後に取り組みたい
- ・行政としては実施したが、活動組織と地元の学校の考えを聞くことからとなる
- ・漁協の出前授業の範疇である

- ・市が主体となることは考えていない
- ・人手不足のため
- ・自組織の活動にあった取組を行っていく
- ・補助金の対象になっていない
- ・市町村は人が足りず行いたくても難しく、また活動組織にお願いするのも難しい
- ・交付金の対象となっていないため。他事業で実施している事例はある
- ・自組織にあうか検討したい

2-2. サポート専門家による技術的指導

本事業に取り組む活動組織等を対象として、サポート専門家による技術的な指導を実施したほか、国民向けの参考資料の作成を行った。

(1) サポート専門家の登録

活動組織の指導にあたるサポート専門家の条件は、対策事業に対する豊富な経験や実績を有し、多くの活動組織のニーズに十分対応できる技術を有する者とした。具体的には、平成21年度～24年度環境生態系保全対策及び平成25年度～30年度水産多面的機能発揮対策において登録実績のある者に加えて、登録専門家、有識者（検討委員等）、地域協議会からの推薦があった者とした。登録の有効期間は、登録日から令和2年3月末までとし、登録にあたっては、表2-2-1に示す書式を用意した。

活動組織のニーズは様々であるため、サポート専門家の専門分野を表2-2-2のとおり分類し、可能な限り広範なサポートができるよう務め、常時派遣が可能な体制を整えた。

今年度登録したサポート専門家は、表2-2-3のとおりであり、計71名を登録し、うち、藻場の専門家が50名、干潟等が37名、サンゴ礁が16名、河川・湖沼が18名、教育・学習が17名、ヨシ帯と清掃活動がそれぞれ1名であった。

表2-2-1 サポート専門家登録にあたって整備した書類

種類	内容	備考
専門家登録実施規定	専門家登録の要件と専門家および登録者の責務を規定（図2-3-1参照）	
継続登録申請書	平成25年度以降の前身事業で登録実績のある者が提出	
新規登録申請書	令和元年度から新たに登録する者が提出 （氏名、現住所、勤務先、連絡先、専門分野、経歴等を記載）	推薦書を添付
専門家登録通知書	全国漁業協同組合連合会、全国内水面漁業協同組合連合会の連名で通知	

表 2-2-2 サポート専門家の専門分野

分野	対応する活動項目	備考
藻場	藻場の保全・水域の監視	海面
干潟・浅場	干潟等の保全・水域の監視	海面・内水面
ヨシ帯	ヨシ帯の保全	内水面
サンゴ礁	サンゴ礁の保全・水域の監視	海面
河川・湖沼	内水面生態系の維持・保全・改善	内水面
清掃活動	漂流、漂着物、堆積物処理・水域の監視	海面
教育・学習	上記に関連し多面的機能の理解・増進につながる 教育・学習に資する取組	海面・内水面

※水域の監視（海洋生物・環境の監視）、種苗法流については、上記各分野に含まれるものとした。

平成 31 年度 多面的機能発揮活動サポート専門家登録制度実施規程

(目的)

第 1 条 多面的機能発揮活動サポート専門家登録制度（以下「登録制度」という。）は、活動組織が行う「海の安全確保」、「環境・生態系保全」及びこれらの活動効果を高める「教育・学習」に係る活動（以下、「多面的機能発揮活動」という）をサポートする人材情報を登録するとともに、登録された人材の協力を得ることにより、活動組織による効果的、効率的な活動を推進することを目的とする。

(実施主体)

第 2 条 本制度の実施主体は、全国漁業協同組合連合会（以下、J F 全漁連という）及び全国内水面漁業協同組合連合会（以下、全内漁連という）とする。

(専門家の区分)

第 3 条 多面的機能発揮活動サポート専門家は、活動組織が抱える技術的な課題をサポートする「技術サポート専門家」と、事業実施に伴う各種事務処理をサポートする「運営サポート専門家」に区分され、それぞれが独立した資格として登録される。

(技術サポート専門家の役割)

第 4 条 技術サポート専門家は、活動組織が多面的機能発揮活動を実施していく過程で生じる問題に対して技術的なサポートを行うものであり、次に掲げる役割を担うこととする。

- 一 多面的機能発揮活動の計画づくりに関するサポート
- 二 多面的機能発揮活動の手法に関するサポート
- 三 多面的機能発揮活動に係る調査等に関するサポート
- 四 報告書の作成、一般市民の参加・情報公開などの運営・広報に関するサポート

(運営サポート専門家の役割)

第 5 条 運営サポート専門家は、活動組織が多面的機能発揮活動を実施していく過程で生じる問題に対して事務的なサポートを行うものであり、次に掲げる役割を担うこととする。

- 一 関係機関との調整に関するサポート
- 二 書類の整備状況の確認及び指導

(技術サポート専門家の登録要件)

第 6 条 技術サポート専門家は、登録を受けるために、次の要件を備えていなければならない。

- 一 多面的機能発揮活動の主旨をよく理解し、全国の活動組織が行う多面的機能発揮活動への協力の意思がある、わが国在住の個人であること。
- 二 「海の安全確保」、「環境・生態系保全」、「教育・学習」のいずれかの活動項目のうち、一項目以上の専門的な知識を有していること。なお、「環境・生態系保全」については、藻場・干潟・浅場、サンゴ礁、ヨシ帯、河川・湖沼環境、清掃活動のいずれかの専門知識を有すること。

図 2-2-1(1) サポート専門家登録実施規定(1)

- 三 上記の多面的機能発揮活動に係わる業務について、十分な実務経験を有すること。
- 四 活動組織の要望及び当会からの派遣依頼に応じ、現地を訪問し、活動組織への技術的サポートを行うことが可能であること。

(運営サポート専門家の登録要件)

- 第7条 運営サポート専門家は、登録を受けるために、次の要件を備えていなければならない。
- 一 多面的機能発揮活動の主旨をよく理解し、全国の活動組織が行う多面的機能発揮活動への協力の意思がある、わが国在住の個人であること。
 - 二 多面的機能発揮活動の事業実施に伴う書類作成や事務処理に精通していること、または運営事務に係る所定の講習を受講していること。
 - 三 活動組織等の要望及びJF全漁連及び全内漁連からの派遣依頼に応じ、現地を訪問し、活動組織への事務的サポートを行うことが可能であること。

(専門家の責務)

- 第8条 サポート専門家は、次に掲げる責務を有する。
- 一 水産多面的機能に関わる専門的な知識、技術の研鑽に努めること。
 - 二 常に活動組織の視点に立ったサポートに努めること。
 - 三 活動組織へのサポート実施後は、指導の内容等を取りまとめ、海面の活動組織についてはJF全漁連に、内水面の活動組織については全内漁連に、サポート実施後所定の様式により報告すること。
 - 四 サポート活動により知り得た情報等を、他人に漏えいしてはならない。
 - 五 野外作業においては、ヘルメットやライフジャケット等の着用など、十分な安全対策を講ずるとともに、潜水など危険を伴うような活動を行う場合には保険に加入すること。

(登録の申請)

- 第9条 登録制度に登録をしようとする者（以下、「申請者」という。）は、多面的機能発揮活動サポート専門家登録書（様式第1号）をJF全漁連会長及び全内漁連会長に提出しなければならない。
- 2 申請者のうち、平成25年度～平成27年度 水産多面的機能発揮活動サポート推進事業または平成28年度～30年度 水産多面的機能発揮対策支援委託事業においてサポート専門家登録を行った専門家は、「様式第3号 技術サポート専門家登録更新申請書」及び「様式第4号 運営サポート専門家登録更新申請書」の提出に替えることができる。
 - 3 登録済みのサポート専門家等による推薦を得た場合には、指定した期間に関わらず申請できるものとする。

(登録の承認)

- 第10条 多面的機能発揮活動サポート専門家の登録は、JF全漁連及び全内漁連において実施し、次に掲げる事項について検討、審査する。なお、登録にあたり、必要に応じて水産庁または有識者等の助言を求めることとする。

図 2-2-1(2) サポート専門家登録実施規定(2)

- (1) 申請書の人材情報の登録に関すること。
 - (2) 登録された人材情報（以下、「登録情報」という。）の登録の取消し及び登録情報の抹消に関すること。
- 2 平成 25 年度～平成 30 年度に多面的機能発揮活動サポート専門家の登録申請を行った者については、前項の規定によらず、登録することができるものとする。

（登録及び通知、登録証の発行）

- 第 11 条 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、人材情報を登録すべきと認められた者について、速やかに登録申請書に基づき人材情報を登録するとともに、申請者に人材情報を登録した旨を「様式第 1 号の 2 技術サポート専門家登録決定通知書」及び「様式第 1 号の 3 運営サポート専門家登録決定通知書」により通知する。
- 2 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、前項の規定による登録を受けた者（以下「登録者」という。）について、サポート専門家登録証を発行する。
- 3 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、第 10 条第 1 項の規定において人材情報を登録すべきでない旨の決定を受けた者について、非登録通知書（様式第 1 号の 4）により、その理由を付して申請者に通知する。

（登録内容の変更）

- 第 12 条 登録者は、登録内容に変更が生じた場合は、すみやかに J F 全漁連会長及び全内漁連会長に登録情報変更申請書（以下、「変更申請書」という。）（様式第 2 号）により登録情報の変更を申請しなければならない。

（登録者の活用）

- 第 13 条 J F 全漁連及び全内漁連は、各活動組織の求めに応じ、地域特性や活動組織の要望を勘案した上で適切な人材を紹介し、登録者の活用に努めなければならない。

（登録の期間）

- 第 14 条 登録者の登録の期間は、第 11 条第 1 項の規定により登録をした日から 2020 年 3 月 24 日までとする。

（登録の更新）

- 第 15 条 前条の規定による登録者の登録の期間の満了時には、希望等に応じて登録の更新を行うことができる。

（登録の取り消し）

- 第 16 条 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、登録制度の適正な運営に支障を来すと認められる場合、あるいは、登録者が第 8 条の規定による専門家の責務に反する行為等が認められる場合には、登録を取り消すことができる。
- 2 J F 全漁連会長及び全内漁連会長は、前項の規定により登録を取り消したときは、取消しを受けた者に対し、登録抹消通知書（様式第 5 号）により、その理由を付して通知

図 2-2-1 (3) サポート専門家登録実施規定(3)

しなければならない。

- 3 取消しを受けた者は、すみやかに専門家登録証を J F 全漁連会長もしくは全内漁連会長に返却しなければならない。

(個人情報の保護)

第 17 条 本規定の実施主体である J F 全漁連及び全内漁連は、個人情報の保護に関する法律に基づき、第 9 条に掲げる登録の申請によって得られた個人情報を、本規定が定める目的の範囲内で適切に管理、使用し、その他の目的で使用してはならない。

(庶務)

第 18 条 登録制度の庶務は、J F 全漁連及び全内漁連において処理する。

(その他)

第 19 条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、J F 全漁連会長及び全内漁連会長が別に定める。

附則

- 1 この規程は、2019 年 4 月 3 日から施行する。

図 2-2-1(4) サポート専門家登録実施規定(4)

表 2-2-3(1) 平成 31 年度登録専門家(1)

I D	氏 名	現住所 (都道府県)	勤務先名称	技術 サポ-ト	運営 サポ-ト	専門分野							
						藻場	干潟 浅場	サン ゴ礁	ヨシ 帯	河川 湖沼	清掃 活動	教育 学習	
1	南里 海児	福岡県	(株)ベントス	●	●	○	○						
2	鈴木 信也	神奈川県	(株)日本海洋生物研究所	●			○						
3	吉田 稔	沖縄県	(有)海游	●		○	○	○					
4	中野 義勝	沖縄県	国立大学法人琉球大学熱帯生物 研究センター瀬底研究施設	●				○					
5	藤原 秀一	沖縄県	いであ(株)沖縄支社	●				○					
6	吉田 司	兵庫県	(株)シャトー海洋調査	●	●	○	○						
7	中村 憲司	兵庫県	(株)シャトー海洋調査	●	●	○	○						
8	中嶋 泰	東京都	オフィスMOBA	●	●	○							
9	伊藤 陽	福岡県	(株)三洋コンサルタント	●		○	○						
10	岡地 賢	神奈川県	(有)コーラルクエスト	●				○					
11	田中 和弘	東京都	(株)水産環境	●	●	○	○			○			
12	田中 賢治	島根県	国土防災技術(株)	●		○							
13	田所 悟	神奈川県	(有)自然環境調査	●		○	○	○					
14	藤田 孝康	神奈川県	日本ミクニヤ(株)	●		○	○						
15	安藤 亘	埼玉県	海中景観研究所	●	●	○	○	○	○				○
16	渡辺 耕平	宮崎県	西日本オーシャンリサーチ	●		○		○					
17	長田 智史	沖縄県	一般財団法人 沖縄県環境科学セ ンター	●		○	○	○					○
18	太田 雅隆	千葉県	(公財)海洋生物環境研究所	●	●	○	○						
19	三部 碧	沖縄県	一般財団法人 沖縄県環境科学セ ンター	●		○	○	○					
20	野田 三千代	静岡県	海藻おしば協会	●		○							○
21	木村 秀二	埼玉県	(株)漁協経営センター		●								
22	藤田 大介	神奈川県	東京海洋大学 海洋科学部 准教 授	●		○							
23	西田 一豊	兵庫県	西田経営労務事務所		●								
24	三富 龍一	神奈川県		●		○	○						○
25	益原 寛文	福岡県	益原技術士事務所	●	●	○	○	○					
26	岩瀬 文人	高知県	高知生物多様性ネットワーク	●		○		○					○
27	反田 實	兵庫県	兵庫県農林水産技術センター水産 技術センター	●		○	○						
28	斉藤 政幸	埼玉県	(株)東京久栄	●			○						
29	石川 竜子	東京都	海洋プランニング(株)	●		○							
30	椎名 弘	千葉県	海洋プランニング(株)	●		○							

表 2-2-3(2) 平成 31 年度登録専門家(2)

I D	氏 名	現住所 (都道府県)	勤務先名称	技術 株*ト	運営 株*ト	専門分野						
						藻場	干潟 浅場	サン ゴ礁	ヨシ 帯	河川 湖沼	清掃 活動	教育 学習
31	芳我 幸雄	埼玉県		●	●	○	○			○		
32	永田 昭廣	兵庫県	滄海生物環境サポート	●		○	○	○				
33	鈴木 龍児	福岡県	環境テクノス(株)	●		○	○			○		
34	石田 和敬	福岡県	国際航業株式会社	●		○	○	○				
35	秋本 泰	千葉県	(財)海洋生物環境研究所	●		○	○	○				
36	工藤 孝浩	神奈川県	神奈川県水産技術センター内水面 試験場	●		○	○					
37	青山 智	岡山県	海洋建設(株)	●		○	○					
38	片山 貴之	岡山県	海洋建設(株)	●	●	○	○			○		
39	片山 敬一	岡山県	海洋建設(株)	●		○	○					
40	穴口 裕司	岡山県	海洋建設(株)	●		○	○					
41	三橋 公夫	徳島県	ニタコンサルタント株式会社	●		○						
42	中野 輝昭	高知県		●		○						
43	川畑 友和	鹿児島県	山川地区藻場保全会	●	●	○						○
44	細木 光夫	高知県	(有)エコシステム	●		○	○			○		
45	佐藤 達也	三重県	ざっこClub	●		○	○			○		○
46	中尾 博己	北海道	オフィス水産振興計画	●		○	○					○
47	吉永 聡	広島県	(株)水土舎	●		○	○			○		○
48	岩井 克巳	大阪府	日本ミクニヤ(株)	●		○	○			○	○	○
49	河原 美也子	大阪府	日本ミクニヤ(株)	●								○
50	大浦 佳代	東京都	海と漁の体験研究所	●	●							○
51	宮川 椋	北海道	(公社)北海道栽培漁業振興公社	●		○	○					
52	山川 紘	神奈川県	東京海洋大学 客員研究員	●		○	○					
53	福島 陽子	静岡県	静岡県立焼津水産高等学校	●		○						○
54	大塚 英治	北海道	(株)沿海調査エンジニアリング	●		○						○
55	犬東 ゆかり	長崎県	(有)丸徳水産	●		○						
56	酒井 章	山口県	山口県漁協柳井支店	●		○						○
57	岡村 俊邦	北海道	NPO法人 近自然森づくり協会	●						○		
58	桑原 久実	千葉県	国立研究開発法人 水産研究・教 育機構 水産工学研究所	●		○	○					
59	鹿熊 信一郎	沖縄県	沖縄県海洋深層水研究所	●				○				
60	柿野 純	千葉県	(株)東京久栄	●			○					

表 2-2-3(2) 平成 31 年度登録専門家(3)

I D	氏 名	現住所 (都道府県)	勤務先名称	技術 サポ ート	運営 サポ ート	専門分野							
						藻場	干潟 浅場	サン ゴ礁	ヨシ 帯	河川 湖沼	清掃 活動	教育 学習	
61	藤田 大介	神奈川県	東京海洋大学 海洋科学部 准教授	●		○							
62	樋田 陽治	山形県	元 山形県内水面漁業協同組合連 合会	●						○			
63	高橋 清孝	宮城県	(一社)漁業情報サービスセンター 東北出張所	●						○			
64	吉沢 和具	群馬県	元 群馬県漁業協同組合連合会専 務理事	●									
65	浅枝 隆	埼玉県	埼玉大学大学院理工学研究科 教 授	●						○		○	
66	林 紀男	千葉県	千葉県立中央博物館 主任上席研 究員	●						○			
67	柵瀬 信夫	神奈川県	鹿島建設(株) 環境本部	●		○	○	○		○			○
68	桐生 透	長野県	元山梨県水産技術センター 特別 研究員	●						○			
69	藤岡 康弘	滋賀県	滋賀県水産試験場 専門員	●						○			
70	崎長 威志	広島県	広島県内水面漁業協同組合 連合会 参与	●						○			
71	稲田 善和	福岡県	九州・水生生物研究所 所長	●						○			

(2) サポート専門家による指導と参考資料の作成

サポート専門家を派遣する活動組織は、以下の要領で実施した。

表 2-2-4 専門家派遣の種類と活動組織の選定方法

個別サポート	派遣要請のあった活動組織（現地指導）、地域協議会（研修会など）
ヒアリング	自己評価、モニタリング結果、アンケート結果等から任意に抽出した活動組織

個別サポートについては、要望を精査し、活動組織の技術的なレベルアップに寄与すると判断された場合に、適任の専門家を選出した上で現地に派遣した。近隣の地区でも同じような相談事がある場合には、地域協議会と調整し、研修会形式にするなど、活動組織を集約して効率化を図った。

ヒアリングについては、全国を網羅するよう、地域協議会と調整して対象組織を選定し、主として活動実態の把握と優良事例の抽出及び国民への情報提供に資する資料（活動組織データシート）の作成を目的に派遣した。

① 個別サポート

要望に応じて指導した活動組織数は延べ 149 組織であり、うち、96 組織に対し、現地を訪問した個別指導を、53 組織（4 会場）に対し研修会形式でサポートを行った。149 組織のうち、142 組織に技術的なサポートを、7 組織に運営面（書類の確認等）のサポートを行った。

現地の要望に基づき指導した活動組織と担当専門家を表 2-2-5 に、個別指導の内訳を

図 2-2-2 に示した。技術面の指導のうち、藻場のモニタリング・保全活動に関する指導が最も多く、次いで内水面のモニタリング・保全活動に関する指導、藻場の計画策定に関する指導が多かった。

各サポート専門家は、指導実施後に所定の様式による報告書を作成し、海面の活動組織については JF 全漁連に、内水面の活動組織については全内漁連にそれぞれ提出した。サポート専門家による個別サポート報告書を資料編 6 に収録した。

表 2-2-5 (1) 個別サポート実施活動組織 (1)

No.	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	専門家氏名	訪問月日	種別	内容	形式	
1	北海道	ふるびら海づくり推進協議会 余別海HUGくみたい	宮川 棕	9/5、6	技術	藻場	個別指導	
2			安藤 亘	10/4	技術	藻場	個別指導	
3			安藤 亘・岡村俊邦	10/31	技術	藻場	個別指導	
4			柵瀬 信夫	11/5	技術	藻場	個別指導	
5			柵瀬 信夫	11/6	技術	藻場	個別指導	
6	青森県	小川原湖地区漁場保全の会	藤田 孝康	6/12	技術	干潟	個別指導	
7			藤田 孝康	9/30	技術	干潟	個別指導	
8	山形県	遊佐町海づくりの会	藤田 孝康	5/23	技術	藻場	個別指導	
9	千葉県	市川市漁協活動グループ	桑原久美・柿野純	6/20	技術	藻場	個別指導	
10	神奈川県	江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト	田中和弘	5/11、12	技術	藻場	個別指導	
11			田中和弘	7/13	技術	藻場	個別指導	
12			田中和弘	10/26	技術	藻場	個別指導	
13			田中和弘	11/16、17	技術	藻場	個別指導	
14			鎌倉漁業協同組合と海のSDGsを実行する会	太田雅隆	10/28	技術	藻場	個別指導
15	富山県	富山市水辺をきれいにする会	田中和弘	8/8	技術	種苗放流	個別指導	
16		射水市豊かな海を愛する会	野田三千代	11/27	技術	藻場	個別指導	
17	石川県	輪島の里海を守る会	椎名弘・田中和弘	6/1、2、5	技術	藻場	個別指導	
18	福井県	小浜市海のゆりかごを育む会	片山貴之	11/12	技術	藻場	個別指導	
19		崎生態系保全活動グループ	JF全漁連	2/27、28	運営	事務処理	個別指導	
20		安島マリンプロジェクト						
21		浜地の里海を育てる会						
22		米ヶ脇里海を守る会						
23		梶生態系保全活動グループ						
24		勝山九頭竜川環境ネットワーク						
25	静岡県	伊豆FNY活動組織	田中和弘、JF全漁連	10/15	技術	事務処理 モニタリング	研修会	
26	南伊豆伊浜藻場保全協議会							
27	北限域(内浦湾)の造礁サンゴ群落保全会							
28	榛南磯焼け対策活動協議会							
29	伊豆稲取藻場保全会							
30	京都府	上桂川を守る会	稲田善和	4/28、29	技術	内水面	個別指導	
31	兵庫県	兵庫県豊かな海創生支援協議会	吉永聡	6/24	技術	モニタリング	個別指導	
32	和歌山県	和歌浦活性化活動組織	JF全漁連	1/23	運営	事務処理	個別指導	
33	広島県	太田川しじみを守る会	吉永聡	8/3、4	技術	内水面	個別指導	
34		江の川かつば道場	崎長威志	8/8	技術	内水面	個別指導	
35	徳島県	阿部の藻場を守る会	中嶋泰・三橋公夫	5/8	技術	藻場	個別指導	
36				11/12	技術	藻場	個別指導	
37		日和佐藻場再生委員会	中嶋泰・三橋公夫	5/9	技術	藻場	個別指導	
38				11/14	技術	藻場	個別指導	
39		牟岐の藻場を守る会	中嶋泰・三橋公夫	5/10	技術	藻場	個別指導	
40				11/13	技術	藻場	個別指導	
41		高知県		東洋町海洋資源保全活動協議会	岩瀬文人	9/10	技術	藻場
42			12/10	技術		藻場	個別指導	
43		2/26	技術	藻場		個別指導		
44	福岡県	能古アサリ保全協議会	南里海児	4/24	技術	干潟	個別指導	
45		糸島磯根漁業保全協議会	南里海児	4/25	技術	藻場	個別指導	
46		馬島活動組織	南里海児	6/10	技術	藻場	個別指導	
47		藍島藻場保全部会	南里海児	6/10	技術	藻場	個別指導	
48		協の浦磯根資源保全部会	南里海児	6/15	技術	藻場	個別指導	
49		糸島磯根漁業保全協議会	南里海児	7/2	技術	藻場	個別指導	
50		唐泊海士組	南里海児	7/10	技術	藻場	個別指導	
51		博多湾環境保全伊崎作業部会	南里海児	2/10	技術	藻場	個別指導	
52		長崎県	崎山地区活動組織	中嶋泰・渡辺耕平	4/11、12	技術	藻場	個別指導
53						11/19	技術	藻場
54	橋湾地区活動組織		中嶋泰・渡辺耕平	4/13	技術	藻場	個別指導	
55					9/24	技術	藻場	個別指導
56	深堀地区活動組織		中嶋泰・渡辺耕平	4/14	技術	藻場	個別指導	
57					9/20	技術	藻場	個別指導
58	琴海地区活動組織		中嶋泰・渡辺耕平	4/15	技術	藻場	個別指導	
59					9/23	技術	藻場	個別指導
60	外海地区活動組織		南里海児	5/11	技術	藻場	個別指導	
61					6/22	技術	藻場	個別指導
62	佐世保市浅子地区活動組織		南里海児	5/21	技術	藻場	個別指導	
63	橋湾東部地域活動組織		中嶋泰・渡辺耕平	5/18	技術	藻場	個別指導	
64			中嶋泰・渡辺耕平	10/18	技術	藻場	個別指導	
65	大瀬戸地区藻場育成会		中嶋泰・渡辺耕平	5/19	技術	藻場	個別指導	
66					10/19	技術	藻場	個別指導
67	瀬川地区海渚を再生する会		中嶋泰・渡辺耕平	5/20	技術	藻場	個別指導	
68					10/20	技術	藻場	個別指導
69	福田地区活動組織	中嶋泰・渡辺耕平	5/21	技術	藻場	個別指導		
70			9/25	技術	藻場	個別指導		

表 2-2-5 (2) 個別サポート実施活動組織 (2)

No.	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	専門家氏名	訪問月日	種別	内容	形式
71	長崎県	西彼南部地区活動組織/香焼町	中嶋泰・渡辺耕平	5/23	技術	藻場	個別指導
72		西彼南部地区活動組織/伊王島町	中嶋泰・渡辺耕平	5/22	技術	藻場	個別指導
73		三重地区活動組織	穴口裕司	5/20、21	技術	藻場	個別指導
74		賀谷地区藻場保全組織	犬束ゆかり	5/27	技術	廃棄物の利活用	個別指導
75		塩浜地区藻場保全組織	中嶋泰・渡辺耕平	6/6	技術	藻場	個別指導
76				11/7	技術	藻場	個別指導
77		河内地区藻場保全組織	中嶋泰・渡辺耕平	6/3	技術	藻場	個別指導
78			中嶋泰・渡辺耕平	11/1	技術	藻場	個別指導
79		鰐浦地区藻場保全組織	中嶋泰・渡辺耕平	6/4	技術	藻場	個別指導
80				11/2	技術	藻場	個別指導
81		豊地区藻場保全組織	中嶋泰・渡辺耕平	6/5	技術	藻場	個別指導
82				11/4	技術	藻場	個別指導
83		佐須奈地区藻場保全組織	中嶋泰・渡辺耕平	6/1	技術	藻場	個別指導
84				11/3	技術	藻場	個別指導
85		針尾藻場造成協議会	南里海児	6/12	技術	藻場	個別指導
86		館浦藻場再生協議会	南里海児	6/18	技術	藻場	個別指導
87		北九十九島地域活動組織		6/19	技術	藻場	個別指導
88		志々伎地区磯焼け対策活動組織		6/20	技術	藻場	個別指導
89		上五島地区磯焼け対策会議	南里海児・犬束ゆかり ・JF全漁連	8/20	技術	藻場	研修会
90							
91		大船越いそやけ対策活動組織	南里海児	10/24	技術	藻場	個別指導
92		鹿見地区水域保全組織	中嶋泰・渡辺耕平	11/5	技術	藻場	個別指導
93		三浦湾地区藻場保全組織	中嶋泰・渡辺耕平	11/7	技術	藻場	個別指導
94		玉之浦地区活動組織	中嶋泰・渡辺耕平	11/20	技術	藻場	個別指導
95		深堀地区活動組織	犬束ゆかり・JF全漁連	11/26	技術	藻場	研修会
96		高島地区活動組織					
97		外海地区活動組織					
98		野母崎三和地区活動組織					
99		西彼南部地区活動組織					
100		北九十九島地域活動組織					
101		佐世保市浅子地区活動組織					
102		佐世保市宇久活動組織					
103		大村湾地域漁業環境保全会					
104		有明地区環境・生態系保全活動組織					
105		津水湾環境保全					
106		伊木力漁場保全の会					
107		小長井中央活動組織					
108		江の浦地区藻場を大切にする会					
109		大村市新城活動組織					
110		大村市松原活動組織					
111		大村湾東部東浦活動組織					
112		館浦藻場再生協議会					
113		九十九島漁協田平地区根付部会					
114		綱島地区藻場保全組織					
115		水島地区藻場保全組織					
116		塩浜地区藻場保全組織					
117		豊玉東地区水域保全組織					
118		浅海地区水域保全組織					
119		内院地区藻場保全組織					
120		鴨居瀬地区藻場保全組織					
121		三浦湾地区藻場保全組織					
122		佐須地区藻場保全活動組織					
123		郷ノ浦地区活動組織					
124		宍岐東部地区活動組織					
125		石田地区活動組織					
126		大島地区藻場を守る会					
127		大瀬戸地区藻場育成会					
128		諫早湾瑞穂地区活動組織					
129		布津地区保全活動組織					
130		有家の浜を守る会					
131		南有馬地区漁業者活動組織					
132		深江ブループロジェクト活動組織					
133		加津佐地区漁業者活動組織					
134		口之津地区漁業者活動組織					
135		長与浦再生活動組織					
136		小値賀海上見守り会					
137		上五島地区活動組織					
138		有川町漁協活動組織					
139		石田地区活動組織	南里海児	12/4	技術	藻場	研修会
140		宍岐東部活動組織					

表 2-2-5 (3) 個別サポート実施活動組織 (3)

No.	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	専門家氏名	訪問月日	種別	内容	形式	
141	熊本県	川口二枚貝保全活動組織	吉永聡	3/11	技術	干潟、ヨシ帯	個別指導	
142	鹿児島県	あいら藻場・干潟再生協議会	渡辺耕平	5/11	技術	藻場	個別指導	
143			渡辺耕平・安藤亘	12/2	技術	藻場	個別指導	
144		日置市多面的環境保全協議会	川畑友和	5/24	技術	藻場	個別指導	
145			酒井章	10/15	技術	藻場	個別指導	
146			高尾野川をきれいにする会	稲田善和	7/21	技術	内水面	個別指導
147				柵瀬信夫	11/27	技術	内水面	個別指導
148	沖縄県	伊江島海の会	永田昭廣・石田和敬	7/16~18	技術	サンゴ礁	個別指導	
149				1/7、8	技術	サンゴ礁	個別指導	

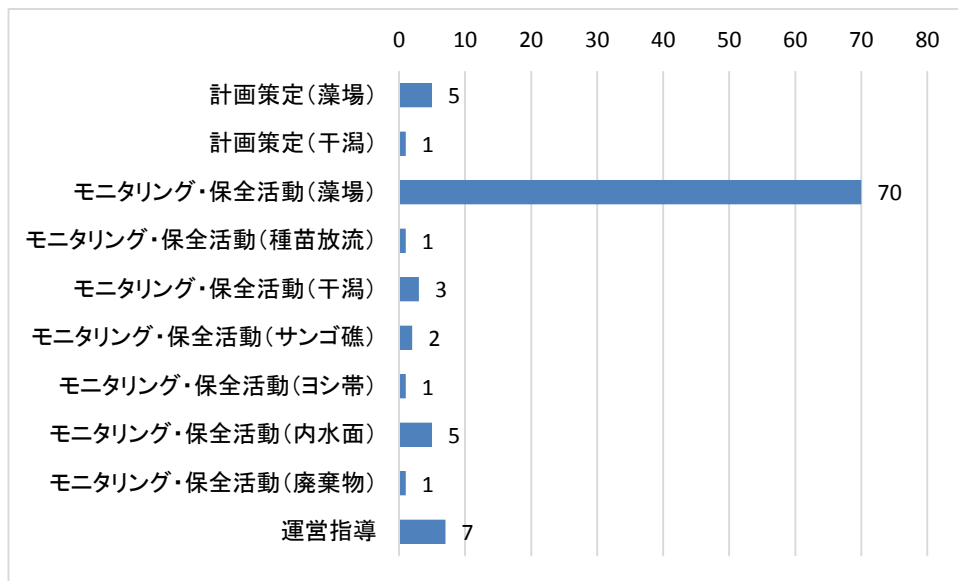


図 2-2-2 個別指導の内訳

② ヒアリング

ヒアリングを実施した活動組織数は 102 組織であった (表 2-2-6)。

各サポート専門家は、ヒアリング実施後に所定の様式による報告書を作成し、海面の活動組織については JF 全漁連に、内水面の活動組織については全内漁連にそれぞれ提出した。

なお、ヒアリングを実施した活動組織について、30 年度の自己評価の点数が 2 点未満のものとは 2 点以上のものに分類し、サポート専門家による指導内容を表 2-2-7 に整理した。

また、サポート専門家によるヒアリング報告書をもとに、国民向けの参考資料 (取組紹介ページ、図 2-2-3) を作成し、当事業のウェブページ「ひとつみ.jp」において公開した。サポート専門家によるヒアリング報告書は資料編 7 に収録した。

※公開した活動データシートには、後述する「2-4. 水産多面的機能発揮対策事業の情報提供・共有」で抽出した活動組織も含まれる。

表 2-2-6 (1) ヒアリング実施活動組織 (1)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	専門家氏名	訪問月日	種別
1	北海道	標津沿岸海難救助組織	太田雅隆	10/17	監視ネットワーク、 海難救助
2		湧別あさり礁環境保全活動組織	太田雅隆	10/18	干潟
3		火散布沼干潟を保全する会	太田雅隆、	11/7	干潟
4		散布海域を保全する会	JF全漁連	11/7	藻場
5		浜中町海難救助活動組織		11/7	海難救助
6		浜中地区干潟保全活動組織		11/8	干潟
7		霧多布西地区藻場保全活動組織		11/8	藻場
8	青森県	三厩地区環境保全活動組織	太田雅隆	9/9	藻場
9		三厩地区海岸環境美化活動組織	太田雅隆	9/9	漂流・漂着物
10		蟹田平館地区海岸環境美化活動組織	太田雅隆	9/9	漂流・漂着物
11		尻屋地区藻場保全活動の会	太田雅隆	9/10	藻場
12		三沢地区漁場保全の会	太田雅隆	9/11	干潟
13		平内町地域協議会	太田雅隆	9/11	藻場、漂流・漂着物
14	岩手県	豊沢川の環境を守る会	樋田陽治	7/30	内水面
15	秋田県	湯沢市河川愛護会	樋田陽治	10/1	内水面
16	茨城県	大洗町多面的機能活動組織	太田雅隆	8/29	国境・水域監視
17		大和地区活動組織	桐生透	12/9	種苗放流、ヨシ帯
18		大野地区活動組織	桐生透	12/10	ヨシ帯
19	埼玉県	高麗川流域地区活動組織	吉澤和具	7/25	内水面
20	神奈川県	城ヶ島藻場保全活動組織	田中和弘	7/30	藻場
21		諸磯藻場保全活動組織	芳我幸雄	10/11	藻場
22		江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト	田中和弘	10/12	藻場
23	富山県	滑川高校海洋科海洋クラブ	田中和弘	10/2	藻場
24		魚津市漁場環境保全会	田中和弘	10/2	藻場
25		射水市豊かな海を愛する会	田中和弘	10/3	藻場、漂流・漂着物
26			樋田陽治	12/17	内水面
27	石川県	輪島の里海を守る会	田中和弘	8/29	藻場
28		七尾西島フグ縄組合	田中和弘	8/29	種苗放流
29		安宅の里海を守る会	田中和弘	8/30	種苗放流、漂流・漂着物
30		新丸「大日川流域」を守る会	桐生透	2/19	種苗放流、内水面
31	福井県	勝山九頭竜川環境ネットワーク	桐生透	9/9	内水面
32	長野県	千曲川の自然を守る会活動組織	桐生透	8/22	内水面
33	愛知県	名倉川環境保全ネットワーク	桐生透	12/11	内水面
34		矢作川の環境を守る会	桐生透	12/11	内水面
35	三重県	櫛田川第一漁業協同組合活動組織	吉澤和具	8/7	ヨシ帯・内水面
36		銚子川環境保全会	吉澤和具	8/8	種苗放流・内水面
37		答志支所青壮年部	太田雅隆	8/26	藻場
38	滋賀県	百瀬水と暮らし保全会	藤岡康弘	11/19	干潟
39		野洲市びわ湖を守る会	藤岡康弘	11/26	干潟 ヨシ帯
40		野洲川の環境を良くする会	藤岡康弘	11/26	内水面
41	京都府	京の川の恵みを活かす会	稲田善和	7/29	ヨシ帯 内水面
42	兵庫県	矢田川を守る会	桐生透	11/26	内水面
43	島根県	益田川と海をつなぐ自然環境保全活動組織	崎長威志	7/23	干潟、ヨシ帯、内水面
44		益田地区海域保全協議会	益原寛文	7/29	藻場
45		大田地区海域保全協議会	益原寛文	9/19	藻場
46		出雲地区海域保全協議会	益原寛文	9/20	藻場
47		浜田地区海域保全協議会	益原寛文	9/20	漂流・漂着物
48	鳥取県	浜村地区環境保全活動組織	芳我幸雄	10/17	藻場、海難救助
49		夏泊地区環境保全活動組織	芳我幸雄	10/18	海難救助
50		酒津地区海の環境保全活動組織	芳我幸雄	10/18	藻場、海難救助
51		東地区海洋環境保全対策活動組織	芳我幸雄	10/30	藻場、海難救助
52		網代港地区海洋環境保全対策活動組織	芳我幸雄	10/30	藻場、国境・水域監視、 監視ネットワーク、海難救助
53		青谷地区海の環境保全活動組織	芳我幸雄	10/31	藻場、海難救助
54		泊地区藻場保全活動グループ	芳我幸雄	10/31	藻場、海難救助

表 2-2-6 (2) ヒアリング実施活動組織 (2)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	専門家氏名	訪問月日	種別
55	山口県	吉見藻場保全グループ	益原寛文	8/30	藻場
56		通藻場保全グループ	益原寛文	9/13	藻場
57		津黄藻場保全グループ	益原寛文	9/13	藻場
58		藤曲浦地区活性化グループ	益原寛文	9/24	干潟
59		東岐波里づくりグループ	益原寛文	9/25	干潟
60		柳井藻場保全グループ	JF全漁連	9/25	藻場
61		宇部岬地区浅場保全グループ	益原寛文	10/15	干潟
62		床波海域保全グループ	益原寛文	10/16	藻場
63		阿武藻場保全グループ	益原寛文	11/12	藻場
64		江崎・須佐藻場保全グループ	益原寛文	11/12	藻場
65		萩藻場保全グループ	益原寛文	11/13	藻場
66		越ヶ浜藻場保全グループ	益原寛文	11/13	藻場
67		大井川環境サービス活動組織	崎長威志	2/5	内水面
68		愛媛県	日振島活動組織	岩瀬文人	8/27
69	三浦アサリ研究会		岩瀬文人	9/3	干潟
70	愛南町漂流ごみ回収処理部会		岩瀬文人	9/9	漂流・漂着物
71	愛南さんごを守る協議会		岩瀬文人	9/9	サンゴ礁
72	瀬戸地区環境保全協議会		岩瀬文人	11/7	藻場、漂流・漂着物
73	町見地区環境保全協議会		岩瀬文人	11/7	藻場
74	中山川流域環境保全活動組織		崎長威志	2/4	内水面
75	高知県	川漁を伝承する会	崎長威志	9/25	内水面
76	福岡県	柏原地区保全活動組織	益原寛文	10/9	藻場
77	長崎県	佐世保市南部地域活動組織	益原寛文	8/7	種苗放流、干潟、 海難救助
78		大村市新城活動組織	JF全漁連	8/21	干潟、海難救助
79		小長井西部活動組織	益原寛文	8/22	藻場、海難救助
80		小長井中央活動組織	益原寛文	8/22	干潟
81		小長井東部活動組織	益原寛文	8/23	干潟
82		伊木力漁場保全の会	益原寛文	8/23	藻場
83		池下地区資源を守る会	益原寛文	8/26	藻場
84		江の浦地区藻場を大切にする会	益原寛文	8/26	藻場、海難救助
85		有喜地区藻場保全の会	益原寛文	8/27	藻場
86		大村湾東部東浦活動組織	益原寛文	8/27	藻場、干潟
87		琴海地区活動組織	益原寛文	9/2	藻場
88		外海地区活動組織	益原寛文	9/2	藻場
89		西彼南部地区活動組織	益原寛文	9/3	藻場
90		深掘地区活動組織	益原寛文	9/3	藻場、廃棄物の利活用、海 難救助
91		茂木地区活動組織	益原寛文	9/6	漂流・漂着物、国境・ 水域監視
92	橘湾地区活動組織	益原寛文	9/6	藻場、漂流・漂着物	
93	大村湾地域漁業環境保全会	益原寛文	9/11	干潟	
94	針尾藻場造成協議会	益原寛文	9/11	藻場、種苗放流	
95	鹿児島県	あいら藻場・干潟再生協議会	益原寛文	7/24	藻場、干潟、コンブ帯、 漂流・漂着物
96		鹿屋市漁協アマモ会	渡辺耕平	9/3	藻場、種苗放流、干潟
97		高山磯焼対策チーム	渡辺耕平	9/9	藻場
98		広瀬川川守隊	稲田善和	11/13	内水面
99		大根占藻場保全会	渡辺耕平	11/25	藻場
100		網掛川干潟再生の会	稲田善和	2/6	干潟、種苗放流、内水面
101	沖縄県	恩納村美ら海を育む会	長田智史	8/30	サンゴ礁
102		伊江島の会	長田智史	10/7	サンゴ礁

阿部の藻場を守る会（徳島県美波町）

● 活動項目

藻場の保全

● 組織の構成

漁業者、阿部漁協、漁協女性部（19名）（サポーター：サポート専門家）

● 地域の現状・課題

- ・阿部地区は、徳島県南部に位置し紀伊水道に面しており、昔から豊かな藻場があり好漁場として知られていた。特に、阿部で収穫されるアワビは大阪の市場などで「アブのアワビ」としてブランド化され、高値で取引されている。
- ・しかし、藻場の減少が続くアワビやイセエビなど魚介類の水揚げ量は、30年前と比べ約1/6まで減少。
- ・多くの魚介類の育成場となる藻場の維持・回復を図ることを目的とし、平成30年度に当該組織を設立し、藻場の保全活動に取り組んでいる。



● 活動の内容

- ・阿部地区の藻場の減少は、植食性魚類による食害が原因が考えられるため、食害生物の駆除と母藻設置をメインに活動している。
- ・食害生物の駆除は、イセエビの刺し網漁が休みの月夜の期間、刺し網を使った植食性魚類の駆除を行っている。
- ・母藻設置は、海底でちぎれ漂流しているアラメやカジメをスポアバッグ方式で設置。実際に魚の食害を確認するため、一部のアラメやカジメをスポアバッグに入れず海底に約1ヶ月設置した。



● 活動の効果

- ・活動を行ったことにより、令和元年度にはアラメ・カジメが繁茂する様子が見られたが、食害調査の結果、一部の海藻は植食性魚類の食害を受けていた。
- ・食害生物の駆除をこれまでにはイセエビ用の刺し網を使用していたが、これに加えより効率良く駆除できる方法を模索している。
- ・今後、地球温暖化による水温上昇に起因し、植食性魚類による食害被害の拡大が予想されるため、これからも活動を続けていきたいと考えている。



図 2-2-3 取組紹介ページの例（徳島県美波町）

表 2-2-7 (1) サポート専門家の指導 (2点未満)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
1	北海道	湧別あさり礁環境保全活動組織	干潟	太田雅隆	3.5	2.2	1.9	死骸除去の効果があまりみられていない。嵩上げ・底質改善試験の結果が待たれる。一般的な耕うんを事業の中に入れることも考えてみたらどうか。
2	北海道	浜中地区干潟保全活動組織	干潟	太田雅隆	1.9	3.2	1.6	モニタリング結果ではアサリの個体数は漸減傾向にあり、活動内容の再検討が必要と考えられる。
3	青森県	三厩地区環境保全活動組織	藻場	太田雅隆	-	-	1.5	(成果目標) 平成30年度から活動開始のため、定量的成果は次年度以降に評価すべきと考える。 (組織体制) 活動には漁民以外に漁協職員が大きく関与している。これら漁民以外の活動員を計測すれば、数値は2より大きくなるものと考えられる。ただ、これからは漁業関係者以外の参加を求めていく必要がある。
4	茨城県	大和地区活動組織	種苗放流	桐生透	1.2	1.2	1.2	モニタリングでは、ウナギが採捕されていないので、現在実施している3月ではなく、ヨシ刈が終わって水温が上昇する5月に行くこととする。生物量については、0と記載すること。 漁法が張網、竹筒、延縄、柴漬けなので、構成員である漁業者しか活動できないので、組織体制については現状でやむを得ないと思われるが、放流については小学生の参加を増やすなどの取り組みが必要と思われる。
5	三重県	榑田川第一漁業協同組合活動組織	ヨシ帯	吉澤和具	3.5	3.2	1.6	・対象生物としてヨシノボリを選んだのはヨシ帯に多く生息し、三重県水産研究所の助言によるとのことであるが、他魚種の選定を考慮しても良いのでは。 ・モニタリングの漁獲調査時に対象生物が認められなかった理由は、調査当日の濁りと水温の影響と考えられる。 ・組織体制の減点の理由は、調査を実施するにあたり危険を伴うなどのことにより活動組織員のみで調査を実施し、一般の方の参加を遠慮した経緯による。 ・横展開の減点の理由は各種講習会に参加できなかったことによる。 ・これらの理由により総合的な評価点も減少してしまいが、生息魚種の増加、力を入れている稚アユの遡上量も増加傾向にあり、これも評価につながる、もっと柔軟な活動計画や組織運営、課外活動を含め地域を巻き込んだ取り組みにより、事業が展開できればと考える。
6	三重県	青谷地区海の環境保全活動組織	藻場	芳我幸雄	2.1	2.1	1.7	・モニタリングを定期的に3~4回/年実施している。 ・対象生物としているアラムの消長を調べる上で、重要な時期に実施されている(被度の変化の著しいワカメの繁茂期(5月)と凋落期(7.9.11月)の両方を調査している)。 ・アラムの消長は、ワカメの凋落期の方がわかりやすい。 ・生物量は被度階級ではなく被度(%)で記入すべき。 (成果目標の判断基準が%なので)
7	愛媛県	瀬戸地区環境保全協議会	藻場	岩瀬文人	0.9	2.9	1.7	モニタリング場所はクロメが主だが他の海藻もあり、被度の調査はクロメに限らず全ての海藻類を対象にしている。 モニタリング時期が2月で海藻類の繁茂期ではないため、海藻類の生育状況を十分に反映しているとは言えない。本来は対象となる海藻の繁茂期である5~6月頃にモニタリングが実施できれば結果がわかりやすい。 対象海域に生息している他のウニ類(ハブウニやムラサキウニ、アカウニなど)は漁獲対象なので、ウニ類全体がコントロールされる結果になっている。 対象海域にはアイゴやブダイ類の幼魚が多数みられるという事なので、これらによる食害の有無についても検討すべきかもしれない。 宇和海南部では藻場が衰退しソフトコーラルからイシサンゴ類へと変化しているため、今後の変化を注意深く見守っている必要がある。
8	長崎県	大村市新城活動組織	干潟	JF全漁連	2.4	1.6	1.6	<成果目標> ナマコの資源調査結果では、ここ3年間の密度が低下している。調査がナマコの口開け(例年11/15)の後に行われており、漁獲の影響を排除するのであれば、口開け前の調査を検討する必要がある。 <組織体制> アオサ類の除去などは、周辺住民の生活環境・衛生環境にも関わる問題であるため、漁業者の高齢化と減少の中、近隣住民の参加についても検討する必要がある。 <横展開> アオサ類の除去は、滋賀県の「びわこ環境保全活動組織」による水草類の除去手法※を取り入れ、省力化と効率化を図るなど、横展開の好事例であると言える。 ※過去には、アオサをカゴに詰めて人力で運搬していたが、現在は船上に網を敷き、その上にアオサを載せ、接岸して網の四隅をクレーンで持ち上げる方法とした。
9	長崎県	大村湾東部東浦活動組織	干潟	益原寛文	1.2	1.6	1.9	・ナマコの生息数が思うように増加していないが、夏季の高水温が影響している可能性が高い。 ・耕うんなどの保全活動を継続し、できるだけ同じ時期のモニタリングの実施が望まれる。
10	鹿児島県	あいら藻場・干潟再生協議会	藻場	益原寛文	2.5	3	1.9	・生物量変化の把握のためのアマモ被度測定は不可欠であるが、最終的にはミズイカやタコが普通に生息できる健全なアマモ場の再生を目指す欲しい。 ・アマモの苗移植(生分解性ペーパーポット使用)、播種(紙粘土使用)は、子供たちを対象とする体験学習に最適な手法なので、機会があれば実施してほしい。住民参加による組織体制の多様化に貢献できる。 ・藻場の保全手法については、若干、改善の余地があると思われる(以下の網掛け部)。専門家と十分協議し、他の事例を活用するなど横展開をはかることが望ましい。

表 2-2-7 (2) サポート専門家の指導 (2点以上) (1)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容																								
					H28	H29	H30																									
1	北海道	標津沿岸海難救助組織	海難救助	太田雅隆	1	1.7	2.7	海上における船からの海中落下者の捜索・救助は拾い上げるまでの工程が必要で、拾い上げる作業も救助訓練に入れた方が良い。また、蘇生技術等も消防署などから教授してもらった方が良い。																								
2	北海道	散布海域を保全する会	藻場	太田雅隆	1	2.3	4.1	平成30年度の自己評価表は入手できなかった。ただ、モニタリングのコンブ被度が上昇しているため、成果目標は良好と思われる。平成28、29年度のモニタリングは岩盤清掃直後でコンブ衰退期の3月の調査のため、コンブ被度が極端に低くなっている。平成30年度は清掃前でコンブ繁茂期の調査で、今後この時期に調査を実施するとのことであるから、成果を期待したい。																								
3	北海道	霧多布西地区藻場保全活動組織	藻場	太田雅隆	1.8	1.8	2.9	岩盤清掃の効果が上がっていると思われる。																								
4	青森県	三厩地区海岸環境美化活動組織	漂流・漂着物	太田雅隆	-	-	2.1	(成果目標) 成30年度から活動開始のため、定量的成果は次年度以降に評価すべきと考える。 (組織体制) 地元の土木作業員が活動組織に参加したため、評価点が上がった。																								
5	青森県	蟹田平館地区海岸環境美化活動組織	漂流・漂着物	太田雅隆	3.5	4.4	4.4	成果が上がっていると考えられ、このまま事業を継続してほしい。																								
6	青森県	尻屋地区藻場保全活動の会	藻場	太田雅隆	2.5	3.2	3.5	キタムラサキウニの量がきわめて多く、海域は完全な磯焼け状態である。活動員はスキューバ潜水による駆除の努力はしているものと思われるが、周辺のウニ量が多く、駆除した場所にすぐ侵入される。特に水深の深い方からの侵入が多いとのこと。全体の駆除も大事であるが、部分的な核藻場を作られるような努力が必要と感じた。																								
7	青森県	三沢地区漁場保全の会	干潟	太田雅隆	1.9	2.9	2.5	(生物単位量) 平成29、30年度の密度はモニタリング結果から導いた数字と 考えられるが、出し方が間違っている。ウバガイが出現したモニタリングポイントだけの平均を書いているが、出現しなかった場所の数字0を入れる必要がある。正確には、定量的成果に記載した。 保全区画の広さと比べてモニタリングポイント1地点の面積(0.2m×2m)は小さすぎる。方法として、マンガンを一定距離引いて出現したウバガイの量をモニタリングした方が、より正確ではないかと考えられる。 (組織体制) 平成28年度が2になっているのは、漁協職員を活動員に入れていなかったためとのこと。																								
8	青森県	平内町地域協議会	藻場	太田雅隆	2.6	2.5	4.1	(成果目標) 平成28年度のモニタリング測定方法、測定場所に問題があったのかも知れない。平均被度88%は高すぎる。 (横展開) 少し方法を考える必要がある。																								
			漂流・漂着物		2.6	4.1	4.1	(横展開) もう少し方法を考えてみる必要がある。																								
9	岩手県	豊沢川の環境を守る会	内水面	樋田陽治	1.8	4.4	2.8	1) 成果指標 ・各地点で採集された水生生物(水生昆虫+魚)を指標としているが、各年の調査地点数が異なるので、1地点当りの個体数を比較してみた。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採集した個体数</td> <td>312</td> <td>245</td> <td>143</td> </tr> <tr> <td>地点数</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>1地点当り</td> <td>24.0</td> <td>27.2</td> <td>15.9</td> </tr> <tr> <td>前年比</td> <td></td> <td>1.13</td> <td>0.58</td> </tr> <tr> <td>H28比</td> <td></td> <td>1.13</td> <td>0.66</td> </tr> </tbody> </table> ・これによれば、H29は13%増で配点5、H30は-34%で配点1となるので、H29の評価点を赤書きしてみた。 ・調査時期が春～初夏と秋に多い点と、周囲に農地の多い上流域(太田橋等)と、市街地が多い下流域(豊沢橋等)では、水生生物量が異なると思われるので、各年を比較するためには、できるだけ過去の調査時期、地点と同じようにモニタリングを設定することが肝要と考えられる。 ⇒例えば、3年間とも同時期(6/23.11)に調査している太田橋の4地点では、採集された水生生物の1地点当り個体数は、H28が40.6個体、H29が36.2個体、H30が15.2個体となるので、H29からH30にかけて何らかの要因で減少したことが考えられよう ・また、近年の傾向として急な集中豪雨(ゲリラ豪雨)がある。急な増水は川の水生生物を流下させる可能性があり、また天候不順は調査の実施を妨げる要因になるので、降雨量(気象庁等)や河川水位の記録(河川管理者)等のデータを収集することも説明に役立つ。	区分	H28	H29	H30	採集した個体数	312	245	143	地点数	13	9	9	1地点当り	24.0	27.2	15.9	前年比		1.13	0.58	H28比		1.13	0.66
区分	H28	H29	H30																													
採集した個体数	312	245	143																													
地点数	13	9	9																													
1地点当り	24.0	27.2	15.9																													
前年比		1.13	0.58																													
H28比		1.13	0.66																													

表 2-2-7 (3) サポート専門家の指導 (2 点以上) (2)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
10	秋田県	湯沢市河川愛護会	内水面	樋田陽治	4.7	3.1	4.4	<p>・本事業の成果目標として、「対象水域における生物量の増加」が設定されており、湯沢市河川愛護会では、底生性のカジカと水生昆虫をモニタリング調査の対象に選定している。これらは、遊泳力のある魚と異なり、その場の環境条件を連続的に受けていると考えられる。</p> <p>1. カジカ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川に親しむ会で、子どもたちが採捕したカジカのCPUE(全採捕数/子どもの数×生息密度の指標)を用いている。毎年同じ場所では採捕するので、河川環境の変化を把握する有効な方法の一つと考えられる。 ・また、子どもたちのカジカ採捕数が環境指標として活用される点に教育的な効果も期待されよう。 ・しかし、河川の増水や河床の変化等によって、河川に親しむ会の活動場所等が制約を受けるため、カジカのCPUEを経年的に把握するには、例えば漁獲努力が高い大人が昼間に適当な地点で一定時間採捕する等、の方法を地元専門機関に相談してはどうか。 <p>2. 水生昆虫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年にサポート専門家の個別相談を受けており、定性的な方法で水質の評価が行われている。 ・さらに、定量的なモニタリング方法について、水生昆虫の地元専門家に相談し、「採集までは漁協の人でも可能だろうが、分類は専門機関に依頼した方がよい。」とのアドバイスを受けている。 ・活動組織が分類を行うためには、顕微鏡等の備品を揃え、担当者を養成しなければならない。一方で、調査会社に委託するには多額の予算を必要とする。 ・全体事業費が多額であれば可能かもしれないが、モニタリング調査は本体の活動をフォローする役割なので、予算の範囲内でバランスを図ることが必要になる。 ・こう考えると、水生昆虫を調査対象にできるのは、水生昆虫に詳しい人が活動組織に参加している場合と、地元研究機関の積極的な参加がある場合等に限られるので、再検討すべき時期ではないだろうか。 <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯沢市河川愛護会では多くの活動に取り組み、種々の成果を上げている。中でも、簡易(仮設)魚道の設置や河川に親しむ会の活動は、すでに「横展開」できる段階に達していると思われる。 ・例えば、簡易(仮設)魚道の設置では、足場パイプと蛇腹状のポリエチレン製U字溝を使った、簡易(でたぶん安価)な階段式魚道の設置方法は、県内の同程度の環境にも転用が可能ではないだろうか。その場合、そ上魚の効果調査方法をセットにする必要がある。 ・また、河川に親しむ会の活動では、子どもと保護者が1セットになって、河川に入り、石や魚、水生昆虫の様子を観察し、専門家の話を聞いて学習したうえで、夜の川に再び入ってカジカを採捕している。 ・これは、河川で、魚を見て、魚の話を聞いて、魚を食べて、魚の香りをかいて、魚に触って探る、という体の五感をフルに使うことなので、子どもたちにとり総合的な理解が可能な体験学習と言える。子どもたちには、さぞ素晴らしい体験になっていることだろう。 ・河川に親しむ会が行われる夏の夜間は、暑さがやわらぎ、ライトの光が点滅するのを見ているだけで詩情を誘うが、日中でも過ごしやすい適当な季節に同様な活動を行うことは「横展開」になる。 ・この体験がひいては子どもたちの郷土愛を育むとともに、進学・就職等で県外へ出ても、郷土を思う源泉になることだろう。 ・活動組織の体制強化とともに、今後の発展を期待したい。
11	茨城県	大洗町多面的機能活動組織	国境・水域監視	太田雅隆	2.3	2.3	2.3	<p>・報告件数について 聞き取りでは陸からのハマグリ密漁と思われる行為を発見しており、保安部との連絡等、正当な手続きをしているのであれば報告件数にカウントしてもよいのではないかと考える。</p> <p>また、海域異変は、項目として青潮(貧酸素水塊)の発生、漂流・漂着ゴミ、油濁等の水質汚染、水温変化、出水に伴う土砂の流入・堆積、濁り、沿岸地形の変化、赤潮の発生、特定の生物の大量発生・斃死、流れ藻(海藻の流失)、海洋動物の移動・繁殖・産卵、ストランディング等、多岐にわたっており、今後とも注意深く海況を観察していくよう勧める。</p> <p>・横展開について 当該活動組織の活動に興味を持って、新たに同様の活動を開始した地域があるとのことであった。これも横展開の一つではないかと考える。</p>
12	茨城県	大和地区活動組織	ヨシ帯	桐生透	2.4	2.4	2.4	<p>対象生物量は、「モニタリングの手引き」にしたがって、ヨシの面積の増減を記載すべきだが、測定が困難であるならば、保護柵内の被度で示す。また、複数の定点では被度の平均値は取れないので、とりあえず定点を一か所(蔵川を予定)として記載する。今後、当地区で実施できるモニタリングの方法を検討する。また、千葉県の香取市でもヨシの被度で調査しているので、情報を得ること(後日電話にて指導)。</p> <p>横展開については、地域協議会では年1回霞ヶ浦と北浦でそれぞれ会合を開いているということであるが、あわせて講習会、シンポジウムへの出席とともに、他組織との情報交換を積極的に行うよう要請。</p>

表 2-2-7 (4) サポート専門家の指導 (2 点以上) (3)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
13	茨城県	大野地区活動組織	ヨシ帯	桐生透	1.5	1.2	2.4	対象生物量は、「モニタリングの手引き」にしたがって、ヨシの面積の増減を記載すべきだが、測定が困難であるならば、保護柵内の被度で示す。また、複数の定点では被度の平均値は取れないので、とりえず定点を一か所(奈良毛を予定)として記載する。今後、当地区で実施できるモニタリングの方法を検討する。また、千葉県の香取市でもヨシの被度で調査しているの、情報を得ること(後日電話にて指導)。 国が管理している津賀と中地域では、堤防に天端がなく、水深も大きいためヨシ刈作業は危険なため、清掃活動をしている。両地域のヨシ刈の実施については検討を要する。 横展開については、地域協議会では年1回、霞ヶ浦と北浦でそれぞれ会合を開催しているとのことであるが、あわせて、講習会、シンポジウムへの出席とともに、他組織との情報交換を積極的に行うよう要請。
14	埼玉県	高麗川流域地区活動組織	内水面	吉澤和具	-	2.4	4.7	・底生生物現存量については、現場で構成員とともに協議会の漁連役員が調査、同定を担当している。成果目標の評価で生物量に定点別や季節的な変動はあるが、年度別に見ると5%以上の増加傾向にあると判断したとのことで、評価の視点から採点した結果である(提出した数値に変更あり)。 ・組織体制については、組織員とは別に地域の学童にも参加して底生生物のモニタリングをするなど5%以上の増加をみた結果の採点である。引き続き地元の小中学生や幼稚園児などに河川に親しむ啓蒙活動を継続していただきたい。 ・横展開については、時期的、人員的、予算的な制限から講習会に参加できなかったが協議会、県漁連、県水産研究所等からの意見・助言を積極的に受けているとのことで、引き続き有機的な連携を深めていただきたい。
15	神奈川県	城ヶ島藻場保全活動組織	藻場	田中和弘	3	1.3	2.5	構成員が積極的かつ精力的にアイゴやガンガゼの駆除を行っており、その成果として確実に藻場が回復してきている。本事例は三浦半島沿岸域において貴重な磯焼けからの回復事例となっている。
16	神奈川県	諸磯藻場保全活動組織	藻場	芳我幸雄	2.7	2.9	3.8	・H29年度からH30年度にかけて、生物量の増加がみられた。 ・しかし、今回のヒアリングでR元年度は、コンブ科類が残っていないとのこと(大型台風の通過前の時点で)。 ・魚類による食圧が更に増加したのか? 高水温が続いていなかったか? さらに検討が必要。 ・県や中央水研の研究者のサポートもあって円滑に事業が進められている。
17	神奈川県	江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト	藻場	田中和弘	3	3.4	5	藻場保全活動については毎年改善を重ね、根気よく行っていることにより、幼体密度の増加や生残率のアップ等、目に見える効果として現れてきている。今後も長期的な観点で活動を継続していくことが重要である。
18	富山県	滑川高校海洋科海洋クラブ	藻場	田中和弘	4.3	4.7	3.1	対象海域は河口の砂浜域であり、河川水や波浪の影響を受けやすく、アマモや海藻類にとって不安定な生育環境となっている。そのため根気よく藻場保全活動を続けることが必要である。今後は、アマモの移植本数や母藻の設置量を増加させる等、活動の規模を大きくしていくことでより効果が期待できるように感じた。
19	富山県	魚津市漁場環境保全会	藻場	田中和弘	3.3	3.6	3.6	モニタリングの実施時期が毎年異なっており、同時期における海藻量の比較ができていない。そのため保全活動の効果が把握し難くなっている。今後はできる限り同時期にモニタリングを実施することが望ましい。
20	富山県	射水市豊かな海を愛する会	藻場	田中和弘	3.8	3.1	4.3	活動エリアは時化により砂の移動が生じやすいエリアで移植したアマモが生育しにくい状況が続いていたが、適切な移植時期と牡蠣殻を使用した根固め対策により、徐々にアマモが根付くようになってきている。
			漂流・漂着物		3.5	3.1	4.7	平成30年度のカニの巣穴数は166となっていたが、これは書式の変更に伴い、密度ではなく合計数を記載していた。実際の密度は33/㎡とのことであった。過去からの効果が比較できるように、同じ単位の値も記載しておく。
			内水面	樋田陽治	3.3	2	2.9	・庄川の5地点で、各1回1時間、目視によりアユの生息数を調査しているが、3年間ともアユの確認数が0尾となっている。 ・目視により生息数を把握するのも1方法だが、毎年0尾では比較できないので時期、場所等を変えるか、他の調査方法(投網等)に切り替えるべきか、検討すべきと考える。 ・なお、R1年の予算では、河川清掃と理解増進を図る活動(9校)を併せて235千円が計上され、河川清掃時の人件費は見えていないようなので、例えば漁期前の試し釣り等の、既存の調査があれば、その結果を活用することも検討されてはどうだろうか。
			藻場	田中和弘	3.4	4.4	4	本活動は各地区の構成員が積極的かつ精力的に行っており、藻場が安定的に形成されていることや、ウニ類が低密度で生息している等、藻場保全活動の成果は確実に出てきている。
22	石川県	安宅の里海を守る会	種苗放流	田中和弘	1.9	3.8	2.2	漁業者は、ヒラメの放流や清掃活動により、ヒラメの水揚げ量は少しずつ増加し、その効果は始めているとの実感を得ている。さらに積極的に活動を続けて、目に見える効果に繋げていく必要がある。

表 2-2-7 (5) サポート専門家の指導 (2 点以上) (4)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
23	石川県	新丸「大日川流域」を守る会	種苗放流	桐生透	3.8	3.8	3.5	平成28年度の生物量が82尾となっているが、正しくは87尾である。また、組織体制に変化がないにも拘わらず、29年度、30年度は評価点が下がっているのは誤りである。ゴリの確認尾数は順調に増加しているが、今後は種苗放流を継続しつつ、生息環境の改善に重点を置いた活動が必要である。これまでも一部で河床耕運を実施しているが、より効果を高めるため、専門家による現地指導を受けて実施する方がよい。また、アユ釣りの復活を望む声が高いということなので、同時に指導を受けて試験放流などを実施する必要がある。
			内水面					3.8
24	福井県	勝山九頭竜川環境ネットワーク	内水面	桐生透	2.1	2.9	4.1	河川清掃は一定の効果を上れているが、今後継続していく上では活動に参加できる人を増やす必要がある。参加する組合員の増加や、遊漁者や一般の人たちへも呼び掛ける必要がある。 河川への接近の障害となっている河畔林の伐採も行い、河原へのアクセスを確保するとともに、ゴミの投棄防止にも効果があると思われる。
			内水面					2.8
25	長野県	千曲川の自然を守る会活動組織	内水面	桐生透	2.8	3.2	2.8	漁場の復活を図るには、浚渫と水源の確保が不可欠である。国交省による浚渫を急いでもらえない。国交省の話では、現在護岸工事を実施しているため、予算的には難しいが、市からの要望があれば実施の可能性がある。 そのためにも、環境保全のための現在までの活動の継続が必要であると思われる。 H29には講習会に参加しているが、継続して参加してほしい。また、県内外の活動組織との交流・情報交換を行い、活動への参考にしていきたい。特に県内の活動組織とは年1回の報告会等を実施するよう地域協議会と協議し、実行してもらいたい。 サポートはこれまで受けていないが、県水試や信州大学、サポート専門家を活用し、より効率的な活動を進めてもらいたい。当面、埼玉大学大学院の浅枝先生にお願いするよう全内漁連に相談してもらおうと思います。
			内水面					1.8
26	愛知県	名倉川環境保全ネットワーク	内水面	桐生透	1.8	3.5	3.5	オオカナダモの除去は順調に進んでおり、今後も継続して根絶を目指す必要がある。除去は深いところでは重機を使うことになるが、手作業が主体なので、活動する人たちの負担は大きい。より効率的な方法を検討するか、構成員以外の協力を増やす手立てが必要と思われる。 河川清掃・草刈については、H30に大規模に行ったが、今後はオオカナダモの除去に集中することなので、河川清掃については、ボランティア活動に期待したい。 H30の評価の生物量が400㎡になっているが、オオカナダモの繁茂面積はモニタリングの結果92㎡であり、残りはアユのモニタリング面積を加えたということなので、これは誤りであり、以後は繁茂面積のみとするよう指導した。 また、次年度に向けた改善策および稼働の成果については、より具体的かつ詳細に記載するよう要請した。 また、講習会・シンボジュウムへの引き続きの参加を要請した。
			内水面					2.4
27	愛知県	矢作川の環境を守る会	内水面	桐生透	2.4	2.8	4.4	オオカナダモの除去は順調に進んでおり、今後も継続して根絶を目指す必要がある。除去は深いところでは重機を使うことになるが、手作業が主体なので、活動する人たちの負担は大きい。より効率的な方法を検討するか、構成員以外の協力を増やす手立てが必要と思われる。 河川清掃・草刈については、H30に大規模に行ったが、今後はオオカナダモの除去に集中することなので、河川清掃については、ボランティア活動に期待したい。 H30の評価の生物量が400㎡になっているが、オオカナダモの繁茂面積はモニタリングの結果92㎡であり、残りはアユのモニタリング面積を加えたということなので、これは誤りであり、以後は繁茂面積のみとするよう指導した。 また、次年度に向けた改善策および稼働の成果については、より具体的かつ詳細に記載するよう要請した。 また、講習会・シンボジュウムへの引き続きの参加を要請した。
			内水面					3.5
28	三重県	櫛田川第一漁業協同組合活動組織	内水面	吉澤和具	3.5	4.4	2.8	・対象生物をオイカワに選んだ理由は三重県水産研究所の指導によるとのことである。 ・生物量に変動があるのは調査時期により変化が生じてしまったことによる(H28年は2月の調査、H29、30年は7月調査)。これにより成果目標に差が生じている。 ・横展開が進まない理由は講習会に参加しなかったことによる。 ・総合点に変動がある理由は評価点の点数の平均化による。 ・対象生物を単一種に固定するより、生息魚種の種類数や捕獲数などによる変化、数値を河川環境の指標として表すことができないのか検討して欲しい。
			内水面					3.5

表 2-2-7 (6) サポート専門家の指導 (2 点以上) (5)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
29	三重県	銚子川環境保全会	種苗放流	吉澤和具	2.9	1.9	2.6	<ul style="list-style-type: none"> 対象魚種にウナギを選んだ理由は、絶滅危惧種の指定により従来から生息の見られた銚子川の環境保全のシンボルとして増やす取り組みの実践種としたいからである。 ウナギ捕獲のベテラン組織員によりモンドリ、延縄により積極的な捕獲作業が行われているが、年によって捕獲尾数の変動があり、これによって成果目標の評価点も変動してしまう。他の一般の漁業者からの捕獲報告、情報も寄せられるなど、地域を巻き込んだ種苗放流、モニタリング調査も行われており、安定した漁獲量につなげたことである。 組織体制は活動組織員による標識付け、放流作業に留まっており、参加人数の増加がないため仕方なく減点の評価となっている。 地域住民にも標識付け、放流作業を現認してもらい取り組みを検討したらいかかと思う。
			内水面		2.9	4.1	4.1	<ul style="list-style-type: none"> 対象生物をハゼとしているが、銚子川にはアユカケ、スミウキゴリ、チチブ、ビリンゴ、ルリヨシノリ、イトミズハゼなど多くのハゼの仲間が生息しており、これらを総称してハゼとした。ハエ(オイカワ)も多く生息する。 生物量の把握法は水中箱めがねによる観察、タモによる捕獲により種類と数を把握しているが、数値として完全に記録していない。 ※平成29年度より生物量が減ったのに平成30年度の成果目標を減点しなかった理由は、ハゼ類の他にエビ類やカニ、カエルなどが多く確認されたため清掃活動等の効果が出ていると判断した。 銚子川は「奇跡の清流」と呼ばれるだけあって、本当にきれいな川であった。活動組織以下、紀北町をはじめ地域総員でこの清流を守っていくとする気概があふれ、水産多面的機能発揮対策事業のモデルケースとして発展して欲しいと強く感じた。
30	三重県	答志支所青壮年部	藻場	太田雅隆	3.2	4.4	3.6	<p>所見:</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果目標:生物量の増加が少ないことについて。藻場増殖の方法として種苗付岩石の投入という一つの方法だけを採用しているが、母藻の投入やスポアバックなどほかの方法も試した方がよいと思う。 ウニ類は少なく、ガンガゼもいない。投入種苗にネットをかけていることから魚の食害が想定される。食害生物の除去も視野に入れた方がよい。 成果の被度測定が海中写真からの読み取りで実施しているが、実際に活動員が潜水して撮影をしているとのことであるので、潜水者が採取りで被度測定をすべき。その方が正確な値を測定できる。サポート員が写真を見た限りでは被度の数値はもう少し高いと感じられた。
31	滋賀県	百瀬水と暮らし保全会	干潟	藤岡康弘	1.8	2.2	3.8	琵琶湖では、近年アユの産卵量が減少しており、知内川の産卵量も減っている状況がある。そのような中で密漁の監視は重要な活動であり、成果が数字に現れ難いので評価は難しい面があるが、継続することが重要であると考えられる。
32	滋賀県	野洲市びわ湖を守る会	干潟	藤岡康弘	2.4	2.8	4.4	琵琶湖全域ではシジミが大幅に減少しているが、この地域では年変動が大きいものの比較的多くのシジミが生息しており、活動の継続が必要である。
			ヨシ帯		2.4	4.4	2.8	在来魚類を育てるヨシ帯の再生により漁獲量の増加が見込まれることから、ヨシ帯面積の増加が望まれる。
33	滋賀県	野洲川の環境を良くする会	内水面	藤岡康弘	1.5	5	4.1	水生昆虫数は徐々に増加する傾向があり、河川環境の改善が期待できる。
34	京都府	京の川の恵みを活かす会	ヨシ帯	稲田善和	4.4	4.1	-	平成30年度の実施がないのは残念であるが、タクサ(生物分類群)でのモニタリングは、本会ならではの科学的評価であろう。ただ、ヨシ帯の保全とタクサ数の関係は2カ年では明らかではない。
			内水面		4.7	5	3.4	河川清掃活動を丹念に行っており、カワヨシノボリやアユのための産卵場整備およびそのモニタリングを行っている。中でも、カワヨシノボリの産卵生態や産卵場整備の効果が見られる点や、天然海産アユの遡上確認され点は評価に値する。
35	兵庫県	矢田川を守る会	内水面	桐生透	-	4.4	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 対象生物を魚・底生生物・ごみとしているが、「ごみ」は適当ではなく実際に記載されていないので、除外すべきである。また、H28の生物量には魚類が含まれていない。 河川環境の改善については、活動組織の要望によって、県土地改良センター・土木関係の事業で魚道整備等を進められているということなので、今後も活動への理解を得ながら、環境の改善に取り組んでもらいたい。 アユの遡上数の減少については、海水温の上昇によって、沿岸域での稚魚の生残率の低下が要因とみられており、但馬水産事務所の調査結果を待って、対応を協議する必要がある。現在、湖産・人工産アユの稚魚放流を行うとともに、親魚放流も行っているが、これについても効果の確認を行って、対応してもらいたい。 構成員以外の参加が減少しているので、構成員を増やすとともに、地域住民や他団体、企業へ働きかけるなど、参加者の増加のための方策が必要である。

表 2-2-7 (7) サポート専門家の指導 (2 点以上) (6)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
36	島根県	益田川と海をつなぐ自然環境保全活動組織	干潟	崎長威志	4.7	3.1	3.1	活動項目の「干潟等の保全」については、干潟の改善や稚魚の放流など、物理的な補充の作業は行っていない。 稚魚調査を行い、資源動向を把握し、漁業者へ情報を提供するとともに、密漁防止の啓発などを活動のねらいとしている。 従って、対象生物の個体数の増加に関しては、活動の成果が直接的に現れにくい状況となっている。 漁協など地域の関係者と情報を共有化し、資源管理を適切に行う動機付けの役割を担っていると考えられる。 組織体制の維持については、定期的に協議会を開催し、情報の共有化に努めている。
			ヨシ帯		3	3.4	3.4	「ヨシ帯の保全」は、ヨシの適切な管理による河川環境の改善、維持を目的に活動している。 継続的な刈り取りにより、ヨシの更新促進など植生の改善が図られている。 対象生物のクロベンケイガニは、ヨシ帯との関連性がよくわからない中で、活動区域内の優占生物として選定されており、個体数の増加に関しては、成果は現れにくい状況となっている。 組織体制の維持については、作業の前後に協議会を開催し、活動の円滑化に努めている。
			内水面		2.7	3.1	4.7	「ウナギ石倉かご」と「河川清掃」が活動項目となっている。 対象生物の「カワニナ」は、河川内の優占種で、調査のし易い生物として選定された。上流から下流の間で、10か所の定点での生息密度調査である。 カワニナの生態と活動内容との相関などの分析が必要である。また、石倉内の餌料生物も対象生物として調査するよう指導した。 河川清掃は、質的にも、量的にも、しっかりとした取組みをしていると評価できる。 組織体制の維持については、関係者への広報、事前打ち合わせなど丁寧に行っている。
37	島根県	益田地区海域保全協議会	藻場	益原寛文	3.8	2.2	3.8	・講習会、報告会や他事例を参考にし、自らの活動に取り入れるなどの横展開を図ることが望まれる。 ・ウニ類の駆除作業では、受託した業者のみで実施している。少なくとも浅場では、漁業者が船上から駆除するなどにより、構成員の参加を促すことが望まれる。
38	島根県	大田地区海域保全協議会	藻場	益原寛文	3	3.8	3.4	・保全活動の努力量として、母藻の設置量や、海底で粉碎処理したウニ類の量(個体数、重量)をできる限り正確に記録して欲しい。
39	島根県	出雲地区海域保全協議会	藻場	益原寛文	1.8	4.4	3.1	・モニタリング時期は、海藻類の経年変化を把握するため、毎年6月に実施することが望まれる。
40	島根県	浜田地区環境保全協議会	漂流・漂着物	益原寛文	2.7	5	4.1	
41	鳥取県	浜村地区環境保全活動組織	藻場	芳我幸雄	1.2	2.3	2.3	・モニタリングの時期を5月としているが、ワカメ繁茂のピーク期であり、対象生物としているアラメの消長が良く解らない。 ・対象とした生物(アラメ)の被度を別に観察するか、調査時期をワカメの繁茂期以外とした方がよい。過去の調査との継続性を考えれば、アラメの被度を分けて観察する方がよい。 (参考:鳥取県藻場造成アクションプログラムⅡ p.3にある調査方法では、無節サンゴ藻を除く海藻草類を区別なく扱っている。) ・せっかくモニタリングが行なわれているのに、その良い成果をデータから示すのが難しい。 ・生物量は被度階級ではなく被度(%)で記入すべき。 (成果目標の判断基準が%なので)
			海難救助		1.7	2	2	5地区合同の大規模な訓練を共同で実施している。
42	鳥取県	夏泊地区環境保全活動組織	海難救助	芳我幸雄	1.7	1.6	2	5地区合同の大規模な訓練を共同で実施している。
43	鳥取県	酒津地区海の環境保全活動組織	海難救助	芳我幸雄	1.4	2.4	2	5地区合同の大規模な訓練を共同で実施している。
44	鳥取県	東地区海洋環境保全対策活動組織	藻場	芳我幸雄	3.5	3.8	3.5	・実務者が急遽視察のため出張しており、具体的なヒアリングができなかった。 ・対象生物としているアラメの消長を調べる上で、適切な調査時期が選定されている(高水温に強いワカメの凋落期に調査を行っている)。 ・H29年度のモニタリングデータは、2回分のデータの良い方の数値でまとめた結果のみが提出されていたが、H30年度から各回の生データ提出に是正されていた。
			海難救助		2.6	2.3	2.3	・東地区の漁船は小型であるため、無線機の導入は行われていないが、漁場が沿岸部であることより、携帯電話による連絡方法を有効に活用している。
45	鳥取県	網代港地区海洋環境保全活動組織	藻場	芳我幸雄	4.1	3.5	2.7	・実務者が急遽視察のため出張しており、具体的なヒアリングができなかった。 ・対象生物としているアラメの消長を調べる上で、適切な調査時期が選定されている(高水温に強いワカメの凋落期に調査を行っている)。 ・H29年度のモニタリングデータは、2回分のデータの良い方の数値でまとめた結果のみが提出されていたが、H30年度から各回の生データ提出に是正されていた。
			国境・水域監視		2.9	2.3	3.2	訓練の実施により、活動組織で地先の海を守ること、国境付近の警備の一端を担うことを、この海を生業の場とする漁業者として当然のこと意識付けすることに繋がっているように受け止められる。
45	鳥取県	網代港地区海洋環境保全活動組織	海難救助	芳我幸雄	2.9	2.3	2.6	・網代港地区の小型漁船では、無線機の導入は行われていないが、主な漁場が沿岸部であることより、携帯電話による連絡方法を有効に活用している。 ・実際に落水者を救助する訓練を実施している。 ・海上保安部の指導も受けるようになった。
			海難救助		1.7	2.7	2	5地区合同の大規模な訓練を共同で実施している。
46	鳥取県	青谷地区海の環境保全活動組織	海難救助	芳我幸雄	1.7	2.7	2	5地区合同の大規模な訓練を共同で実施している。

表 2-2-7 (8) サポート専門家の指導 (2 点以上) (7)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
47	鳥取県	泊地区藻場保全活動グループ	藻場	芳我幸雄	4.2	4.2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングを、毎年異なる時期に実施している。たまたま、生物量が同程度の横ばい傾向の結果と見えるが、それぞれの時期の断片をみているにすぎない。 ・同じ時期にモニタリングをしないと意味がない。 ・生物量は被度階級ではなく被度(%)で記入すべき。(成果目標の判断基準が%なので)
			海難救助		3.2	4.3	4	
48	山口県	吉見藻場保全グループ	藻場	益原寛文	2.7	2.8	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、アラメ・カジメの増殖を想定して冬季にモニタリングを実施したが、ワカメやアカモクの繁茂期の春季にモニタリングを実施したいとの意向があった。 ・少なくとも5年間は同じ冬季に実施することが望ましい。また、ワカメやアカモクの幼芽は冬季でも確認可能と、アドバイスした。
49	山口県	通藻場保全グループ	藻場	益原寛文	4.4	4.7	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの調査点数・調査時期を統一して、経年的な変化を追跡してほしい。 ・ウニ類やニナ類の除去の記録(努力量)を、藻場の回復状況を評価するための基礎資料として活用してほしい。
50	山口県	津黄藻場保全グループ	藻場	益原寛文	3.5	4.1	2.2	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年から、山口県水産研究センターから助言を受け、新しい方法でモニタリングを実施している。従来の景観被度をやめて、ライトランセット法とコードラット法を組み合わせた手法で実施。精度も向上していると評価できる。 ・100mの調査ラインに10m毎に1㎡方形枠を設置して目視観察(精度を高めるため同一の調査ラインを近傍に設置、計20か所で目視観察) ・これからは県水産研究センター等地域特性を熟知した専門家と相談しながら、継続的に保全活動を実施してほしい。
51	山口県	藤曲浦地区活性化グループ	干潟	益原寛文	4.4	4.4	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・食害、付着生物対策に様々な工夫をこらして努力していることが評価できる。工夫を重ねながら継続的に実施してほしい。 ・干潟の保全手法については様々な活動組織が実施しているので、参考にしてほしい。9月、10月末には広島や福岡で干潟部会の事例発表があるので、参考にしてほしい。
52	山口県	東岐波里づくりグループ	干潟	益原寛文	2.4	4.4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・静穏海域なので、被覆網の固定は転石等を重しにするのみ。被覆網をかぶせるだけで、アサリが増殖するという恵まれた環境にある。 ・保全場所が限定され、マンパワーが不足しているという問題もある。 ・他の活動事例を参考にしつつ、地域特性を熟知した専門家と相談しながら、活動を継続してほしい。
53	山口県	宇部岬地区浅場保全グループ	干潟	益原寛文	4.1	4.1	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ナルトビエイ駆除による二枚貝類の捕食圧低下、駆除したナルトビエイの有効利用という一石二鳥の取り組みを、継続的に実施して欲しい。
54	山口県	床波海域保全グループ	藻場	益原寛文	4.1	4.7	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・アマモの播種では、環境に優しい易分解性の麻袋を使用して、冬の夜間の干潮時に丁寧な作業を実施している(砂と種子の封入、及び麻袋の海底面への固定)。 ・夜間を避けて日中に実施する場合には、紙粘土にアマモ種子を張り付けて、船上から投入する方法もある。 ・ただし、波浪や潮流で粘土付き種子が散逸しない海況であることが前提。 ・海水と活性炭入りの種子を冷蔵保管している。水道水に人工海水の素を加えて作成した人工海水(3.5%)で種子を冷蔵保管して、カビ発生や腐敗が少なくなった実績がある。機会があれば試して欲しい。
55	山口県	阿武藻場保全グループ	藻場	益原寛文	2.8	2.3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングにおいて、各定点がバラバラの時期に実施されている。少なくとも同じ時期。同じ月に実施して欲しい。 ・海底で粉碎処理しているウニ類除去方法についての意見を、赤木構成員から求められた。 →ウニ類の除去には、海底で粉碎する方法と回収して陸上で処理する方法がある。一長一短ある。 海底粉碎処理は効率的には優れているが、産卵を誘発する懸念があるという意見もある。回収処理は効率が悪いが、畑の肥料などへの利活用も可能。どちらを選択するかは、地域の特性に応じて専門家と相談して決定して欲しい。
56	山口県	江崎・須佐藻場保全グループ	藻場	益原寛文	3.1	2.3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングをバラバラの時期に実施している。同じ季節、同じ月に実施して欲しい。例えばアラメが繁茂する冬～春に、繁茂期のモニタリングとして全ての定点を調査する。 ・モニタリング結果整理に記載しているウニ類の個体数の観察範囲(単位面積)を明記して欲しい。
57	山口県	萩藻場保全グループ	藻場	益原寛文	3.4	2.6	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングをバラバラの時期に実施している。同じ季節、同じ月に実施して欲しい。例えばアラメが繁茂する冬～春に、繁茂期のモニタリングとして全ての定点を調査する。 ・モニタリング結果整理に記載しているウニ類の個体数の観察範囲(単位面積)を明記して欲しい。
58	山口県	越ヶ浜藻場保全グループ	藻場	益原寛文	3.1	2.3	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングをバラバラの時期に実施している。同じ季節、同じ月に実施して欲しい。例えばアラメが繁茂する冬～春に、繁茂期のモニタリングとして全ての定点を調査する。 ・モニタリング結果整理に記載しているウニ類の個体数の観察範囲(単位面積)を明記して欲しい。

表 2-2-7 (9) サポート専門家の指導 (2 点以上) (8)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
59	山口県	大井川環境サービス活動組織	ヨシ帯	崎長威志	3.5	3.5	4.1	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ帯の保全活動は、成25年の事業開始から継続して実施している。 ・成果目標については、田植え時期の田んぼからの流入水やカワウなど、種々の環境悪化要因により、一定していない。 ・ヨシ帯の保全作業と連携して、河床耕耘も行いアユの増殖対策にも取り組んでいる。
			内水面		3.5	3.5	-	
60	愛媛県	三浦アサリ研究会	干潟	岩瀬文人	2.7	3.1	3.1	<p>アサリ資源量の増加という本来の目的については未だ充分な成果が上がっているとは言えないが、調査、対策実施、モニタリング、ふり返りと次年度の対策決定、というプロセスはいわゆるPDCAサイクルによる事業の実施であり、いずれ成果が上がってくると考えられる。</p> <p>また、活動は活動組織の構成員だけでなく漁業者、地域住民、行政職員、教育機関、研究期間など多くの主体を巻き込んで実施されており、住民に対する普及啓発の効果、教育機関に対する教育的効果などを中心に大きな成果が上がっているものと考えられる。</p> <p>環境教育の一環として活動に参加してきた三浦小学校前の干潟に平成30年の水害により土砂が流入し、その後も河床に堆積した泥が、雨が降る毎に流出をくり返すなど干潟の状況が悪化し、この干潟で活動を続けるかどうか検討している。近隣にある宇和島水産高校や県水産研究センターとの連携は非常によくとれており、特に水産高校では生徒の自主研究を促すなど多くの成果が上がっている。</p>
61	愛媛県	愛南町漂流ごみ回収処理部会	漂流・漂着物	岩瀬文人	2.1	2.9	2.9	<p>モニタリング対象生物は岸壁の階段等に付着しているマガキの密度である。一見すると漂流・漂着ゴミの回収・処理と直接の関係がないように思われるが、マガキは御荘湾の主要な養殖対象種でもあり、ゴミの回収をしたことで海域の底質・水質環境が良好に保たれていることを確認する手段として対象生物に選定したとの説明を受け、もったもなことであったと納得した。なお、現状がマガキに好適な環境であるため、生物量の5%以上の増加を目標とする意味はなく、現状が維持できていることの確認ができればよいと考える。ただし、モニタリングの調査面積が階段の1段分であり、他の海域等との比較が難しいため、各調査地点における調査面積を計測して1㎡あたり生息数に換算した数字で示すべきであると指導した。</p> <p>活動組織の規模は小さいが、多い時には20～30人も地域住民や事業所従業員などがボランティアで漂流・漂着ゴミの回収作業に参加しており、結果として活動資金を重機リース代、清掃資材、運搬費や地元解体業者による処分費などに充てることができるため、広範囲でゴミの処理を行う事ができている。地域の海は地域で守る、という意識が強く感じられ、非常によい活動である。</p>
62	愛媛県	愛南さんごを守る協議会	サンゴ礁	岩瀬文人	2.4	3.1	3.5	<p>水産多面的機能発揮対策の事業以前から実施されていて、既に24年以上続いているピーチクリーンやサンゴ食害生物の除去などダイバーによる海域保全活動を水産多面的機能発揮対策が資金的に支援している形になっている。活動は中心的な役割を果たしているダイビングショップとその顧客や関係者の自発的な取り組みとして継続しており、平成28年度は駆除が8回モニタリングが5回の合計10、回平成29年度は駆除が6回モニタリングが6回の合計10回、平成30年度は駆除が25回、モニタリングが10回の合計35回も活動を実施している。</p> <p>サンゴ食害生物の駆除にあたっては、多くの場合活動範囲が広いわりに活動人員が少ないことや活動人員の内潜水できる人数が少なく十分な効果が得られないことが多く、活動範囲を狭めて駆除努力を集中させる必要がある。</p> <p>しかし愛南さんごを守る協議会の取り組みは潜水できる充分な人員が確保されているため、サンゴ食害生物の除去によりサンゴ群集が保全され、わずかとはいえ被度の増加が見られていることは他にあまり例の無い優良な成果であると考えられる。</p> <p>水産多面的機能の理解・増進を図る取り組みについては県内の小学校等で環境教育として活動を紹介する取り組みがあるが、未だ地元の小中学校との連携がとれていないようなので、今後地元小中学校での環境教育に資する活動を展開し、地元の自然の素晴らしさとそれを守る努力について子供達に知ってもらえたら、と思う。</p>
63	愛媛県	瀬戸地区環境保全協議会	漂流・漂着物	岩瀬文人	2.6	2.6	2.6	<p>対象生物の「ニシ」はイボニシのことで、対象海域で普通に見られる生物が他にあまりないのでモニタリング対象に選定されている。対象海域が砂浜なので本来なら対象生物は砂質性の二枚貝類など砂中生物である事が望ましいが、調査しやすい適当な種が見当たらないとのこと。</p> <p>海岸清掃を行ったことが直ちに対象海域の生物の増加につながるわけではないが、海域の生態系を正常に保つために大事な取り組みなので、今後も継続的に海岸清掃を続けていきたい。</p>
64	愛媛県	町見地区環境保全協議会	藻場	岩瀬文人	1.5	3.5	3.8	<p>ホンダワラ類を中心とする海藻類の被度を評価基準としている。しかし調査時期が11月であるため、アカモクなどの秋に成熟する種の繁茂状況を調べるには適しているが、本件のようにヒジキやヒラネジモクなど初夏に繁茂する種が優占する海域では最も藻体の少ない時期に当たり、成果について評価を行う事は難しい。</p> <p>ただし聞き取りによると、海士はガンガゼの分布密度が減少していると感じており、ヒジキの漁獲量も安定して推移しているとのことなので、本事業は当海域の藻場の保全に一定の効果があるものと考えられる。</p> <p>なお、当海域で活動している海士の人数が3～4人と非常に少ないため、今後の事業継続を確実にするためには人員確保の方策を考えておく必要がある。</p>
65	愛媛県	中山川流域環境保全活動組織	内水面	崎長威志	1.5	4.4	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・活動項目は河川清掃で、不法投棄ゴミの回収や、ヨシなどの除草作業である。 ・清掃活動は、河川全域を対象に、10地区に区分けし、毎年参加している地元企業のボランティアも加えて、効率的に実施されている。 ・モニタリングは、水生生物も個体数を調査しているが、以前行っていたゴミの分布、種類の調査も引き続き実施している。 ・モニタリングは専任の担当者により、丁寧な作業が行われている。

表 2-2-7 (10) サポート専門家の指導 (2点以上) (9)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
66	高知県	川漁を伝承する会	内水面	崎長威志	3.8	3.8	3	活動項目は、「ヨシ帯の保全」と「河川清掃」で、四万十川上流域を活動エリアとして、遊漁や、親水環境の改善維持を目的に活動している。 対象生物は、(公財)四万十川財団の指導のもと、指標生物を選定し、モニタリングを行っている。 成果目標については、量の年変動はあるものの、きれいなレベルの生物割合が増加しており、評価できると考える。 組織体制については、漁協中心の構成であるが、地域ボランティアの参加もあり、今後は、アユ釣り愛好家などへの呼びかけもするよう助言した。 横展開は、講習会などへの参加について、地理的ハンディキャップがあるが、経費支出は認められているので、検討するよう伝えた。 活動組織の運営については、四万十町が、もう一つの活動組織と合わせてバックアップしており、今後も継続的な活動の展開が期待される。
67	福岡県	柏原地区保全活動組織	藻場	益原寛文	1.6	2.6	2.6	・現状では、ウニ類の除去に注力することが藻場回復の鍵と思われる。しかし、モニタリングによれば、魚類による摂食痕が大型海藻にみられる。魚類の食害による藻場回復への影響についても注視しつつ保全活動を実施してほしい。
68	長崎県	佐世保市南部地域活動組織	種苗放流	益原寛文	-	1.5	4.1	・平成29年度のコードラート法による目視観察ではカサゴの出現を確認できなかったが、平成30年度には稚魚籠を使用して35個体のカサゴの出現を確認している。 ・稚魚籠(規格58×40×27cm)を5定点で計40個設置して、35個体採取しているの で、平均0.88個体/籠となる。今後、この値の変動から、カサゴ種苗の放流効果が 推測できると思われる。 ・横展開の評価が2点と低いので、講習会や報告会に積極的に参加し、他の活動組 織の事例を自らの活動に積極的に取り入れることが望まれる。また、専門家とも相 談しながら実施することが望まれる。
			干潟		1.2	2.9	4.1	・対象種であるアサリの個体数、重量はわずかではあるが経年的に増加傾向にあ る。 ・他の活動組織の袋網式天然採苗によるアサリ増殖事例は多いので、講習会や報 告会に積極的に参加し、他の活動組織の事例を自らの活動に積極的に取り入れる ことが望まれる。また、専門家とも相談しながら実施することが望まれる。
			海難救助		-	1.5	2.9	・平成29年度にエンジントラブルで航行不能になった耕うん作業船を、他の耕うん作 業船が港まで曳航した事例は、海難救助件数にカウントされると思われるので、確 認して欲しい。 ・安全基準に適合した救命胴衣(桜マーク)の着用が義務付けられている。桜マーク のない救命胴衣の着用は違反になることを構成員に周知して欲しい。 ・海難救助訓練のメニューは多いので、講習会や報告会に積極的に参加し、他の活 動組織の事例を自らの活動に積極的に取り入れることが望まれる。
69	長崎県	小長井西部活動組織	藻場	益原寛文	-	2.8	2.8	・アサリの減少原因について、高い頻度で実施している詳細なモニタリングの情報 (アサリ生物量、地盤高、食害生物、環境異変)、及び周辺海域の様々な環境情報よ り考察し、対応策を検討して欲しい。その際、地域の専門家と相談しながら実施して 欲しい。
			海難救助		-	2.7	3.5	・民間による救助件数は海上保安部よりはるかに多い。たまに発生する救助要請に 適切に対応できる救援体制を構築していただきたい。 ・安全基準に適合した救命胴衣の着用が義務付けられていることを、構成員に周知 していただきたい。
70	長崎県	小長井中央活動組織	干潟	益原寛文	-	2.5	4.1	・アサリの減少原因について、高い頻度で実施している詳細なモニタリングの情報 (アサリ生物量、地盤高、食害生物、環境異変)、及び周辺海域の様々な環境情報よ り考察し、対応策を検討して欲しい。その際、地域の専門家と相談しながら実施して 欲しい。
71	長崎県	小長井東部活動組織	干潟	益原寛文	2.8	3.1	2.8	・各年度の生物量は、アサリ出荷前の生残数把握に役立つ2月のモニタリング結果 を提示したとのこと。 ・他の活動組織では、稚貝等の沈着促進でアサリ増殖の効果が得られているので 様々な手段でアサリ増殖を図ることが大切と助言した。 ・これに対し、稚貝等の沈着防止は他の事業で実施中。今までありとあらゆるアサリ 増殖の方策を試みたが、うまくいかなかったとの返答があった。
			海難救助		1.9	3.5	2.9	・民間による救助件数は海上保安部よりはるかに多い。たまに発生する救助要請に 適切に対応できる救援体制を構築していただきたい。 ・安全基準に適合した救命胴衣の着用が義務付けられていることを、構成員に周知 していただきたい。
72	長崎県	伊木力漁場保全の会	藻場	益原寛文	3.1	4.4	4.4	・海藻類の被度が経年的に増加し、被度も飽和状態にあると思われる。継続的な保 全活動を実施して、よりレベルの高い環境保全活動を実施して欲しい。 ・藻場の保全活動を実施する過程で、普及啓発にリンクさせる試みは、より実践的な 普及啓発活動として望ましい。今後も、積極的に実行して欲しい。
			国境・水域監視		4.5	2.8	4.4	・通報件数の増減に一喜一憂することなく、継続的にモニタリングを実施している という緊張状態を維持していることが大切と思われる。 ・平成30年度の水産多面的機能発揮対策技術講習会で活動内容を発表し、積極的 に横展開を図っている。 ・今後も普及啓発的な観点から、活動を内外に発信していくことが望まれる。

表 2-2-7 (11) サポート専門家の指導 (2 点以上) (10)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
73	長崎県	池下地区資源を守る会	藻場	益原寛文	3.5	3.1	4.7	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価に際しては、同じ季節の生物量の変化を追跡して、経年的な変動を評価することが望まれる。 自然相手の保全活動なので、生物量の増減に一喜一憂することなく長い目で取り組んで欲しい。 生物量が減少した場合には、その原因について検討し、対策を策定するなどの対応をしてもらいたい。増加した場合にも、より効果的な保全方法を検討して欲しい。 これらの検討を行う際には、他の活動組織の事例を参考にしつつ、地域特性を熟知した専門家と相談しながら実行して欲しい。 ガンガゼの駆除において、駆除が産卵を誘発することを懸念して、回収して陸上で粉砕・埋設処理を実行している。海中でウニを粉砕処理することの是非について様々な見方がある。より安全サイドに立った池下地区活動組織の判断を尊重したい。
			海難救助		3.1	3.5	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 活動のメニューに苦慮しているとのこと。他の活動組織の多彩なメニューを参考にし、継続的に取り組んで欲しい。
74	長崎県	江の浦地区藻場を大切にす会	藻場	益原寛文	3.9	3.1	4.1	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価に際しては、同じ季節の生物量の変化を追跡して、経年的な変動を評価することが望まれる。 自然相手の保全活動なので、生物量の増減に一喜一憂することなく長い目で取り組んで欲しい。 生物量が減少した場合には、その原因について検討し、対策を策定するなどの対応をしてもらいたい。増加した場合にも、より効果的な保全方法を検討して欲しい。 これらの検討を行う際には、他の活動組織の事例を参考にしつつ、地域特性を熟知した専門家と相談しながら実行して欲しい。
			海難救助		3.1	2.3	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な救助体制を構築し、救助件数増加の成果目標を達成させてほしい。
75	長崎県	有喜地区藻場保全の会	藻場	益原寛文	2.9	2.2	2.2	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価に際し、同じ季節の生物量の変化を追跡して、経年的な変動を評価することが望まれる。 自然相手の保全活動なので、生物量の増減に一喜一憂することなく長い目で取り組んで欲しい。 生物量が減少した場合には、その原因について検討し、対策を策定するなどの対応をしてもらいたい。増加した場合にも、より効果的な保全方法を検討して欲しい。 これらの検討を行う際には、他の活動組織の事例を参考にしつつ、地域特性を熟知した専門家と相談しながら実行して欲しい。
			国境・水域監視		-	0.9	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 農村集落整備事業による濁りや土砂の流入により、藻場が影響を受けたとのこと。そういう事例を確実に報告できるような計画を策定・実行することが望まれる。
			海難救助		-	0.9	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 他の活動組織の事例を参考にし、様々な洋上訓練を計画し、マンネリ化を打破して欲しい。
76	長崎県	大村湾東部東浦活動組織	藻場	益原寛文	1.2	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 海藻類の被度とウニ類の除去量が反比例していることから、焼残け状態が解消されつつあると思われる。 地元では海藻類の増加による船の航行障害を懸念する見方もある。海藻類の増加による環境面や水産上のメリットに着目して欲しい。
			海難救助		2.4	2	2.3	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な訓練実施により、より進歩した救助体制を構築して欲しい。
77	長崎県	琴海地区活動組織	藻場	益原寛文	1.8	3.2	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 回収したウニ類を粉砕・埋設処理しているが、将来的には肥料としての利活用も検討して欲しい。 ウニ類の除去量(重量、個体数)も継続的に把握して欲しい。
			国境・水域監視		-	1.2	2	<ul style="list-style-type: none"> 密漁の監視だけが目的ではないので、藻場の環境異変等の監視にも注力して欲しい。
78	長崎県	外海地区活動組織	藻場	益原寛文	2.4	4	5	<ul style="list-style-type: none"> ウニフェンス内及び周辺でウニ類密度が低下し、一部で大型海藻のホンダワラ類の生育が観察されるようになったとのこと。地道な除去活動を継続的に実施してほしい。 自然相手の保全活動なので、生物量の増減に一喜一憂することなく長い目で取り組んで欲しい。 生物量が減少した場合には、その原因について検討し、対策を策定するなどの対応をしてもらいたい。増加した場合にも、より効果的な保全方法を検討して欲しい。 これらの検討を行う際には、他の活動組織の事例を参考にしつつ、地域特性を熟知した専門家と相談しながら実行して欲しい。
			国境・水域監視		-	2.1	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 環境異変は、藻場構成種の重要な生育環境の情報として活用できることに十分留意して、監視活動を実施して欲しい。
79	長崎県	西彼南部地区活動組織	藻場	益原寛文	3.5	4.4	4.4	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度は海藻類の被度がさらに高まっているとのこと。ガンガゼの除去量の順調に増加していることから、除去の効果が発現しはじめたと思われる。地道な除去作業を、漁業者とダイバーの協働作業を継続して実施して欲しい。 漁業者以外の構成員であるダイバーは、漁業権区域内をダイビングスポットとして開放してもらい代わりに、保全活動を主に潜水作業でサポートしている。ユニークで効果的な取組であると評価できる。特に、深場での潜水ガンガゼ駆除や学童との交流会参加が、ダイバーの特質を最大限発揮した有意義な取組みだと思う。 保全活動に際しては、ダイバーなど漁業者以外の構成員の参入を促し、他の活動組織の事例を参考にしつつ、地域特性を熟知した専門家と相談しながら実行して欲しい。
			国境・水域監視		-	2.1	4.7	<ul style="list-style-type: none"> 密漁等の監視だけでなく、藻場の保全と関係が深い環境異変の監視にも注力して欲しい。
			海難救助		-	-	2.7	<ul style="list-style-type: none"> 救命胴衣は、安全基準に適合したもの(桜マーク)の着用が義務付けられていることを構成員に周知して欲しい。

表 2-2-7 (12) サポート専門家の指導 (2 点以上) (11)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容	
					H28	H29	H30		
80	長崎県	深掘地区活動組織	藻場	益原寛文	2.7	4.4	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ウニ類の除去による効果があらわれ、海藻類の被度が高い値で安定維持されているようにみえる。 ・しかし、大型海藻の多くは1年生で春藻場の構成種からなっている。周年藻場の形成に向けて、地域特性を熟知した専門家と相談しながら保全活動を継続的に実施して欲しい。 	
			廃棄物の利活用		2.7	4.4	2.8		<ul style="list-style-type: none"> ・ウニ類(ムラサキウニ、ガンガゼ)の生パック・塩ウニ加工の技術面の課題は概ねクリアしたとのこと。今後、販路開拓に向けた営業活動の強化が望まれる。
			海難救助		2.4	2.8	3.2		<ul style="list-style-type: none"> ・救助を必要とする事例が無くても、普段から反復訓練により救助体制の構築に努めて欲しい。
81	長崎県	茂木地区活動組織	漂流・漂着物	益原寛文	0.9	2.9	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・地先の共同漁業権区域内の漂流・漂着物、堆積物処理により、底曳網の主な対象種であるクルマエビ、クマエビ、ヒラメ等の水揚げが上昇する好ましい傾向がいている。 ・出水による流木等の大量流出時には臨機応変の対応をしつつ、継続的な漂流・漂着物、堆積物処理の実施が望まれる。 	
			国境・水域監視		-	0.6	2.6		<ul style="list-style-type: none"> ・共同漁業権区域内で、漁船2隻(各1名乗船)により週2回の頻度で環境異変を監視。 ・改善点: 令和元年からは、漁業権区域の岸側と沖側で1隻ずつ計2隻の監視体制とする。
82	長崎県	橘湾地区活動組織	藻場	益原寛文	3.2	2.9	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年のガンガゼ粉砕処理後、稚ウニが増加したので、粉砕により産卵が誘発されることを懸念して、30年にはガンガゼを回収・産廃処理したとのこと。 ・粉砕による影響には様々な見方がある。夏の産卵期は回収、冬は効率性を考慮して粉砕処理を推奨している県がある。 ・藻場の保全は比較的順調に推移しているようだが、何か問題が発生した場合には、サポート専門家の中嶋・渡辺さんや県の普及指導センターなど、地域特性を熟知した専門家と相談しながら実施してほしい。 	
			漂流・漂着物		1.2	2.5	3.8		<ul style="list-style-type: none"> ・底曳き網(エビ漕ぎ網)による海底の堆積物除去では、併せてエビ・カニ類の採捕個体数を活動記録日誌に記載して、採捕重量に換算している。 ・毎回3ノットの速度で30分曳網しており、曳網回数も毎年200~400回と多い。 ・これらのことから、底曳網によるエビ・カニ類の単位面積当たりの採捕量を、生物量の評価に使用することが可能と思われる。
			海難救助		-	0.9	2.9		<ul style="list-style-type: none"> ・特に人身に関わる海難でなくても、エンジントラブルによる漁船の曳航等も救助件数に含まれると思うので、評価点の向上に活用してもらいたい。
83	長崎県	大村湾地域漁業環境保全会	干潟	益原寛文	-	1.8	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・生物量の変動が大きいので、今後も継続的にモニタリングを実施してほしい。 	
84	長崎県	針尾藻場造成協議会	藻場	益原寛文	1.2	1.6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・同一時期にモニタリングを実施することが望ましい。 ・ウニ類の除去活動により、海藻類の被度は増加している可能性も考えられる。除去の努力量としてのウニ類粉砕数量の測定・記録に努めて欲しい。 	
			種苗放流		-	2.1	3.2		<ul style="list-style-type: none"> ・潜水目視観察による放流個体個体の確認が0~5尾と少ない(0~0.01%)。観察範囲を拡大する、あるいは籠など別の方法を実施するほうが望ましいと思われる。いづれにせよ、協定市の佐世保市と相談しながら実施してほしい。
			海難救助		-	0.9	2		<ul style="list-style-type: none"> ・人身事故をとまなう海難でなくても、エンジントラブルを起こした船を港まで曳航したら、救助件数にカウントできると思うので、成果として記録して欲しい。
85	鹿児島県	あいら藻場・干潟再生協議会	干潟	益原寛文	3.8	3.8	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な保全活動が功を奏して、協定面積内における推定資源量は飛躍的に増加している。 ・生物量は順調に増加しているが、気をゆるめることなく、経験やデータを踏まえた課題・問題点を常に抽出し、専門家と相談しながら、より有効な手法を用いて保全活動を実施して欲しい。 ・干潟保全活動の成果を内外に積極的に発信することが望まれる。 ・地域住民も交えて干潟の保全活動を実施することにより、組織体制の多様化が望まれる。 	
			ヨシ帯		3.8	3.7	2.9		<ul style="list-style-type: none"> ・自然相手の保全活動であるので、一喜一憂するすることなく、息の長い取り組みが大切。専門家と相談しながら効率的な保全手法を採用することが大切(横展開を図る)。
			漂流・漂着物		4.1	2.6	3.5		<ul style="list-style-type: none"> ・将来、廃プラ問題の啓発に向けて、砂の中のマイクロプラスチックの分析を実施したいとのこと。住民参加による組織体制の多様化や専門家と協議しつつ横展開を図ることが大切。
86	鹿児島県	鹿屋市漁協アマモ会	藻場	渡辺耕平	2	3.5	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ①ウニ類の駆除効果は海底地形により、差が現れることがある。天然岩礁区では数回の駆除活動によって、ウニ類の個体数を大幅に削減することができる場合が多い。一方、積み重なった転石帯(投石等)や、消波・根固めブロックでは奥に潜んでいるウニまで一度に除去することは困難である。とくにブロック周辺ではムラサキウニより食害率が高いガンガゼが多く見られる。このため、除去活動の回数が他地区より多い古江新港沖では依然として海藻類の植被率(%)が低く、磯焼けに近い状況が続いている。 ②モニタリングの際に植生を景観被度でみる場合、1mおよび50cm方形枠内の植生被度を観察するのが一般的であるが、モニタリング定点を中心に5m四方の方形枠を想定して広範囲をみることにし、平均した数値で表され、観察者による誤差を少なくする方法もある。この場合、ウニ類の棲息個体数も5mラインを直線に設置し、5m×1m内の個体数を数え、1㎡あたりに換算することでより正確に表すことができる。 ③県下に生育している一年生アマモの場合、群落分布変動が大きいことが知られている。一年生アマモの特徴は地下茎を有する多年生アマモ群落に対して、母藻が地下茎を持たないため、種子が落下・発芽した場所に翌年の群落が形成される。このため、種子が落下する時期に南よりの季節風が強いと波浪により種子は流され、分布が北に変動することがある。また年によって結実量や海象により発芽率および発芽量は影響を受ける。 	
			種苗放流		3.2	3.2	3.8		<ul style="list-style-type: none"> ②地元の児童が天候の理由で事業に参加できない場合は、活動組織が学校へ訪問し、講義を行う。 ③アンケートの実施により、理解度が把握できるようになった。

表 2-2-7 (13) サポート専門家の指導 (2 点以上) (12)

No	訪問先 (道府県)	訪問先(活動組織名)	活動内容	専門家氏名	評価点(総合点)			指導内容
					H28	H29	H30	
87	鹿児島県	高山磯焼対策チーム	藻場	渡辺耕平	4.4	4.4	3.2	①ウニ類の駆除による効果が活動当初にはなかなか現れてこない地域が多くみられる。とくに典型的な磯焼け海域ではウニ類しかみられないといった生態系のバランスが崩れた環境になっている。しかし、駆除を続けることにより徐々にウニの生息密度が下がってくると小型海藻種が着生し始め、生物の多様化が進むことにより、魚類、エビ・カニ類、ヒトデ等の肉食性動物種も増加する。これらの生物が浮遊生活から着底し始めた稚ウニを盛んに摂食することで、加入するウニの数を減らせている。このように生態系が安定することにより、ウニ駆除に頼らなくても藻場が維持されている地域も増えてきた。 ②ウニ類の駆除効果は海底地形により、差が現れることがある。天然岩礁区では数回の駆除活動によって、ウニ類の個体数を大幅に削減することができる場合が多い。 一方、活動区域東側にみられるような巨大転石帯や、漁港周囲の防波堤に設置された消波・根固めブロックでは奥に潜んでいるウニまで一度に除去することは困難である。このため、活動回数を増やす必要もある。 活動区域内のウニ類にはムラサキウニを主体にガンガゼ類、ナガウニ類、タワシウニ、アカウニ、シラヒゲウニが生息している。このうち食害圧が高いムラサキウニ、ガンガゼ類、ナガウニ類は優先して駆除を行う。
88	鹿児島県	広瀬川川守隊	内水面	稲田善和	3.5	3.5	2.6	協定範囲に水面が入っておらず水面を入れた範囲に変更の意向有り。 モニタリングの対象生物を底生生物等に変更を検討しているようで、しっかり計画して実行されるよう期待したい。
89	鹿児島県	大根占藻場保全会	藻場	渡辺耕平	1.6	2.9	3.5	モニタリングの手引き(暫定版)より、【藻場の保全】を活動項目に設定した場合の対象生物は海藻・海草の被度・面積となっている。 各モニタリング定点における海藻類の生育状況を表す被度(%)は方形枠を使用するコードラッド法と方形枠を使用しない景観被度法がある。 鹿児島大学による定期モニタリングは方形枠を使用し、枠内に繁茂する全ての海藻種の観察をおこなっていることから、保全会のメンバーによるモニタリングは景観被度法を勧め、漁業者用に作成した野帳を手渡した。
90	鹿児島県	網掛川干潟再生の会	種苗放流	稲田善和	3.2	3.1	2.8	地元産のハマグリは既に無く、有明海産など県外から種苗を購入しての放流・増殖が試みられている。種苗の安定入手の難しさもあるが、放流手法についても、耕耘、花壇式、網袋垂下式、被覆網設置など、試行錯誤しながら懸命に取り組んでいる。成果目標点が高いのもやむを得ない面もある。
			干潟		3.2	3.1	2.8	稚貝の放流場所となる干潟については、出水の度に堆積する土砂によって、干潟が高くなる傾向が続いている。 それによって、アサリ・ハマグリが生息域が狭くなるので、大きな出水災害の後では特に、土砂の除去やゴミの撤去といった作業も行うなど、干潟の保全には苦心している。ただ、成果目標点にみられるように、人力の及ばない面もある状況ではある。
			内水面		3.8	3.1	2.2	網掛川下流域は昔からウナギの石倉漁が行われており、ウナギの石倉による生物調査は初年度から実施している。また、石倉の作り方も経費が安くなるよう工夫して進めてきている。 活動組織としては、生物調査で河川環境の一定の評価もできたので、次期事業では、ウナギ石倉の生物調査は実施しない予定とのことである。
			効果促進		3.2	3.1	2.2	河川堤防の草刈り作業や、河川内のゴミの収集も実施されており、また、小学生児童の河川内での生物採取体験や、干潟での潮干狩り体験学習など、教育学習面では、学校・保護者にも「是非続けて欲しい」と高く評価されている。
91	沖縄県	恩納村美ら海を育む会	サンゴ礁	長田智史	2.7	3.1	4.7	サンゴ植え付けは、独自に試行錯誤しながら、養殖から中間育成から、植付苗の生産を含む包括的な取り組みとなっている。 オニヒトデ除去は、漁業者それぞれが日常的に観察し情報共有することで、オニヒトデが集中する範囲に加え、予防的にそれらの周辺でも実施し効果的、効率的な取り組みとなっている。 以下の内容と合わせて、地域全体のサンゴ群集の回復を目的とした、他に例のない取り組みを継続して続けている実績は、沖縄県全体のサンゴ礁保全の参考になる。
92	沖縄県	伊江島の会	サンゴ礁	長田智史	4.2	4.4	4.7	地域との連携は、子ども達への普及啓発に加え、村役場には広報で協力を得ている。今後、観光業との連携をすすめるために、サンゴ植付苗の仮置や海の生き物の観察など多用途向けの水槽を整備するなどし、普及啓発や苗作りなどを、より実体験に近づけられるよう工夫が求められる。 島内では、漁業者に潜水漁従事者が少なく、漁業者以外でも若いダイビングオーナーがおらず、世代交代が課題となっている。 サンゴが増えていることと、タマンが増えているようななどの漁業者の実感が、取り組みへの意欲につながっていることは、他事例の参考になる。

(3) 指導内容の整理と参考資料の作成

サポート専門家が提出した報告書を整理し、他の活動組織の参考となると考えられる事項を表 2-2-7 に Q&A として整理した。

表 2-2-8 サポート Q&A

	質疑	応答
①藻場の保全		
1	ワカメの種糸の保管方法を教えてほしい。	ワカメの種糸は、遮光のため土嚢袋に収納して水中に沈めて秋季まで保管する。ただし、保管場所として好適な条件はまだ曖昧である。
2	ワカメロープやカジメネットを取り付けるU字ボルトはどの程度の水深の場所につけるのが良いのか。	ワカメやカジメは水深帯によって生長に差が出るため、3か所程度の水深帯に分けて設置し、それぞれの場所の生長をモニタリングして検討するとよい。
3	母藻（アラメ・カジメ）の固定に最適な方法は？	いくつかあるが、三重県の活動組織が実施しているもので、石に針金の一部を埋め込んだモルタルを付け、飛び出した針金でアラメの付着部をしばりつけて投入する方法がある。
4	アラメやカジメの打ち上げ藻を集め、麻紐で編んだネットに成熟した葉状部と重りを入れたものを海中に設置したいと考えている。	打ち上げ藻を使うのであれば、鮮度を判定する必要がある。また、提案の方法ではネットが海底に沈むため、ウニの餌になってしまうと思われる。可能であればスポアバッグのように海中に浮かせた方が効果的である。
5	アラメ種苗保護カゴの網の目合いはどのくらいが適当か。	籠の目合いが小さいと光量不足となる恐れがある。3cm程度の目合でも魚類の侵入を防ぐことができる。
6	ウニの駆除はいつ頃行ったら良いか？ 海藻の発芽時期の前が最適と聞いている。	海藻の芽生えや初期的な生長を守るためにも、海藻の生長期前にウニ駆除を行うべきである。また、1度だけの駆除では周辺から別の個体が侵入する。年に数回実施し、個体密度を減らすことが大切である。
7	ガンガゼ属の成熟時期はいつか。	初夏の7月頃に成熟する。
8	投石場に隠れているイスズミ属の魚を駆除するには、どうしたらよいか？	網丈が高い刺網で包囲または瀬切りすれば、漁獲できる可能性が高い。なお、イスズミ属は夕刻から移動し始め、明け方に帰ってくるので、その移動経路を遮断するように刺網を設置すれば漁獲できる可能

		性が高い。
⑥内水面の生態系の維持・保全・改善		
9	石倉カゴが埋まったり、周囲の川底が掘れてしまうのを防止するにはどうしたらよいか。	石倉カゴに木材、砕石等による台座を設置するとよい。
⑨廃棄物の利活用		
10	活動で除去されたイスズミを食材として利用する際、その歩留まりはどの程度か。	歩留まりは約 20%である。
11	イスズミは独特の臭みがあるが、どのように処理すればよいか。	臭みを取り除くには、皮下の血合いをきれいに除去することが重要である。
⑧その他		
12	教育・学習活動の現場でアンケート等を実施するのが難しい。クイズ形式などで、その場で理解度を把握しても良いか。	それも1つの方法と考えられる。学校が対象の場合は、アンケート用紙を配布して後日教室で記入してもらい、回収するのも一つの方法である。

2-3. 効果的な保全手法等の開発

講習会やアンケート等をもとに、活動組織が必要としている保全手法等に関するテーマを設定し、その技術開発を行った。表 2-3-1 に技術開発のテーマと成果の概要を整理した。

また、技術開発における調査研究報告を資料編 8 に収録した。

表 2-3-1 技術開発のテーマと成果の概要

	テーマ	成果の概要
1	効率的なウニ駆除装置の開発	わずかな力でウニを確実に割ることで、作業効率と作業労力の低減が図られるウニ駆除装置（ウニバスター）の開発を行った。ウニ駆除装置は、潜水方式と船上方式の2つの方式でウニを駆除できる。本体は岩の割れ目に潜むウニを確実に割ることが可能である。ただし、船上方式は、竿の材質と剛性、海面からのウニの視認に課題が残された。
2	植食性魚類を駆除するための漁具や仕掛け方の資料集づくり	本調査では、活動組織が実践しやすいように植食性魚類の種類（ブダイ・ノトイスズミ・アイゴ）の漁具（釣り・網）や仕掛け別に、「いつ」、「どこに」、「どのくらいの範囲」で仕掛けて捕

		獲するのかをまとめた実用的な資料集を作成した。
3	サンゴの白化対策（サンゴ遮光ネット）の開発	2 ヶ年の実証試験期間中に、白化現象が起きなかったため、天然サンゴ（親サンゴ群）に対する遮光効果を明らかにできなかったが、補足試験から遮光対策を施した方が、サンゴの活性度（色が濃くなる）が高まる傾向が得られたことから、移植サンゴの生残率向上に遮光が有効出ることから、そのマニュアルを作成した。
4	浅場（干潟）保全活動の生物多様性への寄与に係る評価分析（継続）	平成 30 年度に海底耕うんを主体とする浅場の保全活動組織を対象に、生物多様性への寄与に係る評価分析について検討し、その評価分析の方針案をとりまとめた。そこで、浅場の保全活動組織以外で当該効果が期待される干潟の保全活動組織を対象に、同様の手法で評価分析を行い、生物多様性への寄与に係る評価について検討し、とりまとめた。
5	二枚貝（アサリ）殻長測定簡易手法の開発（継続）	平成 30 年度に開発・配付した二枚貝（アサリ）殻長測定アプリケーション（以後、アプリと称す）に関するフォローアップを実施した。フォローアップとしては、①アプリを配付した活動組織及び地域協議会・協定市町村等の指導機関における使用方法に関する問い合わせ対応（7 件）、②アプリの活用や使用方法を普及するための講習会（3 回）、③アプリの利用実態や課題等に関するアンケート調査（回答数 42）を行うとともに、その結果を整理し、今後の課題をとりまとめた。
6	河川モニタリング（底生生物）調査手法の開発	<p>現在、内水面を対象とする活動組織の多くは、底生生物を対象としたモニタリング調査を実施している。しかし、これら調査は定性的に実施する例が多く、定量的な経年変化の把握が困難な状況にある。そこで、個別サポートを活用して実施されている「高尾野川をきれいにする会」で取り込まれる定量採集による底生生物調査方法を参考に「底生生物に関する川の生きもの定量調査マニュアル（以下、マニュアルと称す）」を作成し、その技術普及を図ることとした。</p> <p>作成したマニュアルの概要は、以下のとおりである。</p> <p>■ 定量採集による底生生物調査方法のマニュアル</p> <p>個別サポートを活用して実施する「高尾野川をきれいにする会」で取り込まれる底生生物定量採集について調査し、その手法の詳細を判りやすくまとめた。</p> <p>■ 河川の主な底生生物の高次分類群における検索表</p> <p>当調査で大きな課題となる底生生物の分類に関して、漁業者でもある程度同定できる高次分類群における検索表を作成。</p>

	<p>■河川の主な底生生物に関する生態情報を示す資料</p> <p>全国に広く分布する主な底生生物の生態情報（分布・生息環境・水質指標・特徴・生活）を示す資料を作成。</p>
--	---

2-4. 水産多面的機能発揮対策事業の情報提供・共有

(1) 模範、参考となる活動組織（優良事例）の抽出と報告会の開催

① 優良事例の紹介

本調査を効率的且つ効果的に実施するにあたって、表 2-4-1 に示す優良事例を選定し、聞き取り調査等によって技術面・運営面における内容や特徴を把握し、他の活動組織の模範・参考となる資料を作成した。

表 2-4-1 模範、参考となる活動組織一覧

No.	道府県	活動組織名	活動項目
1	北海道	霧多布東地区藻場保全活動組織	藻場の保全
2	北海道	富浜ホッキ部会	干潟等の保全
3	青森県	奥戸地区藻場保全の会	藻場の保全
4	青森県	新深浦町漁協地域多面的機能発揮活動組織・ 新深浦町漁協海の監視ネットワーク活動組織	海の安全確保
5	群馬県	渡良瀬川水系魚ふれあい振興会	内水面生態系の保全
6	埼玉県	入間川流域地区活動組織	内水面生態系の保全
7	静岡県	伊豆稲取藻場保全会	藻場の保全
8	愛知県	蒲郡市漁場環境保全協議会	干潟等の保全
9	三重県	白浦活動組織	藻場の保全
10	兵庫県	明石地区林崎の浅場を守る会	干潟等の保全
11	島根県	宍道湖流域保全協議会	内水面生態系の保全
12	広島県	広島県東部アサリ協議会（浦島地区）	干潟等の保全
13	広島県	前潟干潟研究会	干潟等の保全
14	山口県	王司干潟改良グループ	干潟等の保全
15	山口県	吉母地区藻場保全グループ	藻場の保全
16	高知県	仁淀川流域の山、川、海の環境保全推進協議会	内水面生態系の保全
17	長崎県	志々伎地区磯焼け対策活動組織	藻場の保全
18	熊本県	鏡町アサリ活動組織	干潟等の保全
19	大分県	姫島地区藻場保全活動組織	藻場の保全
20	沖縄県	いげな島のサンゴ礁を愛する会	サンゴ礁の保全

② 事例報告会の開催

1) 参加対象及び広報

上記優良事例の活動実績を紹介、情報提供することで、水産多面的機能発揮対策に取り組む全国の活動組織の技術的水準の向上を図るとともに、本事業を広く国民に周知することを目的とした事例報告会（シンポジウム）を表 2-4-2 に示す会場、日程で開催した。

参加対象は以下のとおりとし、ポスター（図 2-4-1）を作成して地域協議会を通じて各活動組織に周知したほか、東京都を中心とした大学や教育委員会等の機関に案内状を送付し、後述するイベント等においても周知を図った。

<参加対象>

- ・水産多面的機能発揮対策に参加する活動組織とその構成員
- ・関係都道府県、市町村及び地域協議会の事業担当者
- ・市民活動や環境問題等に興味のある学生（高校生・専門学校生・大学生）
- ・教育関係者（小・中学校、高等学校等）
- ・水産多面的機能発揮対策に興味のある個人、団体、企業等（一般）

<開催を通知した教育機関等>

- ・生物学系学部を有する首都圏大学・短期大学、専修学校（69学部）
- ・全国の水産高等学校（49校）
- ・都内の専修学校（3校）
- ・東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県各市町村教育委員会（212箇所）

表 2-4-2 事例報告会の会場・日程

会場	東京大学大講堂（安田講堂）（東京都文京区本郷7-3-1）
日程	2020年2月8日（土）12：00～16：30（11：00 開場）
定員	約1,000名

2) 開催内容

事例報告を行う活動組織は、上記優良事例地区及びヒアリングの過程で抽出した活動組織とした。表 2-4-3 に口頭発表のプログラムを、表 2-4-4 にポスター発表（展示のみ）を行った活動組織を示した。

令和元年度 シンポジウム

主催／全国漁業協同組合連合会

全国内水面漁業協同組合連合会

後援／東京新聞・全国地方新聞社連合会

会場／東京大学大講堂（安田講堂）（東京都文京区本郷 7-3-1）

日時／2020年2月8日（土）12:00～16:30（11:00開場）

定員／約1,000名

最前線

里海保全の

さとうみ

プログラム

12:15～13:00

講演：「海洋プラスチックごみ研究の現状と課題」

講演者：道田豊氏

（東京大学大気海洋研究所 国際連携研究センター長・教授）

13:20～16:20

活動報告：「沿岸・河川的环境保全活動、海の安全確保」

- ・入間川流域地区活動組織（埼玉県）
- ・江の島・フィッシャーメンズ・プロジェクト（神奈川県）
- ・香住の海の会（兵庫県）
- ・白浦活動組織（三重県）
- ・鏡町アサリ活動組織（熊本県）
- ・央道湖流域保全協議会（島根県）

コーディネーター：八木信行氏

（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

アクセス



- ・本郷三丁目駅（地下鉄丸ノ内線） 徒歩9分
- ・本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線） 徒歩8分
- ・湯島駅（地下鉄千代田線） 徒歩18分
- ・根津駅（地下鉄千代田線） 徒歩11分
- ・東大前駅（地下鉄南北線） 徒歩5分
- ・春日駅（地下鉄三田線） 徒歩8分

※所要時間は各駅出口から東大正門までです。



入場無料

お問い合わせ： 全国漁業協同組合連合会（担当：関根・片瀬）
電話：03-3294-9616 FAX：03-3294-9658
E-mail：info@hitoumi.jp

参加お申込み：上記 QR コードから申し込みフォームにアクセス、
または、裏面の申込書にご記入の上、左記ま
で FAX、メールにてお申込みください。

写真提供：ピクスタ

平成 31 年度 水産多面的機能発揮対策支援委託事業

図 2-4-1 事例報告会案内ポスター

図 2-4-3 事例報告会（シンポジウム）のプログラム

時刻	内容		備考
11:00	開場・受付		
12:00~12:15	開会、挨拶、オリエンテーション		挨拶: JF 全漁連
12:15~13:00	講演:「海洋プラスチックごみ研究の現状と課題」 演者: 道田豊 氏 (東京大学大気海洋研究所 国際連携研究センター長・教授)		水産庁 司会: JF 全漁連
13:00~13:10	質疑応答		
13:10~13:20	休憩		
活動報告			コーディネーター:
13:20~13:40	内水面生態系の維持・保全・改善	入間川流域地区活動組織 (埼玉県飯能市)	八木信行教授 (東京大学)
13:40~14:00	漂流・漂着物、堆積物処理	江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト (神奈川県藤沢市)	
14:00~14:20	海の監視ネットワーク強化	香住の海の会 (兵庫県香美町)	
14:20~14:30	休憩		
14:30~14:50	藻場の保全	白浦活動組織 (三重県紀北町)	
14:50~15:10	干潟の保全	鏡町アサリ活動組織 (熊本県八代市)	
15:10~15:30	内水面生態系の維持・保全・改善	宍道湖流域保全協議会 (島根県松江市・出雲市)	
15:30~15:40	休憩		
15:40~16:20	意見交換・講評 ＜コメンテーター＞ ・鹿熊信一郎 氏 (佐賀大学) ・玉置泰司 氏 (水産研究・教育機構 中央水産研究所) ・樋田陽治 氏 (元 山形県内水面漁業協同組合連合会) ・藤田大介 氏 (東京海洋大学) ・湯川英俊 氏 (NHK関連事業局)		コーディネーター: 八木信行教授 (東京大学)
16:30	挨拶、閉会		挨拶: 全内漁連

※プログラムの時間及び内容は変更する場合があります。

表 2-4-4 ポスター発表事例

	活動組織名	地域	主な活動内容
1	霧多布東地区藻場保全活動組織	北海道浜中町	藻場の保全
2	富浜ホッキ部会	北海道日高町	干潟等の保全
3	奥戸地区藻場保全の会	青森県大間町	藻場の保全
4	新深浦町漁協地域多面的機能発揮活動組織	青森県深浦町	海難救助訓練
5	渡良瀬川水系魚ふれあい振興会	群馬県桐生市	内水面生態系の保全
6	伊豆稲取藻場保全会	静岡県東伊豆町	藻場の保全
7	蒲郡市漁場環境保全協議会	愛知県蒲郡市	干潟等の保全
8	明石市林崎地区浅場を守る会	兵庫県明石市	干潟等の保全
9	広島県東部アサリ協議会（浦島地区）	広島県尾道市	干潟等の保全
10	前潟干潟研究会	広島県廿日市市	干潟等の保全
11	吉母藻場保全グループ	山口県下関市	藻場の保全
12	王司干潟改良グループ	山口県下関市	干潟等の保全
13	仁淀川流域の山、川、海の環境保全推進協議会	高知県土佐市	内水面生態系の保全
14	志々伎地区磯焼け対策活動組織	長崎県平戸市	藻場の保全
15	姫島地区藻場保全活動組織	大分県姫島村	藻場の保全
16	いげな島のサンゴ礁を愛する会	沖縄県伊是名村	サンゴ礁の保全

事例報告者の参加者は 497 名（事務局、関係団体、コーディネーターを除く）であり、「活動組織」が 143 名（29%）と最も多く、次いで「個人・NPO・企業等」が 131 名（26%）、「地域協議会」が 120 名（24%）の順であった。

本報告会のテキスト（発表事例）を別冊資料に、コーディネーター・コメンテーターと発表者との質疑応答（議事録）を資料編 9 に収録した。

参加者属性

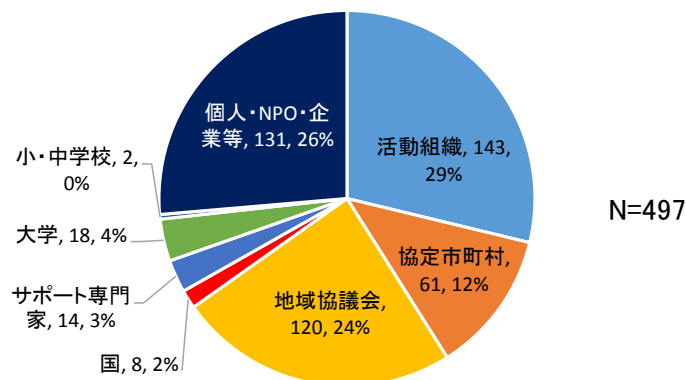


図 2-4-2 参加者の属性



会場概観



受付



ポスター展示



開会挨拶（全漁連）



開会挨拶（水産庁）



講演（道田豊氏）



事例報告（入間川）



事例報告（江ノ島）



図 2-4-3 報告会の開催状況

3) アンケート結果

参加者に対し、図 2-4-4 に示すアンケートを実施した。参加者 497 名のうち、269 名から回答を得た（回答率 54%）。

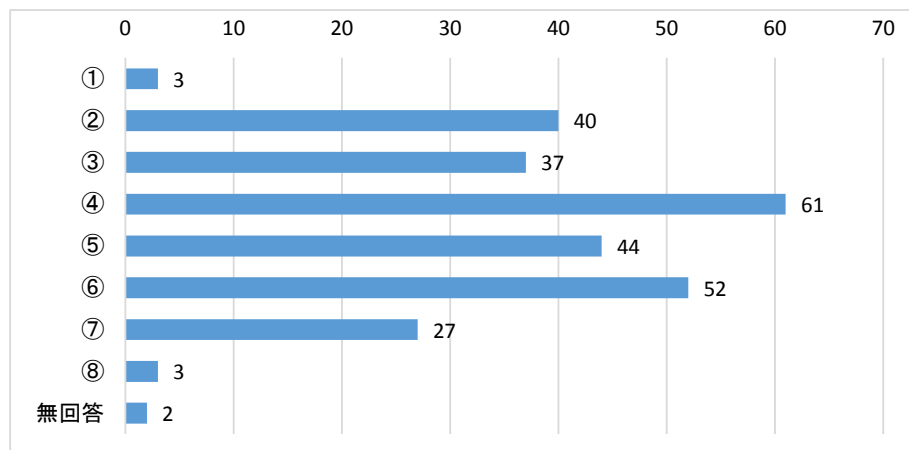
令和元年度 シンポジウム「里海保全の最前線」参加者アンケート	
	2020. 2. 8
1. あなた自身について教えてください	
●ご年齢) ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80歳以上	
●ご所属・ご職業)	
○事業関係者は以下から選択してください	
①活動組織 ②協定市町村 ③地域協議会会員（道府県庁・漁連等） ④サポート専門家	
○一般参加の方は以下から選択してください	
⑤会社員・会社役員 ⑥団体職員 ⑦自営業・自由業 ⑧公務員	
⑨教職員（小・中・高・高専・大・専） ⑩学生（小・中・高・高専・大・専）	
⑪パート・アルバイト ⑫専業主婦（夫） ⑬無職 ⑭その他（ ）	
2. 本日のシンポジウムについてうかがいます	
(1) 講演「海洋プラスチックごみ研究の現状と課題」はいかがでしたか？	
①参考になった・興味深かった ②どちらともいえない ③参考にならなかった・興味がない	
(2) 「活動報告」はいかがでしたか？	
①参考になった・興味深かった ②どちらともいえない ③参考にならなかった・興味がない	
(3) 本日の発表の中で参考になった、または興味がわいた事例はどれですか？（複数選択可）	
①入間川流域地区活動組織 ②江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト ③香住の海の会	
④白浦活動組織 ⑤鏡町アサリ活動組織 ⑥宍道湖流域保全協議会	
(4) ポスター展示はいかがでしたか？	
①参考になった・興味深かった ②どちらともいえない ③参考にならなかった・興味がない	
(5) 会場はいかがでしたか？	
①次回も同じ会場が良い ②次回は違う会場が良い ③特になし	
3. その他ご意見・ご感想をお聞かせください	
4. 一般参加（事業関係者以外）の方にお聞きします。このシンポジウムをどこでお知りになりましたか？	
①新聞広告 ②イベント会場※1 ③ウェブサイト※2 ④郵送でのご案内(DM)	
⑤知人の紹介 ⑥その他（ ）	
※1：東京湾大感謝祭（横浜市）、全国小中学校環境教育研究大会（千葉県富里市）	
※2：「ひとうみ.jp」、Facebook「ひとうみnet」、水産庁のウェブサイト	
ご協力ありがとうございました	

図 2-4-4 アンケート用紙

以下、アンケートの集計結果を示す。

1. あなた自身について教えてください

●ご年齢) ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80歳以上



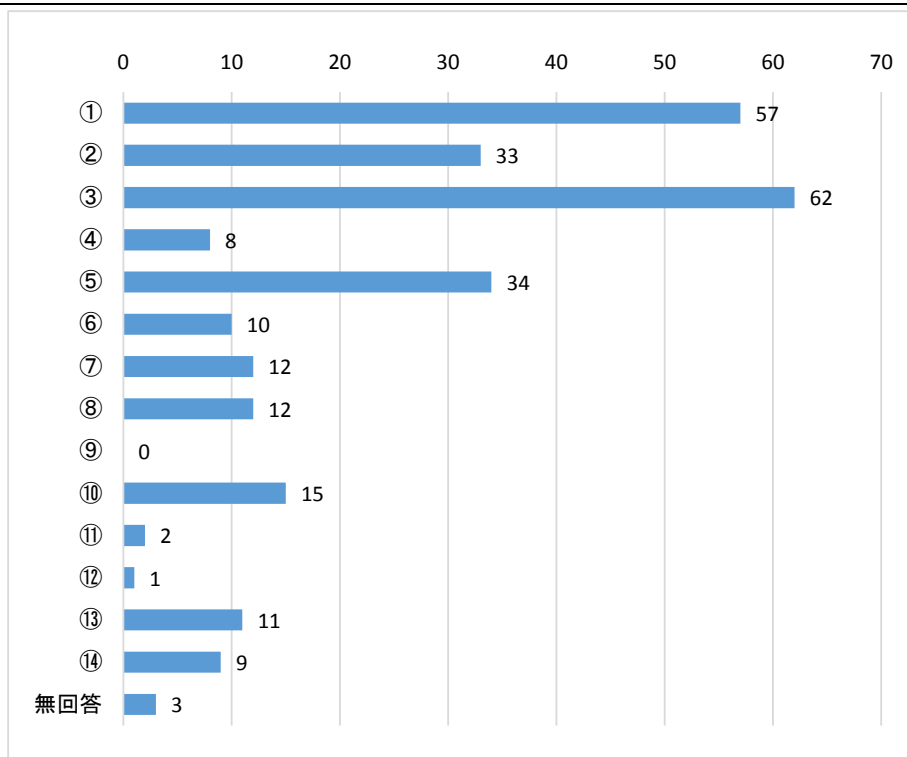
●ご所属・ご職業)

○事業関係者は以下から選択してください

- ①活動組織 ②協定市町村 ③地域協議会 ④サポート専門家

○一般参加の方は以下から選択してください

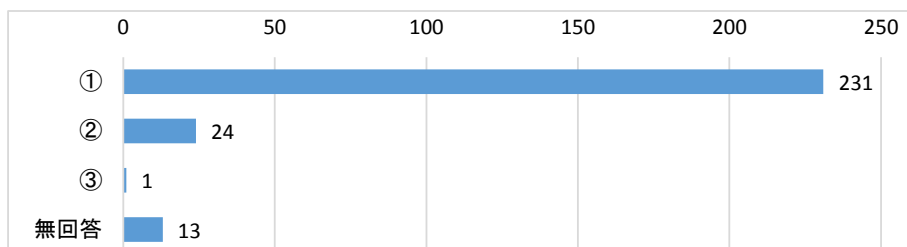
- ⑤会社員・会社役員 ⑥団体職員 ⑦自営業・自由業 ⑧公務員
⑨教職員 (小・中・高・高専・大・専) ⑩学生 (小・中・高・高専・大・専)
⑪パート・アルバイト ⑫専業主婦 (夫) ⑬無職 ⑭その他 ()



2. 本日のシンポジウムについてうかがいます

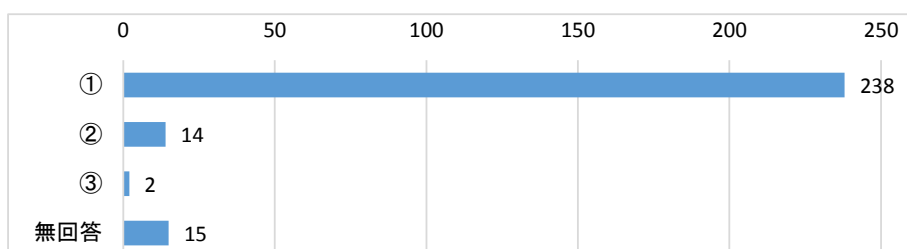
(1) 講演「海洋プラスチックごみ研究の現状と課題」はいかがでしたか？

①参考になった・興味深かった ②どちらともいえない ③参考にならなかった・興味がない



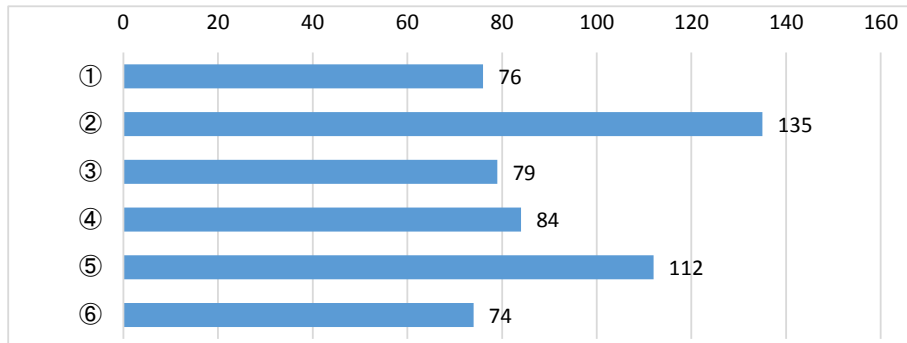
(2) 「活動報告」はいかがでしたか？

①参考になった・興味深かった ②どちらともいえない ③参考にならなかった・興味がない



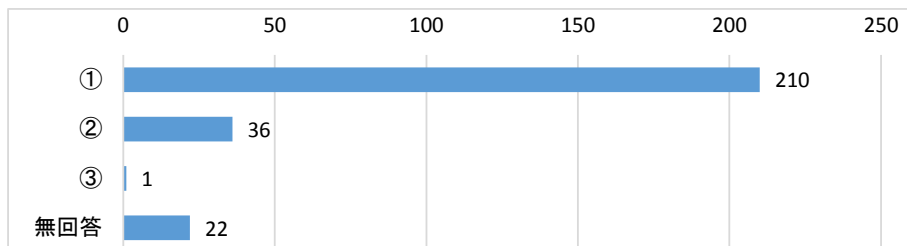
(3) 本日の発表の中で参考になった、または興味があった事例はどれですか？（複数選択可）

- ①入間川流域地区活動組織 ②江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト ③香住の海の会
④白浦活動組織 ⑤鏡町アサリ活動組織 ⑥宍道湖流域保全協議会



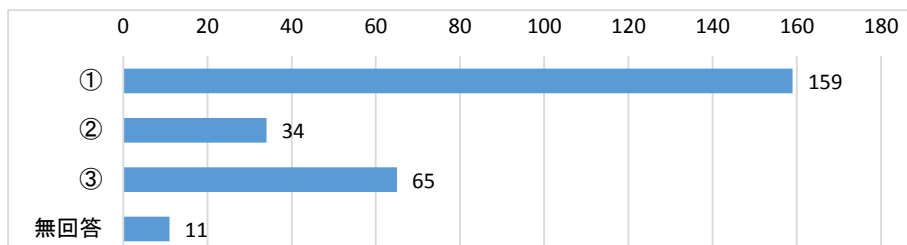
(4) ポスター展示はいかがでしたか？

- ①参考になった・興味深かった ②どちらともいえない ③参考にならなかった・興味がな
い

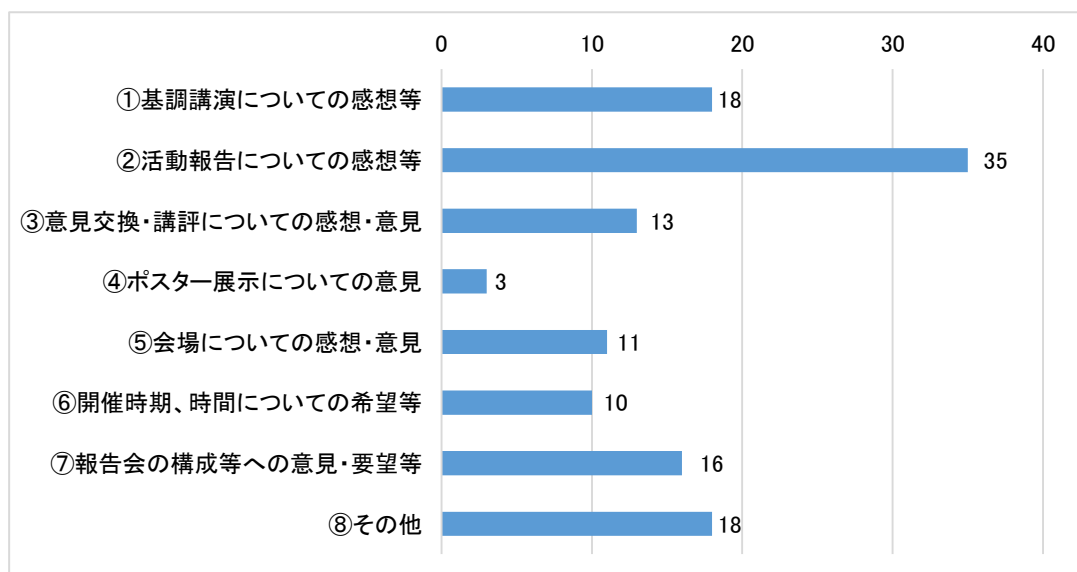


(5) 会場はいかがでしたか？

- ①次回も同じ会場が良い ②次回は違う会場が良い ③特になし



3. その他ご意見・ご感想をお聞かせください



①基調講演について（18件）

- ・海洋汚染、特に生態系に影響が大きいマイクロプラスチックをいかに減らすか、又は除去するか、フィルターメーカーが役に立つことは無いのかと思う次第です。高性能のフィルターにより除去活動、また微粒子の計測技術についても役立てれば幸いです。
- ・海洋プラスチックについて、海の中、沿岸にたくさん見られます。漁業にとっていいわけないと思います。有効な対策が早く見つかってほしいと思います。
- ・プラスチックごみへの取組みには強く関心があります。
- ・海洋プラスチックの問題は大変なんだと良く分かった。今後の汚染の影響は心配だし、解決できるか不安になった。
- ・プラスチックゴミはどこからきてどこへ行くのかとても興味があった。保全するにはプラスチックゴミは大きな問題だと思うので、少しでも力になりたいと思った。保全に関するボランティア、清掃や生物調査などに参加していきたい。
- ・プラスチックの問題は大変難しいものだと思うが、関係者ばかりが理解したところで大半の人々はメディアにおどらされている現状である。保全に関しても、人々に正しい知識を周知していく必要性がかなりあると思う。
- ・ホットな話題でとても興味深かった。講演テーマと活動報告の内容をもっと近く関連付けると意見交換が深まるのでは？
- ・海洋プラスチックの問題について興味深かったです。地球規模での環境問題について学べる場として有意義な時間をすごせました。ありがとうございました。
- ・早口で言葉が聞き取れない。解決の具体策が無かった。
- ・極めて明快なご講演（懇切なご説明等）を賜り、ありがとうございました。高知県仁淀川の上流の（吾北村）の生まれですので、末永く保全されますよう願いたします。
- ・講演が資料とプレゼンが違いすぎてちょっとわかりにくかった。
- ・2020年からの調査に関して特に気になった。

- ・新聞にプラの問題がのってたので参考になりました。
- ・問題意識、取組まれている事に関しては非常に敬意を表しますが、現時点において解決できないと思いました。時間の猶予を感じる最前線に思います。今すぐにもっと危機感／意識が必要だと思います。今の状況が最前線なんだと印象を受けました。安易に命を駆除等という言葉を用いて表現しますが、本当にそれが原因であるとなぜ言えるのか。また、殺したことが別の問題を引き起こす要因にならないのか、幅広い視野と命、生き物への尊厳意識が軽んじられていないかと感じました。
- ・講演について、最近話題の海洋プラスチックについてだったので、とても勉強になった。
- ・講師のお話しは有意義な内容だったと思いますが、大変早口だったのであまり良く聞き取れなかったのは残念です。
- ・声が小さくて聞き取りできません。各店でプラ容器やビニール袋が圧倒的に多いです。環境を無視しています。紙容器はほんの一部しか使われていません。海プラ問題がでてから各企業は改善に向けていますが、この問題が出なければ改善なしに使い続けると思います。東京新聞で以前から海プラの記事が何回も掲載されていて切り抜きしてかなり集まりました。

②活動報告について (35件)

- ・どんな相手とコラボするか、するメリットはなにか、など具体的に聞けて良かった。
- ・海域監視の具体例を聞けて良かった。
- ・他の事例を知ることによって他の活動方法を組織で活かせるか検討したい。
- ・後継者の育成をどうするか、魅力ある漁業の構築への取りくみ。各地区色々取組んでいるので力強く感じました。
- ・大学生対象の出前教室（入間川）は大変参考になった。
- ・日本は海洋国、その地域の漁協、漁民、住民の活動が地道に行われていることがわかった。大変参考になった。
- ・まだまだ始まったばかり。関係者も大変ですが、私たちが協力しなくてはなりませんし、〇〇活動〇〇〇〇〇
- ・白浦活動組織も藻場、干潟の保全を実施しているので、発表チームが同じ内容に興味があり参考になりました。
- ・藻場回復について何で成功した／失敗したという分析をもうちょっと詳細に聞きたかった。
- ・里山についてはいくつか報道があるが、里海については少ないので聞きに来ました。SDGsについて自分なりに知識を集めているので。
- ・江ノ島のプロジェクトのお話しですが、ゴルフボールはどこ？から来るのと質問がありました！たぶん推測するの河川敷に禁止されている打ちっぱなしをするゴルファーが後をたちません！打ったゴルフボールを大雨等で流れたボールが河川から海へ流れて海流によって集積したのだと思われるのでは！
- ・皆様それぞれ努力されているなど聞かせていただきました。ただ、どちらも高齢化問題でなかなか困難になっている現実。活動が土、日、祝祭日に限ると若い世代は予定が詰まっております、地域の行事等も重なるなど本当に難しい。

- ・いろいろ皆さま活動していることを知って環境保全は住民の協力が必要なことがわかりました。
- ・海藻シンポジウムがいいなと思いました。漁師やダイバーなど色々な個性豊かな方がおられるから江ノ島ならではとも感じました！
- ・里海という言葉をはじめて知り、興味を持ちました。全ての環境保全に大変興味があり、今後もしいろいろ知りたいと思います。
- ・活動報告では動画を使っただけの説明など工夫されていて分かりやすかった。
- ・どの組織もとても意欲的に活動を実施しており感動した。他の組織においても今回の発表のあった組織の姿勢や活動内容を参考にして効果的な活動を実施してほしい。
- ・大学で里海に関して学びましたが、今回のように沢山の事例を見ることが出来たのは初めてであったため、大変興味深く勉強になりました。
- ・海洋、海浜清掃をCSRとしてとらえる企業もいると思うので、企業もまきこんで資金、人手を確保したりPRできたらいいのかなと思った。
- ・ゴミ収集、処分方法について興味があった。
- ・土地が違えば様々な取組みをしておられ、参考になりました。
- ・全国各地での活動報告の認識、把握が少しでもできたことに感謝です。
- ・それぞれの地域による具体的な活動事例を知ることが出来、今後の組織運営に役立つよう努めていきたいと思う。
- ・各県の方々が色々苦労されて努力され、海の保全に頑張ってもらえることに感動しました。みなさんの努力のおかげで海の恵みをいただけることに日々感謝しながら、ありがたくいただきたいと思います。大変良いお話をいただき、ありがとうございました。
- ・私は千葉県の子孫市で相当汚染された農業用排水路の浄化活動を通して、それ流れ込むもとの水田の〇〇〇〇解決のためにはその水田の有機農法を推進している者ですが、今回の各活動報告を通して各々の皆さんの地域を大切にしていける活動に勇気づけられ、日本の自然環境の保全もこのような方々のご努力でもっているのだと思っております。
- ・里山という言葉は知っていましたが、今回里海について学ぶことができて良かったと思います。海に囲まれた日本の非常に多くの地域で里海保全の為に日々努力を重ねていらっしゃる方々に感謝しつつ、今後も関心をもって目を向けていきたいと思いました。ゴミの処理に関しては、公的な費用でできるようにしてほしい！！
- ・夫々の地方の置かれた様々な困難に立ち向かう姿が立派であった。シンポの内容は、自分が海洋大（水産大）ということもあり（昭和38年大学6回生）色々興味深く拝聴しました。この日のために皆さんがどのように活動してきたか分かりやすい発表だった。
- ・この日のために皆さんがどのように活動してきたか分かりやすい発表だった。コメントターの人が包括なまとめをすると同時に、発表団体へアドバイスや困ったことに対するフィードバックがあれば、発表者以外の聞く人の利益になると思う。発表に対する取組をほめるばかりでは意味がない。会場の発表者以外の人も発言、質問時間を増やすことがあれば、もっと報告会がよくなると思うし、ずっと聞くばかりだと退屈で帰る人も多いと思う。
- ・ゴルフボール問題、解決するとういいですね。活動発表を聞いて来年度も活動頑張ろうと思

ました。

- ・どんな組織がどんな活動をしているのか知ることができ、とても興味深かった。また、人手不足であったり、ボランティアの方が多く参加している活動があると聞いたので、参加してみたいと思った。
- ・「里海」という言葉の定義がはっきりしない感がありました。明確な位置づけはあるのでしょうか？
- ・鏡町アサリ活動組織の協力体制の構築に関する発表はすばらしいと感じた。他の活動組織でも、漁師の協力不足、漁師の高齢化、人員確保といった共通の面があると感じた。
- ・生物多様性の改善は、活動組織の取り組みによって必ずしも向上するものではありませんが、内水面では特に河川工事などです。多面の取り組みはとても良い制度なので、もっと取り組みが増してほしい。しかし評価はもう少し別の見方が必要かと思います。地方負担金を出すのが、市町村・県と明確でなく、特に市町村は担当部署自体ないので難しい。
- ・テーマと活動発表が何か違っていませんか？

③意見交換・講評について（13件）

- ・質問者の回収ゴミに漁業ゴミが多いこともあるという発言に対して漁業者はもっと真剣に考えてほしい。未だにポストが見られる。
- ・八木先生は大変わかりやすく里海を説明された。しかし本日のテーマはその里海とかけはなれたものでは？やはり日本は経済優先だな？「里海保全」は何のため？海は国民のもので漁業関係者の利益のためのものではない。漁師が「海のゴミを拾い」「有害生物を殺し」かって「藻場再生」がなんで里海的活動なのか？漁協のあつまりなのでしかたないが「里海保全」というようなテーマ名を変えたらどうだろう？子どもの頃からニュートラルな正しい海洋教育を定着させるためにコメンターの方ぜひ頑張ってください。
- ・講演に関連のある活動についての発表を増やした方が良かったと感じましたが、最後の意見交換において海洋ゴミ処理に係る問題点について意見交換が多く行なわれたことは良かった。
- ・モニタリングのルールが実態にあっていない。会検ではそれでも非常に厳しく追及された（各浜は工夫してやっている）。これ以上の負担では多くの団体が事業から降りることを危惧している。当団体も次期継続が厳しい。
- ・会場からの意見よりももっとコメンターの話しを聞きたかった。会場の質問は短くしてほしい。
- ・八木さんお疲れ様でした。海岸清掃の成果を評価する指標を定義してください。
- ・良い質問が多く、有効なシンポジウムになったと思う。
- ・漁業者の減少、高齢化で将来多面的機能の担い手もいなくなるかもと心配。地域全体で支えていかなければならないと感じました。
- ・大変お勉強になりました。漁業者の漁網の問題、大事だと思います。
- ・発表者とコメンターとの意見交換を聞きたかった。どのくらいの費用をかけての活動なのか興味がある。

- ・水産多面のモニタリングのやり方が現実離れしているのではないかという会場からの意見に賛同します。海で回収したゴミの処分方法に興味をもちました。
- ・会場からの意見、質問よりも発表者やコメントーターの意見をもっと聞きたいです。
- ・意見交換、まどがずれている人がいたりでレベルが低かった。質問に対する答えもずれていた。発表した者より質問者の方が二人ほど考えていることが見えた。

④ポスター展示について（3件）

- ・ポスターはもう少し目立つように考えた方がよい。コーナーを目立つようにするとよい（会議でのアピール、口頭でのアピール）。
- ・ポスター展示者と交流できない。
- ・ポスター中にあった「姫島地区藻場保全活動組織」の活動について聞きたいと思った。特に「施肥」。どれほどの効果があるのか興味がある。

⑤会場について（11件）

- ・会場の東大安田講堂の名前は古くから知っていたが、全国のセミナーの会場ということで興味が湧いて初めて東大赤門から入ったが、重厚な建物、イチョウ並木、やはり日本の象徴的な大学の構内という実感を抱いた。
- ・会場の入口・出口の混雑が多いのもっと増やすといいと思う。
- ・地下鉄駅ー正門ー講堂のアクセス案内があれば良かったです。
- ・会場が良い！！
- ・会場は固定し、来年も同じ会場をお願いします。他県からくるため、一度くれば次回以降迷わず来れるのが良い。ここ2、3年同会場で本当に道を間違えずにこれてストレスなく良いので、引き続き会場変更せず行ってほしい。
- ・会場の場所がわかりにくかったです。東京大学の敷地内に地図や案内看板が少なかった（無かった）です。私は会場の建物の入口付近を3回くらい素通りしました。
- ・聞きながらメモをとりたいので別の会場がよい。
- ・東京大学でシンポジウムはすばらしい。
- ・会場スペースが狭いように感じた。
- ・会場が寒い。
- ・机がほしかったです。

⑥開催時期や開始時間について（10件）

- ・13時開始にしてほしい。
- ・開始時間を13時からにしてほしい。開催日を平日にすればもっと参加者増えると思います。
- ・開始時間12時の変更をお願いしたいです。遠方からの参加者には無駄な時間が発生します。
- ・土、日曜日は旅費等も高く、予算を逼迫する。また、1～2月はインフルエンザ等の流行等も

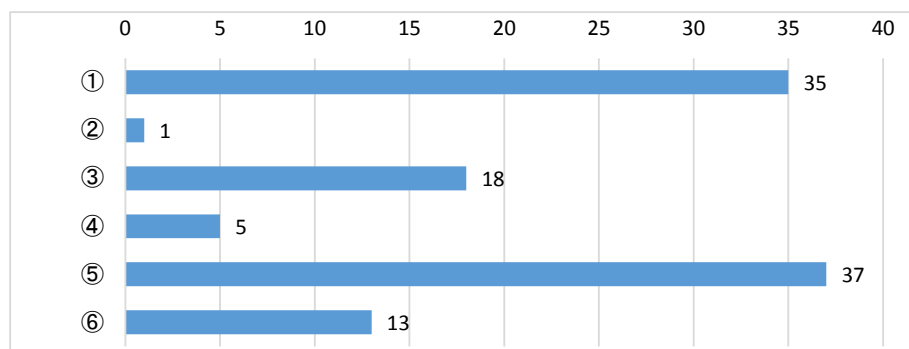
ある。年を越さない時期で平日で実施してほしい。地方から来る場合、空港等から遠い場所はやめてほしい(30~40 以内で着く場所)。

- ・開催時期はもう少し早い方が良いです。
- ・時期は夏一秋が良いです。
- ・平日に開催してほしい。
- ・できれば平日が望ましい。
- ・平日にしてもらいたいです。
- ・開始時間変更

⑦報告会の構成等への意見・要望について (16 件)

- ・コメンテーターの人が包括なまとめをすると同時に、発表団体へアドバイスや困ったことに対するフィードバックがあれば、発表者以外の聞く人の利益になると思う。発表に対する取組をほめるばかりでは意味がない。会場の発表者以外の人も発言、質問時間を増やすことがあれば、もっと報告会がよくなると思うし、ずっと聞くばかりだと退屈で帰る人も多いと思う。
- ・一般の地域の方々（小中学生や親世代、祖父母世代を含めて）も巻き込んだ取組の共有の場となるこうしたシンポジウムの場合は、報告の事例の中にもあったのと同じようにとても重要なことと感じました。場所もとても良いと思います。人も入りますしね。
- ・各活動組織間での情報共有が重要と思いますので、継続を期待します。
- ・〇〇〇積極的に活動し以前にも事例報告した団体ももう一度現在の活動報告を聞いてみたいです。
- ・試食など家族も一般参加したくなるイベントにすると良いと思います。
- ・魚食害対策についての活動を知りたい。
- ・干潟の再生事業について多くの発表を聞きたい。アサリ、底質改良
- ・二枚貝の生息（最適、好適）環境の物理的特性を詳しく議論していきたい。
- ・自然災害への備えや事故対策を漁業者や活動組織が取りくむ事例を知りたくくなりました。今後の多面的活動を続けるために必要だと感じています。
- ・現場の声を聴くことができ新鮮だった。ありがとうございました。
- ・少し長いです。
- ・質問時間をもう少し増やしても良いと感じた。
- ・時間的に丁度良い配分だと思いますが、休憩時間はもう少し長い方が良い。最後のまとめの部分は参加者も半減（以下に？）しており必要ない。発表者が終わった毎に質問を受け付けないと意味が無い。
- ・休憩がちょっと少なすぎて、短すぎてしんどかったです。
- ・会場とのやりとりが少ない。
- ・川と海を分けて別スペースで発表願いたい。

⑧その他 (18 件)



※所属・職業の設問で①活動組織、②協定市町村、③地域協議会、④サポート専門家を選択した回答を除外した。

(2) 事例集の作成

上記、事例報告会で発表した模範、参考となる活動組織の活動の要点を事例集として整理し、全国の地域協議会及び活動組織に配布した（別冊）。

(3) 各種媒体による情報提供

各地の取組の手法を他の地域での活動に活かすとともに、広く国民にも多面的機能発揮に資する活動に対する理解の増進を図るため、ウェブサイト等の媒体を活用して情報を発信した。

① ポスターの配布

主として事業関係者（活動組織、地域協議会）を対象に、本事業の趣旨と講習会、報告会の開催を周知するためのポスターを制作、配布した（図 2-4-5）。

令和元年度

水産多面的機能発揮対策

— 技術講習会の開催 —
水産多面的機能発揮対策に取り組む活動組織を対象とした講習会を開催します

青森 令和元年 7/16 (火) 13:30～17:30
会場：青森県観光物産館 (アスパム)
(青森県青森市安方 1-1-40)

東京 令和元年 8/28 (水) 13:30～17:30
会場：コービル
(東京都千代田区内神田 1-1-12)

広島 令和元年 9/27 (金) 9:30～17:30
会場：ホテルチューリッヒ東方 2001
(広島県広島市東区光町 2-7-31)

福岡 令和元年 10/29 (火) 9:30～17:30
会場：福岡県中小企業振興センター
(福岡県福岡市博多区吉塚本町 9-15)

水産業と漁村には、国民の皆さんに新鮮で安全な食糧をお届けする機能の他、河川や沿岸の豊かな自然環境を守り、国境監視・海難救助による国民の生命・財産を守る多面的な機能があります。

しかしながら、近年、自然環境の変化や漁村人口の減少にみられる社会情勢の変化に伴い、このような大切な機能を維持することが難しくなっています。

そこで、藻場や干潟の保全活動、監視活動、救助訓練など、水産業と漁村の多面的機能を発揮するための活動に取り組む漁業者や市民のグループを国と地方公共団体が支援する「水産多面的機能発揮対策」が始まり、現在、全国にその取り組みが広がっています。

— シンポジウムの開催 —
活動組織が取り組む水産多面的機能発揮対策の成果を報告します

東京 令和 2年 2/8 (土) 12:00～16:00 (予定)
会場：東京大学大講堂 (安田講堂)
(東京都文京区本郷 7-3-1)

どなたでも参加できます。入場は無料です。

www.hitoumi.jp

<p>■ 技術講習会についてのお問い合わせ (公社) 全国豊かな海づくり推進協会 (担当：岩橋・小迫) TEL：03-5651-3501 Mail：sanka@yutakanaumi.jp</p>	<p>■ シンポジウム・海面の活動についてのお問い合わせ 全国漁業協同組合連合会 (担当：関根・片瀬) TEL：03-3294-9616 Mail：k-support@zengyoren.jf-net.ne.jp</p>	<p>■ 内水面の活動についてのお問い合わせ 全国内水面漁業協同組合連合会 (担当：御手洗・吉川) TEL：03-3586-4821 Mail：n-tamenteki@naisuimen.or.jp</p>
--	--	---

写真提供：ピクスタ

平成 31 年度 水産多面的機能発揮対策支援委託事業

図 2-4-5 事業案内ポスター

② ウェブサイト

前述のサポート専門家によるヒアリング報告書をもとに作成した各活動組織の「取組紹介ページ」を本事業のウェブサイト「ひとうみ.jp」に公開した。

水産多面的機能発揮対策情報サイト 文字サイズ

ひとうみ.jp »サイトの主旨

各都道府県の取組情報 ひとうみ.jp サイトマップ イベント情報 レポート情報 全国の取組情報へもどる

静岡県

市町村名にカーソルを合わせると、グループ名が表示されます。
また、グループ名をクリックすると取組情報が閲覧できます。

←長野県 愛知県→

静岡県の活動状況一覧

市町村	活動組織	活動内容										活動実績	
		環境・生態系保全							海の安全確保				
		藻場の保全	干潟等の保全	コシ帯の保全	サンゴ礁の保全	河川・湖沼の保全	海浜清掃	種苗放流	廃棄物の利活用	国境・水域の監視	海難救助訓練		
南伊豆町	南伊豆伊浜藻場保全協議会	●											
南伊豆町	伊豆FNY活動組織				●		●						
沼津市	北限域（内浦湾）の造礁サンゴ群落保全会				●								
吉田町 御前崎市 牧之原市	榛南磯焼け対策活動協議会	●											
東伊豆町	伊豆稲取藻場保全会	●											
6市町村	5活動組織	3			2		1						

図 2-4-6 活動紹介シートの公開（ひとうみ.jp）

また、活動組織各自で「取組紹介ページ」に入力、編集作業ができるよう、ウェブサイトを改修した。活動組織、協定市町村、地域協議会それぞれに ID とパスワードを付与し、入力マニュアルを配布して、公開作業への協力を促した。今年度、自主的に入力、公開した活動組織は、表 2-4-5 に示す 17 組織であった。

活動組織、協定市町村、地域協議会に配布した入力マニュアルを資料編 11 に収録した。

表 2-4-5 自主的に取組情報ページを作成した活動組織

No.	都道府県	活動組織名	内容
1	北海道	北斗市アサリ漁場環境保全活動組織	干潟等の保全
2		北斗市ホッキ貝環境保全活動組織	干潟等の保全
3		北斗市藻場環境保全活動組織	藻場の保全
4		戸井の海を豊かにする会	藻場の保全
5	富山県	国分の岬藻場再生会	藻場の保全
6	福井県	崎生態系保全活動グループ	藻場の保全
7	兵庫県	明石地区林崎の浅場を守る会	干潟等の保全
8		明石地区江井ヶ島豊かな海を守る会	干潟等の保全
9		播磨町豊かな海を守る会	干潟等の保全
10		猪名川を守る会	内水面生態系の保全
11		夢前川の環境を守る会	内水面生態系の保全
12		清流竹野川を豊かにする会	内水面生態系の保全
13		武庫川環境保全隊	内水面生態系の保全
14		みんなで育てる ひょうごの川	内水面生態系の保全
15		五色地区豊かな海づくり活動組織	干潟等の保全
16	島根県	知夫村海守隊	国境・水域監視
17	山口県	室津地区藻場保全活動組織	藻場の保全
18	徳島県	阿部の藻場を守る会	藻場の保全
19	鹿児島県	きりしま藻場守り隊	藻場の保全
20		大根占藻場保全会	藻場の保全
21		ふくやま藻場守り隊	藻場の保全

北斗市アサリ漁場環境保全活動組織（北海道北斗市）

- **活動項目** 干潟等の保全（寄土、耕耘、モニタリング）
- **組織の構成** 漁業者、上磯郡漁協（89名）

● **地域の現状・課題**

- ・北斗市は、北海道の南部に位置し、函館湾及び津軽海峡に面している。
- ・湾内沿岸部では、ホッキ突き漁が盛んに行われ、湾中央部にかけての定置網では、いわしやカレイ類のほか様々な魚が獲れ、9月から12月にかけては主に秋サケが水揚げされている。
- ・アサリ漁は、ホッキ貝の禁漁中の4月上旬から6月上旬までの約2か月間と漁期は短い。遼南では当該地域で行われていないため、漁の風景は産物誌と隔かれています。
- ・限られた漁場での操業であるため、漁獲圧が高くなると翌年には水揚げが減少し、資源管理が難しいところである。



● **活動の内容**

- 度重なる波浪により失った漁場の復元を図るとともに、既存の漁場環境を改善し、良好な底質状態を維持するための取り組み。
- ・寄土は、流失した漁場に砂利を敷設することで漁場の復元を行う。
- ・耕耘は、漁場に土壌改良剤を散布し、さらに熊手やスコップを使用して攪拌作業を行う。
- ・モニタリングは、コドラート法による密度調査を行い、現状の把握及び活動の効果を検証する。



● **活動の効果**

- ・寄土の効果が見られるのは数年先だが、最も期待できる取り組みと捉えている。
- ・漁場耕耘は、底質が攪拌され、硫化水素の発生が抑制された。事前に土壌改良剤を散布したことにより、その効果は大きいものとなった。



モニタリング（コドラート法）

図 2-4-7 活動組織が作成、公開した取組紹介ページの例（北海道北斗市）

なお、ウェブサイト「ひとうみ.jp」への月別アクセス数は8月が最も多く（3,251件）、次いで7月（2,154件）、6月（1,566件）と続いた。暖かい時期やまとまった休日のある月にアクセス数が増加する傾向が見られ、一般の訪問者（事業関係者外）の多いことが伺える。今年度に最も多く閲覧されたページは「みずべの生き物図鑑」（35,134回）であり、次いで「全国の取組み情報」（13,253回）であった。

※5月の数値は、某サイト（twitter）で公開されたヒラタブンブクの動画が話題となり、それに連動して、5月4日～7日の4日間に「みずべの生き物図鑑-ヒラタブンブク」へのアクセスが集中（26,302件）したものであり、参考値とする。

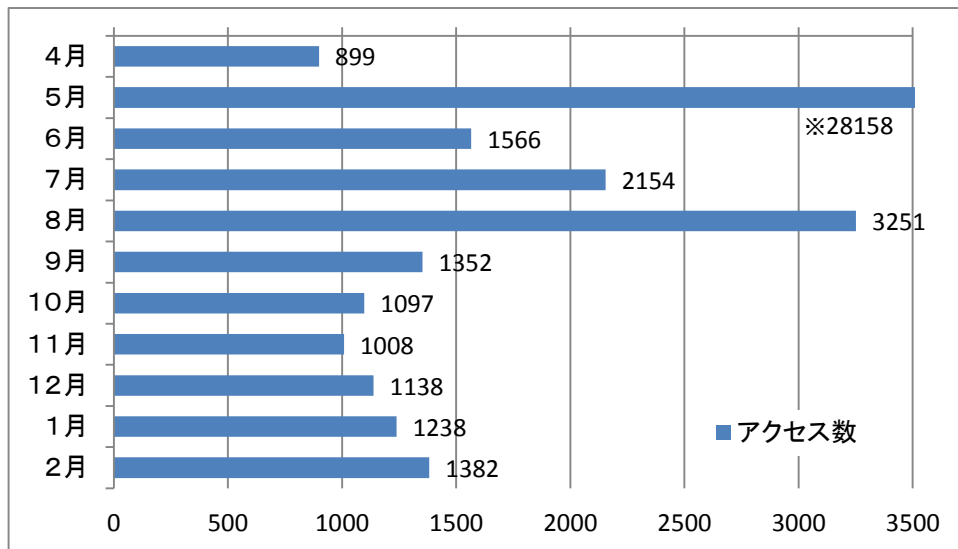


図 2-4-7 月別アクセス数（平成 31 年 4 月～令和 2 年 2 月）

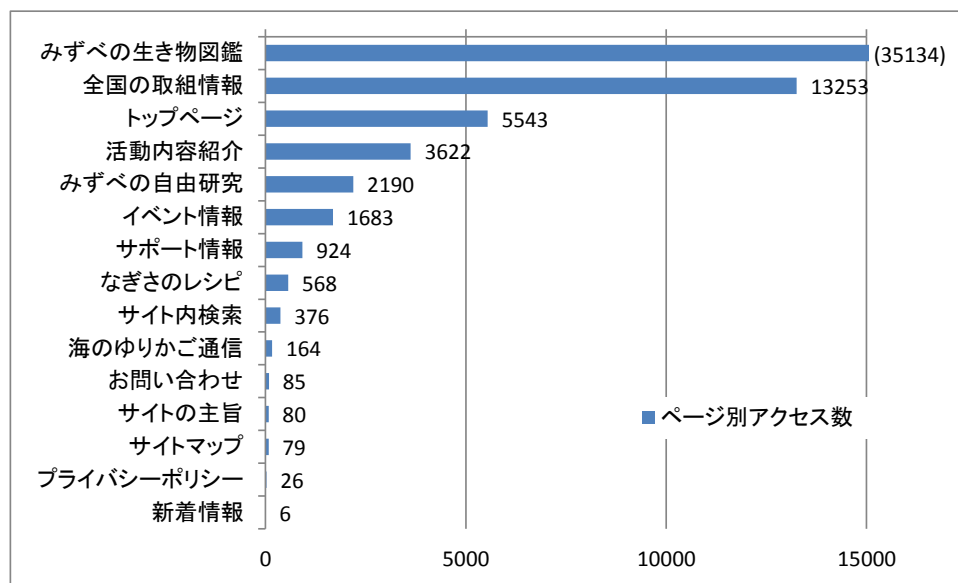


図 2-4-8 ページ別アクセス数（平成 31 年 4 月～令和 2 年 2 月）

③ 新聞広告

上記事例報告会の開催にあたり、東京近郊を中心に紙面を提供している東京新聞、産経新聞、読売新聞において報告会（シンポジウム）の告知紙面を掲載した。

表 2-4-5 新聞取材対象及び発行部数

紙名	発行部数	配達エリア	掲載日
東京新聞	473,098 部	関東地方	2020年1月11日・1月25日
産経新聞	180,000 部	東京都23区	2020年1月26日
読売新聞	713,574 部	東京都内	2020年2月1日

里海保全の最前線

水産業と漁村には、国民の皆様は安全で新鮮な水産物を安定的に供給する役割の他、漁場や干潟等の沿岸環境、河川環境の保全、監視活動や海難救助活動、環境教育の場の提供などさまざまな役割があります。

本シンポジウムは、「水産多面的機能発揮対策」の一環として、全国の先進的、効果的な取組をご報告し、皆様にこの取り組みへのご理解とご協力をいただくことを目的として開催いたします。

令和元年度 シンポジウム

日時 / 2020年2月8日(土)
開場 11:00 開会 12:00 閉会 16:30(予定)

会場 / 東京大学大講堂(安田講堂)
東京都文京区本郷7-3-1

入場無料 定員 約1,000名

プログラム

12:15~13:00
講演:「我が国沿岸域における海洋ゴミの現状と対策」
演者: 道田豊氏 (東京大学大気海洋研究所 国際連携研究センター長・教授)

13:20~16:20
活動報告:「沿岸・河川の環境保全活動、海の安全確保」

- 入間川流域地区活動組織(埼玉県)
- 江の島・フィッシャーメンズ・プロジェクト(神奈川県)
- 雲住の海の会(兵庫県)
- 白浦活動組織(三重県)
- 鎌町アザリ活動組織(熊本県)
- 宍道湖流域保全協議会(鳥取県)

コーディネーター: 八木信行氏 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)

お問い合わせ:
全国漁業協同組合連合会(担当: 関根・片桐)
電話: 03-3294-9616
主催 / 全国漁業協同組合連合会
全国内水産資源協同組合連合会
協賛 / 東京新聞、全国地方新聞社連合会
平成31年度 水産多面的機能発揮対策支援委託事業

参加お申込み:
住所、氏名、電話番号、メールアドレス、ご所属・団体名をご記入の上、FAXもしくはE-mailにて、又は右記QRコードよりお申し込みください。
※個人情報は本シンポジウムの運営のみで使用します。

FAX: 03-3294-9658(24時間受付)
E-mail: info@hitoumi.jp

ひとふみ 検索

図 2-4-9 (1) 新聞への掲載 (東京新聞)

里海保全の最前線

水産業と漁村には、国民の皆様は安全で新鮮な水産物を安定的に供給する役割の他、漁場や干潟等の沿岸環境、河川環境の保全、監視活動や海難救助活動、環境教育の場の提供などさまざまな役割があります。

本シンポジウムは、「水産多面的機能発揮対策」の一環として、全国の先進的、効果的な取組をご報告し、皆様にこの取り組みへのご理解とご協力をいただくことを目的として開催いたします。

令和元年度 シンポジウム 入場無料

日時 2020年2月8日(土)
開場 11:00 開会 12:00 閉会 16:30(予定)

会場 東京大学大講堂(安田講堂)
東京都文京区本郷7-3-1 [定員 約1,000名]

お問い合わせ:
全国漁業協同組合連合会(担当: 関根・片桐) 電話: 03-3294-9616
主催 / 全国漁業協同組合連合会
協賛 / 東京新聞、全国地方新聞社連合会
平成31年度 水産多面的機能発揮対策支援委託事業

参加お申込み:
住所、氏名、電話番号、メールアドレス、ご所属・団体名をご記入の上、FAXもしくはE-mail、又は右記QRコードよりお申し込みください。
※個人情報は本シンポジウムの運営のみで使用します。

FAX: 03-3294-9658 E-mail: info@hitoumi.jp

ひとふみ 検索

図 2-4-9 (2) 新聞への掲載 (産経新聞)

材を包まざる。秋野明留さん（ア） 11月のいろはを字んでいきます。 カ。

令和元年度シンポジウム 里海保全の最前線

水産業と漁村には、安全で新鮮な水産物を安定的に供給する役割の他、藻場や干潟等の沿岸環境、河川環境の保全、監視活動や海難救助活動、環境教育の場の提供など多面的な役割があります。本シンポジウムは、「水産多面的機能発揮対策」の一環として、全国の先進的、効果的な取り組みをご報告し、皆様に取り組みへのご理解とご協力をいただくことを目的として開催します。

日時 2月8日(土) **入場無料**
開場 11:00 開会 12:00 閉会 16:30(予定)

会場 東京大学大講堂(安田講堂)
東京都文京区本郷7-3-1 (定員:約1,000名)

プログラム

12:15 講演:「海洋プラスチックごみ研究の現状と課題」
13:00 演者:道田豊氏(東京大学大気海洋研究所 国際連携研究センター長・教授)

13:20 活動報告:「沿岸・河川的环境保全活動、海の安全確保」
16:20 ●入間川流域地区活動組織(埼玉県)
●江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト(神奈川県)
●香住の海の会(兵庫県) ●白瀬活動組織(三重県)
●鏡町アサリ活動組織(熊本県) ●宍道湖流域保全協議会(島根県)

コーディネーター:八木信行氏(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)

住所、氏名、電話番号、メールアドレス、ご所属団体名をご記入の上、FAXもしくはE-mail、又は右記二次元コードよりお申し込み下さい。
※個人情報は本シンポジウムの運営のみに使用します。
FAX: 03-3294-9658 E-mail: info@hitoumi.jp

お問い合わせ) 全国漁業協同組合連合会(担当:関根・片瀬) TEL: 03-3294-9616
(主催) 全国漁業協同組合連合会、全国内水漁業協同組合連合会
(後援) 東京新聞、全国地方新聞社連合会

ひとうみ 検索

図 2-4-9 (3) 新聞への掲載 (読売新聞)

④ イベント出展

表 2-4-6 に示すイベントに出展し、水産多面的機能発揮対策事業の周知と事例報告会(シンポジウム)の告知を行った。

表 2-4-6 出展イベント一覧

催事名	日時	会場	主催者
東京湾大感謝祭 2019	2019年10月26日 2019年10月27日	横浜赤レンガ倉庫広場	東京湾大感謝祭実行委員会
第51回全国小中学校環境教育研究大会	2019年11月22日	富里市立根木名小学校体育館	全国小中学校環境教育研究会

【東京湾大感謝祭の実施状況】

東京湾大感謝祭来場者に対し、水産多面的機能発揮対策及び水産多面的機能発揮対策事例報告会（シンポジウム）の周知を図ることを目的として実施した。



図 2-4-10 イベント案内（東京湾大感謝祭実行委員会ウェブページより）

<p>ブース概観（設営）</p>	<p>クイズパネルの展示</p>
<p>活動紹介パネルの展示</p>	<p>貝殻展示</p>



図 2-4-11 イベントの実施状況

以下、当イベントの内容と結果を示す。

1. 内容

①クイズパネル展示

水産多面的機能発揮対策に関連する海や川の生き物を題材としたクイズパネル（A2 サイズ）を 10 種作成し展示した。設問は、事業の理解への入口として、小学生でも理解できるレベルのものとした

(図 2)。

また、設問に対応した解説を A4 サイズで 10 部作成し (ラミネート加工)、リングでまとめたものを来場者に手渡し、解答の参考としてもらった (図 3)。

<p>Q1 藻場(もば)</p>  <p>かいそう この海藻の名前はなんだろう?</p>  <ol style="list-style-type: none">1. アオサ2. テングサ3. ワカメ	<p>Q2 藻場(もば)</p>  <p>アマモに白いものがついているよ。なんだろう?</p>  <ol style="list-style-type: none">1. クラゲ2. イカの卵3. イソギンチャク
<p>Q3 藻場(もば)</p>  <p>かいそう くき 海藻が茎だけになっているよ。食べたのはだれ?</p>  <ol style="list-style-type: none">1. 魚 (さかな)2. タコ3. クラゲ	<p>Q4 干潟(ひがた)</p>  <p>アサリにはどんなことができるかな?</p>  <ol style="list-style-type: none">1. 水をきれいにする2. 海水をつくる3. 雨をふらせる

図 2 (1) クイズパネル (1)

Q5 干潟(ひがた)



^{あな}
アサリに穴があいているよ。
なんでだろう？

1. うまれつき
2. ツメカ^いに食べられた
3. ひもを通すため

Q6 干潟(ひがた)



^{つぶ}
カニのまわりにある丸い粒はな
んだらう？

1. 魚の卵
2. ウサギのふん
3. カニが作った砂だんご

Q7 サンゴ礁(さんごしょう)



写真: 宿毛湾環境保全連絡協議会(高知県)



オニヒトデがたくさんいるよ。何
を食べているのかな？

1. 魚(さかな)
2. 岩(いわ)
3. サンゴ

Q8 ヨシ原(よしはら)



^{やくわり}
ヨシ原の役割としてまちがっ
ているのはどれ？

1. 水をきれいにする
2. ゴミ捨て場になる
3. 生き物がくらす

図 2 (2) クイズパネル (2)

Q9 川・湖



アユは何年生きるの？

1. 1年
2. 10年
3. 100年

Q10 川・湖



アユの体はどんなにおいがる？

1. スイカ
2. リンゴ
3. バナナ

図2 (3) クイズパネル (3)

藻場(ワカメ)



この海藻の名前はワカメです。
お店で見かけるワカメはきれいな緑色ですが、海の中に生えているときはこのような茶色っぽい色をしています。

藻場(アマモ)



アマモにくっついているのはイカの卵です。
イカはアマモや海藻に卵をうみます。
アマモや海藻は海の生き物のゆりかごです。

図3 (1) 解説シート (1)

海藻を食べる魚



ウニやサザエだけでなく、アイゴやブダイ、イスズミなどの魚も海藻を食べます。最近では、魚が海藻を食べすぎることが問題になっています。写真のように茎だけになった海藻（アラメ・カジメ）は枯れてしまいます。

二枚貝のはたらき



アサリなどの二枚貝（にまいがい）は、海水を吸い込み、エサをこしとって吐き出すことで、水をきれいにする大切なはたらきがあります。

貝を食べる貝



左の写真はツメタガイとツメタガイの卵のかたまり（砂茶碗）です。ツメタガイの仲間はアサリなどの二枚貝（にまいがい）の殻（から）に小さな穴をあけて、そこから貝の中身を食べます。

干潟の生き物



写真のカニはコメツキガニです。コメツキガニやチゴガニは、潮（しお）が引くと巣穴から出てきて、砂についたエサを食べ、きれいにした砂をだんごにして巣穴のまわりに並べます。干潟に行ったら観察してみましょう。

図 3 (2) 解説シート (2)

サンゴとオニヒトデ



南の海にはサンゴ礁がひろがっています。でも、最近では、サンゴを食べるオニヒトデが増えて、サンゴが減ってしまっていて困っています。毒があるので、オニヒトデを見つけても、ぜったいにさわってはいけません。

ヨシ原(よしはら)



川や湖などに生えている草は、“ヨシ”という植物です。たくさん生えている場所をヨシ原(=アシ原)といいます。生き物がくらしたり、水をきれいにすることはあります。

アユの一生



秋に川で生まれたアユは、海に下って次の年の春から夏の初めに川を上ります。川で石に着いた藻類をたくさん食べて成長し、秋に産卵してその一生を終えます。産卵や川を登る時期は、暖かい地域ほど早い傾向があります。

アユの匂い



野生のアユはスイカのような甘い匂いがします。この匂いのもとには、アユの食べているコケです。アユが手に入ったら、匂いを確かめてみてください。

図 3 (3) 解説シート (3)

いくつ解けるかな？

小・中・高・大学・大人	お名前
-------------	-----

Q1	Q2	Q3	Q4	Q5
Q6	Q7	Q8	Q9	Q10

クイズの感想を聞かせてね！

あなたの正解数は

0000



図4 解答用紙

②記念品配布

来場者を誘致するための記念品（バンダナ2種）を作成し（2種×1000枚＝計2000枚）、クイズの回答者に配布した（1人1枚）。併せて、海藻おしぼの葉を配布した（1人1枚）。



図5 記念品（バンダナ：左；紅藻類、右；ヤマメとカゲロウ）

③活動組織パネル展示

平成 30 年度報告会に出展された 12 組織のポスターをパネル（B3 サイズ）にして展示した。

④貝殻展示

東京湾奥部（主に三番瀬）に生息する代表的な貝類（アサリ、ハマグリ、バカガイ、ヤマトシジミ、オキシジミ、アカガイ、サルボウガイ、カガミガイ、ホンビノスガイ、ムラサキイガイ、ツメタガイ、アカニシ）の殻を展示した。

⑤シンポジウムポスター展示・チラシ配布

報告会（シンポジウム）のポスター（A2 サイズ）を作成、展示するとともに、記念品配布に併せて当シンポジウムのチラシ（ポスター縮小版）を配布した。

2. 結果

①参加者数・属性

当ブースへの来場者数（クイズ参加者数）は、10 月 26 日が 793 名、10 月 27 日が 820 名、計 1,613 名であった。

2 日間の参加者の属性は、大人が 955 名で最も多く、次いで小学生の 172 名であった。

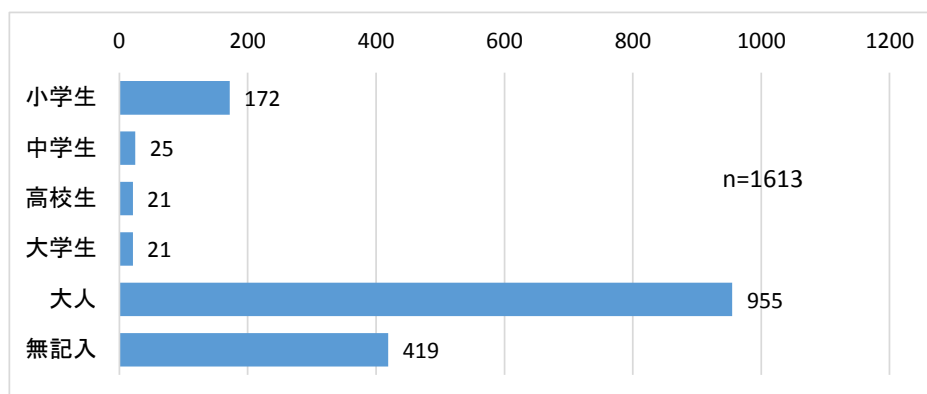


図 6 参加者の属性

②参加者の感想

クイズ参加者の感想をおおまかに分類すると、「良かった・楽しかった」が 251 名と最も多く、次いで「ためになった・勉強になった・初めて知った」が 243 名であった。

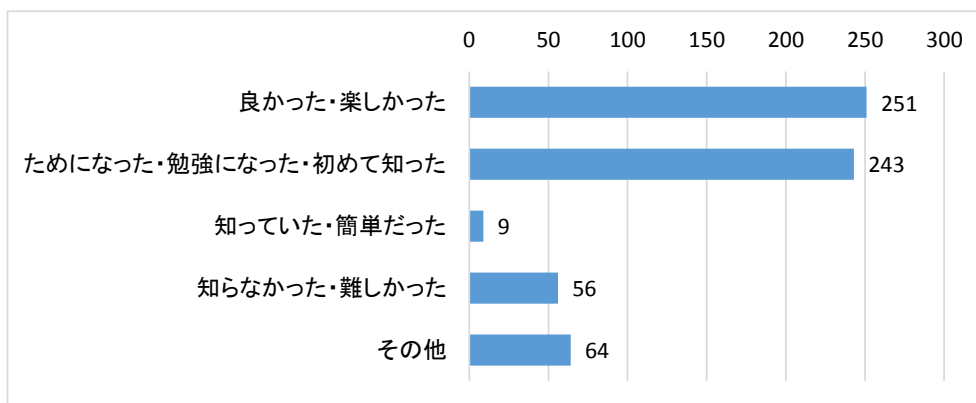


図7 参加者の感想 (分類)

(参考)

クイズ参加者には解説シートを手渡しているが、今後、クイズの内容等を検討するための参考として正答率を算出した。

Q8は、ヨシ原の働きについて、間違いを選択する問題であったが、正解を選択するものと勘違いした参加者が多く、正答率が低くなっている。

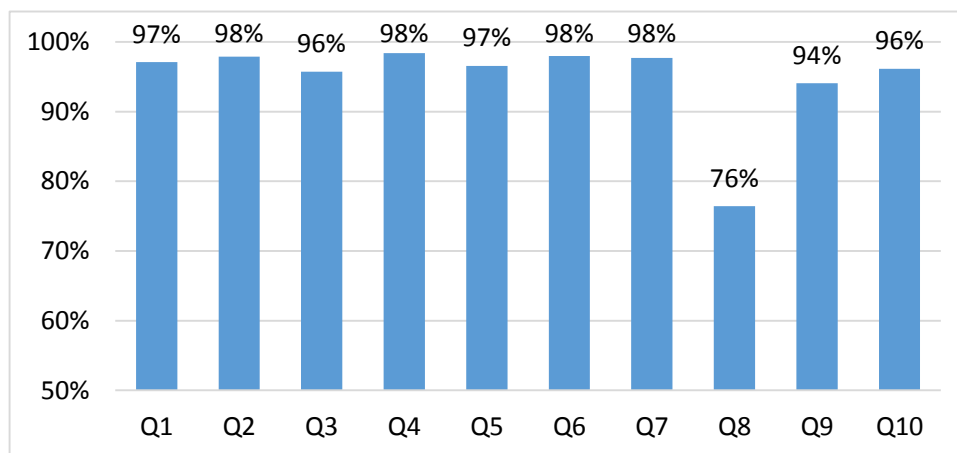


図8 クイズの正答率

【第51回全国小中学校環境教育研究大会の実施状況】

全国小中学校環境教育研究会が主催する「第51回 全国小中学校環境教育研究大会」に出展し、当事業の周知と事例報告会の告知を行った。当日の参加者は、主として全国の小中学校の教諭であった。

ブースに立ち寄った参加者に図2-4-14に示すアンケートを実施し、うち8名から回答を得た。

令和元年 10月吉日

各都道府県教育委員会教育長様
各市区町村教育委員会教育長様
関係各小・中・義務教育学校長様

全国小中学校環境教育研究会 会長 藤森 克彦

第51回 全国小中学校環境教育研究大会(千葉大会)

【第二次案内】 21世紀「環境の世紀」の提言

《研究主題》
持続可能な社会づくりのための
環境教育の推進

～環境教育によって育む学力と環境保全意欲～

秋涼の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、全国小中学校環境教育研究会では、標記の大会を開催いたします。つきましては、全国各地の小中学校、教育関係者をはじめ、多くの皆様のご参加をいただき、環境教育及びESDのさらなる充実と発展を図るべく、ここにご案内申し上げます。

日 時 令和元年**11月22日(金)** 10時00分～16時30分

会 場 千葉県 富里市立根木名小学校
〒286-0205 千葉県富里市根木名1005番地3
TEL. 0476-92-0662 FAX. 0476-92-0682
根木名小学校ホームページ <https://www.fureai-cloud.jp/tomisato-nekona-e>

全国小中学校環境教育研究会ホームページ <http://kankyokyoiku.jp/>

	10:00	10:30	10:45	11:30	12:20	13:10	14:15	14:35	14:45	16:15	16:30
日程	受付	概要説明	公開授業	昼食	開会式	研究発表	講評	休憩	講演	閉会式	

主 催 全国小中学校環境教育研究会

後 援 文部科学省 環境省 千葉県教育委員会 富里市教育委員会 全国連合小学校長会
全日本中学校長会 千葉県小学校長会 千葉県中学校長会 印旛地区教育委員会連絡協議会
千葉県教育研究会 印旛地区教育研究会 富里市教育研究会 印旛教育会館
日本教育公務員弘済会千葉支部 日本環境教育学会
ESD活動支援センター 関東地方ESD活動支援センター

図 2-4-12 イベントの案内



図 2-4-13 イベントの実施状況



海や川の実環境教育活動に関するアンケート

2019年11月22日
 全国漁業協同組合連合会
 全国内水面漁業協同組合連合会

該当するものに○をご記入ください

1. ご所属	小学校 ・ 中学校 ・ その他 ()
2. 貴校の所在地	都内・北海道・東北・関東(都外)・中部・近畿・中国・四国・九州沖縄
3. ご職位	校長 ・ 副校長 ・ 教頭 ・ 教諭(主幹、指導を含む) ・ 講師
4. ご担当学年	1年 ・ 2年 ・ 3年 ・ 4年 ・ 5年 ・ 6年 ・ 全学年
5. ご担当教科	小学校 全教科 ・ 国語 ・ 社会 ・ 算数 ・ 理科 ・ 生活 ・ 音楽 ・ 図画工作 ・ 家庭 ・ 体育 ・ 道徳 ・ 外国語活動 ・ 総合的な学習の時間 ・ 特別活動
	中学校 全教科 ・ 国語 ・ 社会 ・ 数学 ・ 理科 ・ 音楽 ・ 美術 ・ 保健体育 ・ 技術・家庭 ・ 外国語 ・ 道徳 ・ 総合的な学習の時間 ・ 特別活動

6. 貴校の授業の一環として、海や川を活用した環境教育や社会科見学等を実施してみたいと思いますか？
 実施したい ・ 実施したくない ・ 既に実施している

7. 問6で「実施したい」または「既に実施している」とお答えになった場合、その教科と授業時数を教えてください。
 教科：()、授業時数：(約 時限/年)

8. 海や川を題材として、児童に体験・学習させたいことは何ですか？
 漁村地域の歴史、生活、文化 ・ 漁業の法律、掟 ・ 漁業の現場 ・ 水産物の加工流通現場 ・ 水産物の販売現場 ・ 海や川の自然環境や環境問題 ・ 海や川の生物の生態 ・ 環境保全活動 ・ その他 ()

9. 国と地方公共団体が支援する「水産多面的機能発揮対策」において、漁業者や漁協による環境教育や社会科見学等に係る活動が行なわれていることをご存知ですか？
 知っている ・ 初めて知った

10. 「水産多面的機能発揮対策」の一環として、漁業者や漁協から環境教育や社会科見学等への参画についてアプローチがあった場合、貴校として対応することは可能ですか？
 可能 ・ 内容によっては可能 ・ 不可能 ・ わからない ・ 既に対応済の場合(地域： 内容：)

11. 問10で「可能」または「内容によっては可能」とお答えになった場合、海や川における教育活動や社会科見学等において、漁業者や漁協にどのような役割や内容を求めますか？
 プログラムの作成 ・ 資料、資料の準備 ・ 座学の講師 ・ アクティブラーニングの講師 ・ 先生向けの予行演習 ・ 児童の送迎 ・ 安全対策、衛生管理 ・ 報告会、反省会の開催
 その他 ()

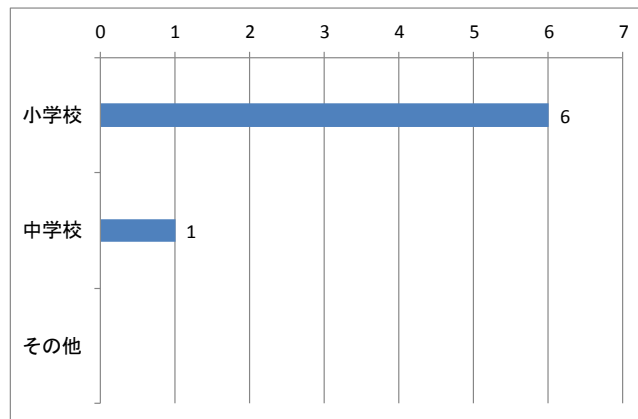
12. 問10で「不可能」とお答えになった場合、その理由を教えてください
 予算不足 ・ スケジュール調整が困難 ・ 保護者の理解が得られない ・ 学校の方針 ・ その他 ()

ご協力ありがとうございました

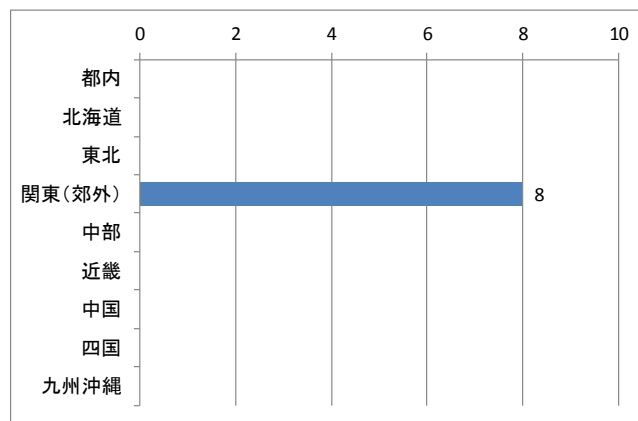
図 2-4-14 アンケート用紙

以下、アンケートの集計結果を示す。

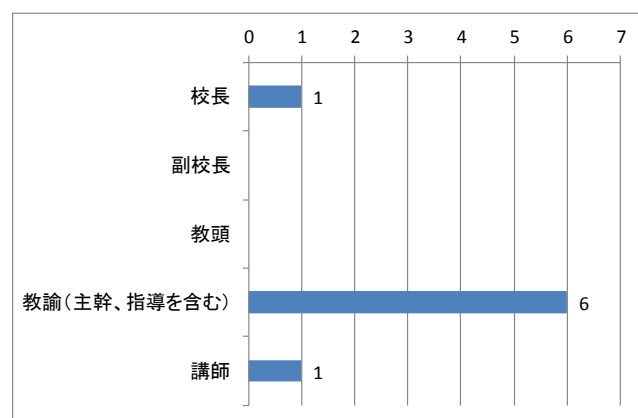
問1. 所属



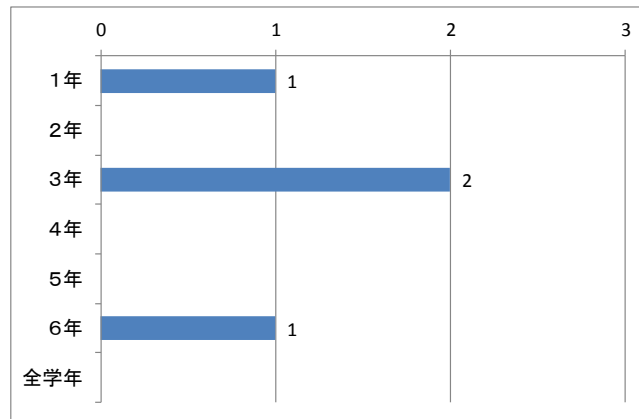
問2. 学校の所在地



問3. 職位

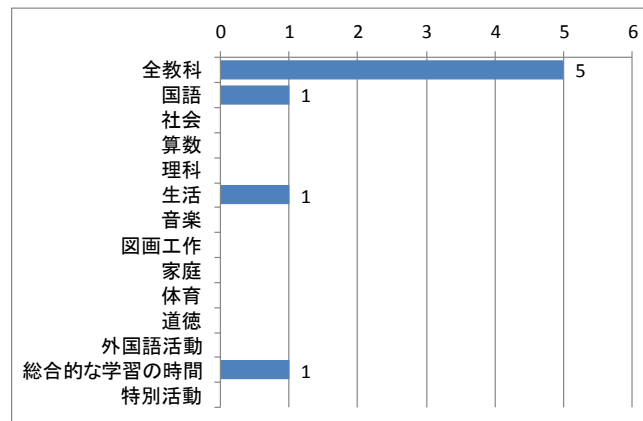


4. 担当学年

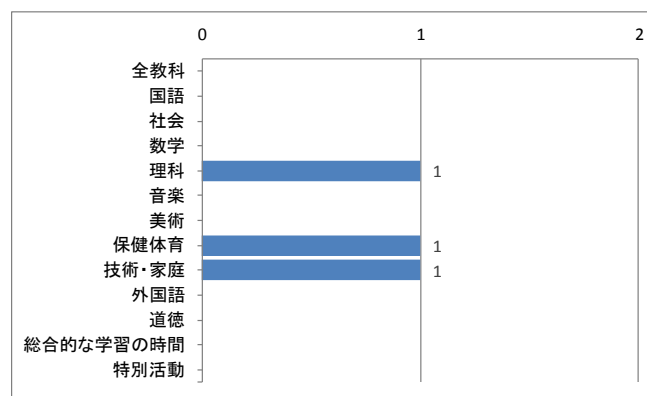


問5. 担当教科

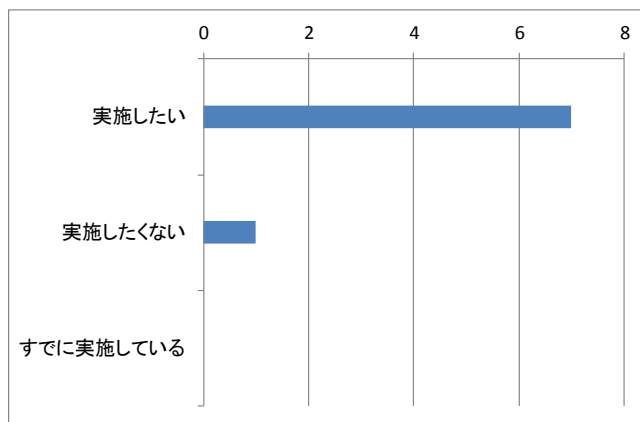
小学校



中学校

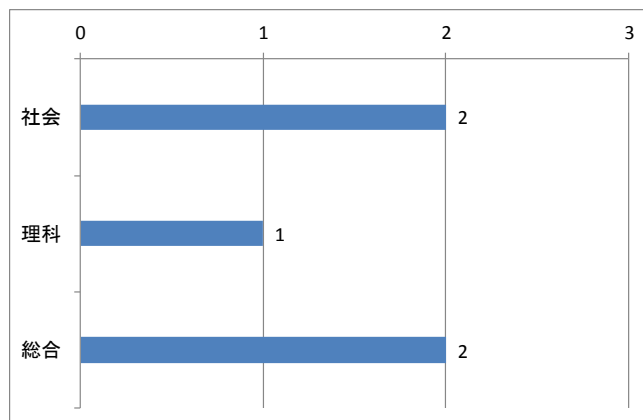


問 6. 貴校の授業の一部として、海や川を活用した環境教育や社会科見学等を実施してみたいと思いますか？

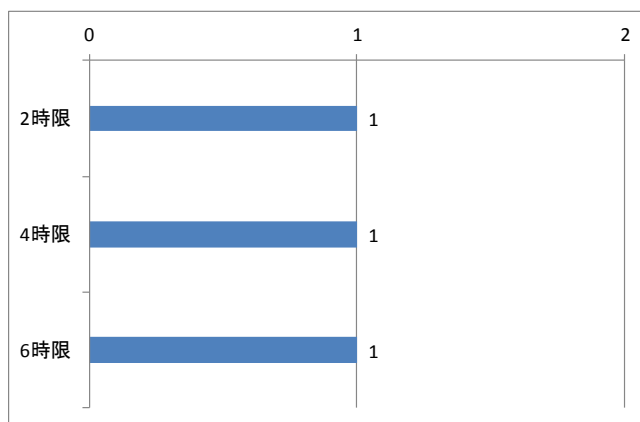


問 7. 問 6 ですでに実施しているとお答えになった場合、その教科と授業時間数を教えてください。

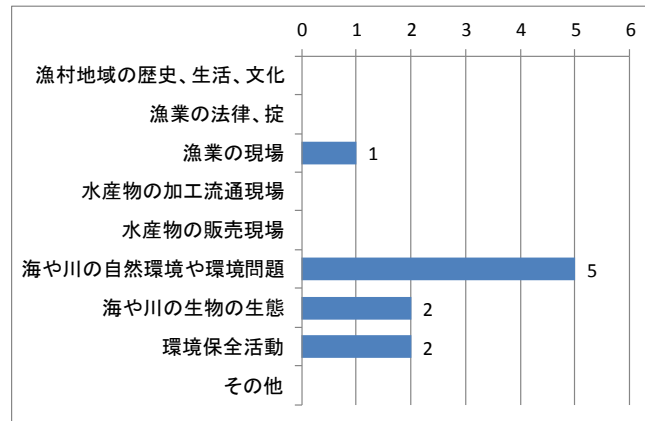
①教科



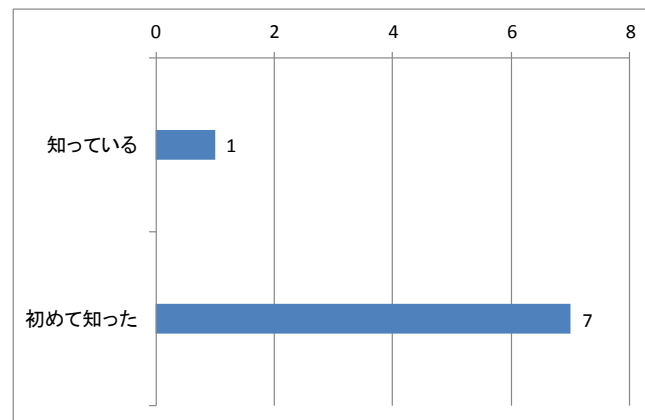
②授業時数（年）



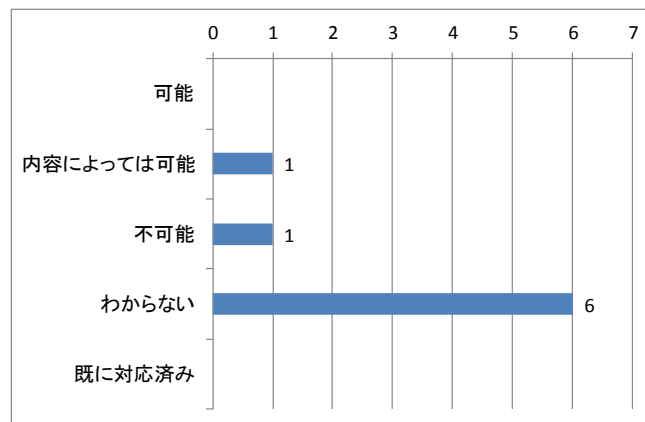
問 8. 海や川を題材として、児童に体験・学習させたいことは何ですか？



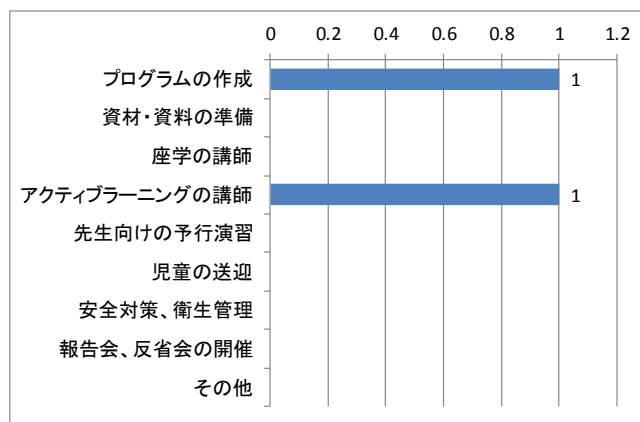
問 9. 国と地方公共団体が支援する「水産多面的機能発揮対策」において、漁業者や漁協による環境教育や社会科見学等に関わる活動が行われていることをご存知ですか？



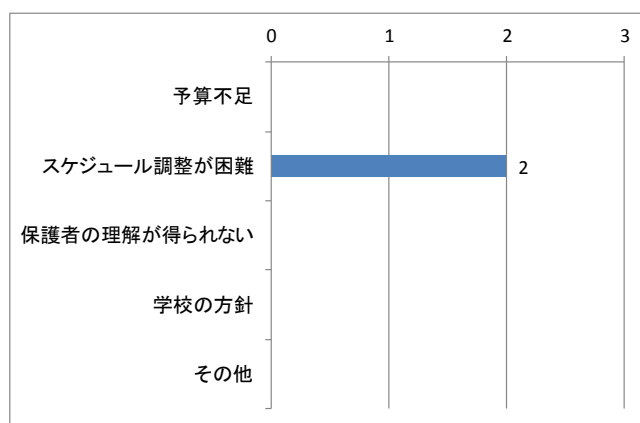
問 10. 「水産多面的機能発揮対策」の一環として、漁業者や漁協から環境教育や社会科見学への参画についてアプローチがあった場合、貴校として対応することは可能ですか？



問 11. 問 10 で「可能」または「内容によっては可能」とお答えになった場合、海や川における教育活動や社会科見学等において、漁業者や漁協にどのような役割や内容を求めますか？



問 12. 問 10 で「不可能」とお答えになった場合、その理由を教えてください。



(4) 「教育・学習」資材の作成・編集

表 2-4-7 に示すサポート専門家等の有識者を検討メンバーとし、活動組織が取り組む「教育・学習」活動の一助となる資材（指導プログラム等）について検討を行い、表 2-4-9 に示す資材を作成、公開した。

「教育・学習」資材作成に係る検討委員会の議事録を資料編 4 に、作成した「教育・学習」資材を資料編 10 に収録した。

表 2-4-7 「教育・学習」資材作成に係る検討委員

氏名	所属	事業との関わり	地域	専門
大浦佳代	海と漁の体験研究所 代表	サポート専門家	東京都	漁業体験活動 環境教育
田原大輔	福井県立大学海洋生物資源学部准教授	活動組織	福井県	内水面生態系の 保全、環境教育
豊田光世	加茂湖活動組織（新潟大学朱鷺・自然再生学研究センター 准教授）	活動組織	新潟県	環境教育、ヨシ 帯保全
福島陽子	静岡県立焼津水産高等学校教諭	サポート専門家	静岡県	藻場保全、環境 教育
中野義勝	琉球大学熱帯生物研究センター瀬底研究施設	サポート専門家	沖縄県	サンゴ礁保全、 環境教育

表2-4-8(1) 検討委員会・専門家会議の概要 (1)

検討委員会 教育・学習部会 (1回目)	
日時	2019年5月23日 13:30~15:30
場所	コープビル 7F 役員会議室 (東京都千代田区内神田 1-1-12)
協議事項 (1)「教育・学習の手引き」の内容・構成について	

表2-4-8(2) 検討委員会・専門家会議の概要 (1)

検討委員会 教育・学習部会 (2回目)	
日時	2019年6月23日 13:30~15:30
場所	三会堂ビル 2階 C会議室 (東京都港区赤坂 1-9-13)
協議事項 (1)「教育・学習の手引き」内容・構成について	



表 2-4-9 作成した「教育・学習」資料一覧

対象活動	種類	タイトル
藻場の保全	紙芝居+シナリオ	「藻場はみんなのたからもの」(藻場の学習会)
	体験学習プログラム	「オーpensポアバッグに絵を描こう！」 「みんなで食べて、磯焼け対策！」 「ウニの不思議をさぐってみよう！」
干潟の保全	紙芝居+シナリオ	「干潟はみんなのたからもの」(干潟の学習会)
	体験学習プログラム	「干潟にひそむ生き物を調べよう！」
サンゴ礁の保全	紙芝居+シナリオ	「サンゴ礁はみんなのたからもの」(サンゴ礁の学習会)
	体験学習プログラム	「サンゴの骨格染めをしよう！」
内水面生態系の保全	紙芝居+シナリオ	「川はみんなのたからもの」(川の学習会) 「アユを知っておいしく食べよう」(アユの学習会)
	体験学習プログラム	「川の生物を採集して調べよう！」 「アユを知って、おいしく食べよう！」
漂流、漂着物、堆積物処理	紙芝居+シナリオ	「海岸のごみと海洋プラスチックのお話し」(海ごみの学習会)
	体験学習プログラム	「海岸のごみって、何だろう？」 「海洋プラスチック問題、身近な解決策!？」

3. 平成31年度支援事業の成果と課題

3-1. 活動組織によるモニタリング及び自己評価

活動組織が提出した30年度の自己評価表（16号様式）及びモニタリング結果、監視実績等を整理した。

自己評価表の提出にあたっては、平成28年度に策定した「モニタリングの手引き」に準じてモニタリングを実施し、その結果を記載するよう講習会等を通じて説明してきたところである。29年度は、一部の活動組織において、異なる成果指標により報告がなされていたが、概ね30年度に改善された。ただし、モニタリングの結果と自己評価表の記載が一致しない、あるいは自己評価表の数値の算出根拠が不明なものが散見され、今後の講習会等を通じて、モニタリングや自己評価表の在り方等についての指導を行い、精度を向上させる必要がある。

これまで、「海の安全確保」の取組みに関しては、自己評価表に記載された異変の報告件数以外の情報を把握することができなかったが、平成30年度から監視実績の入出力プログラムを配布したことにより、監視活動の実態を把握できるようになった（資料編1参照）。ただ、緯度経度（度・分・秒）の入力が不正確なためプロットが難しいケースがあり、今後の講習会等を通じて、正確な情報を記録するよう指導する必要がある。

3-2. 講習会の開催

講習会は、活動組織が行う水産多面的機能発揮活動の技術的水準の向上や活動組織相互の交流、情報交換の場を提供すること等を目的として開催した。

アンケートでは、およそ9割（7～10割）の回答者が「大変参考になった・一部参考になった」との回答であった。

昨年度と同様に藻場部会と干潟部会では会場毎のテーマを決め、各部会はサポート専門家のコーディネートのもと、他の組織の模範となる活動組織の代表者が講師となって取組の要点を紹介した。アンケートは、参加活動組織が成功・先進地区と自組織の活動を比較して、足りない点や、今後、積極的に取り入れていくべき点を自己診断する形を踏襲した。

藻場・干潟・内水面・サンゴ礁部会の参加組織に共通して、モニタリングについて自組織に足りない点とした回答が多かった。コーディネーターの講義の中で参考になった点としてモニタリング定点の設置法や事前準備の重要性等があげられていたため、モニタリング方法が共通課題であると考えられる。

また、水産多面的機能発揮対策事業について国民への理解増進を図る必要から、鹿児島、金沢、名古屋の各会場で講習会の全参加者が受講する教育・学習部会を開催した。地域との関係性の構築、活動を継続させるための工夫等を自組織に足りない点や参考になった点として回答されていた。グループディスカッションの時間を設けることにより相互の交流、情報交換の場を提供することが出来た。

新たな活動項目が加わった海の安全部会では、監視実績の把握や履行確認の方法、写真撮影や監視実施方法等が自組織に足りない点や参考になった点として回答されていた。

開催地の要望については、今年度講習会を開催した札幌、金沢、名古屋、鹿児島で問題

はないとの回答のほか、仙台、大阪、福岡、広島、四国等を希望する回答も見られた。その他各都道府県を順番に開催地として欲しいという回答があった。開催時期は、今年度と同じ夏期の開催を希望する回答が最も多かったが、台風シーズン以外、夏休み以外との回答もあった。

部会テーマ等の要望については、海の安全部会では海難救助と監視を分けた開催、藻場部会にはアイゴの食害対策、干潟部会には干潟の回復と維持、内水面部会には石倉カゴを利用したモニタリングをテーマにして欲しいと要望があげられていた。しかし、海の安全部会のテーマ別開催の要望以外については、現行のテーマ及び部会の講義や質疑応答の中でテーマ以外の事項についても取り扱うことが出来ているため、特に改善の必要はないと考えられる。

3-3. サポート専門家による技術的指導

平成 31 年度にサポート専門家が指導した活動組織数は延べ 149 組織であり、うち、96 組織に対し現地を訪問した個別指導を、53 組織（4 会場）に対し研修会形式でのサポートを実施した。サポートの内容はモニタリングと保全活動に関するものが多く、特にモニタリングについては、昨年度と同様、多くの活動組織がサポートを求めている状況である。技術の習得と自立を促しつつも、精度を確保するため、今後も継続する必要があると考えられる。

課題は、サポートを要望する活動組織が固定化していることである。自ら派遣の要望をあげる活動組織は、サポートの有効性や効率性を理解し、組織を管轄する協定市町村や協議会も受け入れに積極的である。一方、事務局からの指名で専門家を受け入れた活動組織は、継続的なサポートに至らないことが多いため、指名によるサポートを実施しつつ、成果が見えるまでの継続的なサポートとなるような体制づくりが必要であると考えられる。

表 3-3-1 に複数年（30 年度、31 年度）サポートを実施している活動組織へのサポート内容とその成果、課題を整理した。このような情報を活動組織や協議会に提供し、サポート専門家の積極的な活用を促していく必要がある。

なお、今年度は、後述する一般への情報提供の一環として、全国 102 組織へのサポート専門家による活動実態に係るヒアリングを実施しており、専門家の報告書をもとに「取組紹介ページ」を作成し、ホームページに公開した（作成したページは、模範・参考となる事例を合わせて 108 組織分）（表 3-3-2）。

3-4. 効果的な保全手法等の開発

(1) 効率的なウニ駆除装置の開発

わずかな力でウニを確実に割ることで、作業効率と作業労力の低減が図られるウニ駆除装置（ウニバスター）の開発を行った。ウニ駆除装置は、潜水方式と船上方式の 2 つの方式でウニを駆除できる。本体は岩の割れ目に潜むウニを確実に割ることが可能である。ただし、船上方式は、竿の材質と剛性、海面からのウニの視認に課題が残された。



潜水方式用



船上方式用

図 3-4-1 ユニ駆除装置（ユニバスター）

今後について、潜水方式は概ね実用レベルに達していることから、講習会などで紹介して、活動組織にモニターとしてユニ駆除装置を使っただきながら、使用者の反応や評価より、本体の改良やマニュアル等の充実を図り普及につなげる。また、船上方式は、竿の材質・軽量化、モニターでの視認性と操作性の向上を図ることが必要である。

(2) 植食性魚類を駆除するための漁具や仕掛け方の資料集づくり

本調査では、活動組織が実践しやすいように植食性魚類の種（ブダイ・ノトイソズミ・アイゴ）の漁具（釣り・網）や仕掛け別に、「いつ」、「どこに」、「どのくらいの範囲」で仕掛けて捕獲するのかをまとめた実用的な資料集を作成した。

今後は、講習会などで紹介し、活動組織からの反応や評価をいただきながら、技術資料の充実と改訂が必要である。

(3) サンゴの白化対策（サンゴ遮光ネット）の開発

2 ヶ年の実証試験期間中に、白化現象が起きなかったため、天然サンゴ（親サンゴ群）に対する遮光効果を明らかにできなかったが、補足試験から遮光対策を施した方が、サンゴの活性度（色が濃くなる）が高まる傾向が得られたことから、移植サンゴの生残率向上に遮光が有効であることから、そのマニュアルを作成した。

今後は、講習会などでこの手法を紹介し、活動組織からの反応や効果の評価をいただきながら、さらなる技術の向上とマニュアルの充実を図る必要がある。

(4) 浅場（干潟）保全活動の生物多様性への寄与に係る評価分析（継続）

平成 30 年度に浅場の保全活動組織を対象に、生物多様性への寄与に係る評価分析につ

いて検討し、その評価分析の方針案をとりまとめた。そこで、浅場の保全活動組織以外で当該効果が期待される干潟の保全活動組織を対象に、同様の手法で評価分析を行い、生物多様性への寄与に係る評価について検討した。

対象とした干潟の保全活動組織は、主にアサリ資源の再生・維持を目的に活動を行う組織で、全国に広く普及する被覆網対策を行う組織 3 組織と、現在注目される碎石覆砂を行う組織 2 組織を選定し、調査した。

その結果、被覆網対策 2 組織と、碎石覆砂 1 組織において、保全活動による生物多様性への寄与が確認できた。また、碎石覆砂 1 組織についても、これら 3 組織に劣るが、その寄与が認められた。

一方、残りの被覆網対策 1 組織については、被覆網区と対照区との間に生物多様性の差をみることができなかった。しかし、被覆網区においては、その対策の保護効果によって育成された大型個体の出現が対照区に比べて多く、生物多様性の安定性や継続性の観点から対照区より高いと評価できた。

干潟で実施される保全活動は、大半がアサリ等の二枚貝資源の再生・維持を目的に行われている。しかし、二枚貝資源だけでなく、全国で普及・注目されている上記の活動を通じて、他の底生生物の多様性の保全への貢献も期待できると考えられた。

なお、生物多様性の紀要に係る評価分析手法の課題としては、上記した多様性の安定性や継続性の観点については詳細分析する必要がある、今後これらについて簡易に評価できる手法を検討する必要がある。

(5) 二枚貝（アサリ）殻長測定簡易手法の開発（継続）

平成 30 年度に開発・配付した二枚貝（アサリ）殻長測定アプリケーション（以後、アプリと称す）に関するフォローアップを実施した。

フォローアップとしては、①アプリを配付した活動組織及び地域協議会・協定市町村等の指導機関における使用方法に関する問い合わせ対応（7 件）、②アプリの活用や使用方法を普及するための講習会（3 回）、③アプリの利用実態や課題等に関するアンケート調査（回答数 42）を行った。また、その結果を整理した結果、アプリに関する以下の成果と課題が認められた。

開発したアプリは、アサリの殻長を画像から測定するものであり、現地作業の労力を大きく軽減させることができると考えられた。実際、アンケート調査において、利用者の多くが「殻長情報が簡便に得られて便利」と回答しており、その効果がうかがえた。

一方、アンケート調査結果をみると、アプリを利用していない回答者が全体の約 6 割強で多く、課題となった。

アプリを利用していない理由としては、「アサリを対象に活動を行っていない」とした回答が最も多く、今後、アサリ以外の二枚貝（例えば、ホッキやシジミ等）への対応が求められた。また、「殻長情報を必要としない」とした回答もやや多く、これについては当情報の有用性について講習会等で紹介し、対象者の理解を深める必要がある。

加えて、アプリ利用者のアンケート調査や問い合わせが多かった” 稚貝の測定” や” ア

サリの識別”への対応が必要である。特に、後者については、問い合わせが多かった”濃い灰色系のアサリの認識”への対策が喫緊の課題と考えられた。

(6) 河川モニタリング（底生生物）調査手法の開発

現在、内水面を対象とする活動組織の多くは、底生生物を対象としたモニタリング調査を実施している。しかし、これら調査は定性的に実施する例が多く、定量的な経年変化の把握が困難な状況にある。そこで、個別サポートを活用して実施されている「高尾野川をきれいにする会」で取り込まれる定量採集による底生生物調査方法を参考に、内水面の活動組織を対象とした平易な「底生生物に関する川の生きもの定量調査マニュアル（以下、マニュアルと称す）」を作成した。

また、作成したマニュアルについては、内水面のサポート専門家に助言・承諾を得て完成させた。今後は、配付した当マニュアルによる技術普及を図るための、講習会の開催等を検討する必要がある。

3-5. 模範、参考となる活動組織の抽出

全国から模範、参考となる 20 の活動組織を抽出し、活動実績を「事例集」にとりまとめ、全国の活動組織、地域協議会等に配布した。これらの活動組織は、後述するシンポジウムにおいて口頭発表または概要を整理したポスター展示を行っており、シンポジウム参加者のアンケート結果によれば、口頭発表を行った組織の発表は等しく参考になったと回答し、ポスター展示については約 8 割が参考になったと回答しており、今後の活動の参考となる有益な情報を提供できたものとする。

3-6. 事例報告会（シンポジウム）の開催

今年度の事例報告会は、平成 30 年度に引き続き、「シンポジウム・里海保全の最前線」と題し、東京大学大講堂にて開催した。今回の開催においても、活動組織や地域協議会等の事業関係者のみならず、広く一般に当事業の重要性を周知することを目的としたため、特に一般客の増加を目指した。周知にあたっては、後述するイベントでの周知や新聞への掲載、大学や教育委員会等への案内送付などを行い、参加者約 500 名のうちの約 130 名（約 1/4）を事業関係者外（個人、NPO、企業等）とすることができた。事業関係者外の参加者数は、昨年度とほぼ同数であるが、今年度の実際の申込数は 170 名であったことから、感染症（新型コロナウイルス）の発生が重なったことが影響したと考えている。

今回、プログラムの内容を講演と事例報告及び意見交換会のみとしたことで、定刻通りに開始、終了することができた。また、意見交換会では活動組織や一般の方の質疑も行われ、充実したシンポジウムであったと考える。アンケート結果からは、会場について種々意見があったが、総じて同じ会場での開催希望が多く、今後、会場の固定化についても検討する必要がある。

3-7. 各種媒体による情報提供

今年度は各種のイベントに出展し、当事業及びシンポジウムの告知を行った。また、シンポジウムの開催にあたっては、新聞各社に公告を掲載し、一定数の一般客の参加を得ることができた。更に、前述したサポート専門家のヒアリング結果をもとに作成した「取組紹介ページ」を113組織分公開することにより、当事業の周知に貢献したものとする。

今年度は、取組紹介ページを作成するにあたり、専門家を派遣して情報収集する方法と各活動組織が自らウェブサイト上で入力して公開する方法の2通りで実施した。専門家派遣による情報収集は、102組織（模範・参考となる事例を含めて108組織）となったが、各自で入力したページ数は21組織分に留まった。可能な限り簡素化した入力フォームを提供していることから、引き続き、地域協議会を通じて各自での入力作業の協力要請を行っていく必要がある。

ウェブサイトのアクセス数については、平成30年度が月平均1,130件、今年度が1,509件※に増加、4月から2月までの取組情報ページのアクセス数は平成30年度が7,573件、今年度が13,253件に増加しており、活動組織による利用や一般の方の閲覧が増えていることを示しており、当事業の周知に一定の効果があったものと評価する。

※5月を除いた平均値

表 3-3-1 (1) サポートの成果と課題 (1)

No	都道府県	活動組織名	専門家氏名		サポート内容		サポートの成果と課題
			H30	H31	H30	H31	
1	北海道	ふるびら海づくり推進協議会	宮川 椋	宮川 椋	<ul style="list-style-type: none"> 写真撮影方法の指導 (1/4m2コドラートの併用や景観被度の採用を提案) モニタリング定点設定への助言 駆除したウニの移植場所の検討 モニタリング結果整理表記載方法 (自己評価) の指導 調査機器の紹介・提案 (ドローンによる藻場航空撮影手法・CCDカメラによる水中撮影手法) 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、ウニの密度管理の活動を徹底して行うべきと指導 活動区域 (群来地区および丸山地区) におけるウニの分布状況およびコンブ類の繁茂状況を潜水で確認 密度管理の対象となっているキタムラサキウニは9月が成熟期であるため、密度管理の際は幼体が散布されないよう注意して採捕することを指導 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニの密度は昨年度より減少傾向にあり、昨年 11 月以降は 5 個体/m2以下の密度を維持している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動組織への漁業者以外の参加が少なく、地域全体として多くの人と取り組むことが必要である。
2	青森県	小川原湖地区漁場保全の会	藤田 孝康	藤田 孝康	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度結果と今年度結果の比較方法について助言 今年度のモニタリングにおける調査地点の確認、調査回数の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 実施区 (対照区含む) と漁業区 におけるモニタリング地点の地点数と配置、およびデータとりまとめの留意事項等を指導 今年度は噴流式耕耘から貝桁式耕耘に変更したため、複数回の耕耘を行うよう助言 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> モニタリング時も明らかに殻長が大きいメシジミが多く確認された。生物移植は確実に効果が出ていると想定される。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は爪式での耕耘を実施するため、過年度の状況と比較して、その効果や労力について検討する必要がある。
3	山形県	遊佐町海づくりの会	藤田 孝康	藤田 孝康	<ul style="list-style-type: none"> シジミの放流適地について助言 現地視察の結果を受け、今後の対応について助言 	<ul style="list-style-type: none"> シジミの流出・埋没、または死滅の状況を把握するためのモニタリングを実施 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年10月に放流したシジミが5月時点でも400～500 尾/m2 程度、生残していた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 確認されたシジミの個体群が夏の出水期を超えられるか、引き続きモニタリングを行う。
4	神奈川県	江ノ島フィッシャーマンズ・プロジェクト	田中和弘 中嶋 泰	田中和弘 中嶋 泰	<ul style="list-style-type: none"> 海底清掃範囲内の5定点において生物生息状況のモニタリング 保全範囲内の2測線・7定点において生物生息状況のモニタリング 母藻の設置や種苗投入後の効果検証として、幼体や移植成体の確認 カジメ石、カジメスポアバッグ、ワカメロープの準備、作成、設置 	<ul style="list-style-type: none"> カジメスポアバッグ、カジメ石、移植カジメ、カジメネット、ワカメロープのモニタリング 新規モニタリング地点の設定 (6地点) ウニ類等食害生物除去の指導および実施 ワカメ採苗およびワカメ種糸作成の実施 カジメ石、カジメネットの作成、設置 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門家が同行しなくても、ボランティアダイバーが地点設定や藻場の観察を行えるようになった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワカメロープ用の種糸を自給するためにワカメの採苗方法を習得する。
5	富山県	射水市豊かな海を愛する会	野田 三千代	野田 三千代	<ul style="list-style-type: none"> 小学生に藻場の重要性の講義と海藻おしばの作成方法を指導 	<ul style="list-style-type: none"> 小学生に藻場の重要性の講義と海藻おしばの作成方法を指導 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は座学の一部として、2名の構成員が小学生に活動組織の取り組みや採集してきた海藻についての講義を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動組織が中心となって授業を行えるようになる必要がある。

表 3-3-1 (2) サポートの成果と課題 (2)

No	都道府県	活動組織名	専門家氏名		サポート内容		サポートの成果と課題
			H30	H31	H30	H31	
6	石川県	輪島の里海を守る会	石川竜子 椎名弘	椎名弘 田中和弘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年に設定した観察定点で海藻被度や植食動物の生息密度を潜水調査 ・ 調査後、報告会を行い、これまでの成果を確認し、今後の活動方法を検討 ・ 他県での除去ウニの利活用方法を紹介 ・ 海藻被度や植食動物の生息密度の変化を調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成員へのモニタリング指導 ・ 水中での写真撮影方法の指導 ・ 写真からの海藻被度の算定および種同定方法指導 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構成員が藻場環境の知識を深めたことで、見たことのない海藻や、利用の可能性のある海藻に着目するようになり、活発に意見を交換するようになった。 ・ モニタリングの方法を指導した結果、構成員が自らモニタリングが出来る自信がついた。また、今後のモニタリングで、観察の精度を高めていこうとする姿勢がみえた <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度は水中写真を使用したモニタリング方法を実践する
7	福井県	小浜市海のゆりかごを育む会	片山貴之	片山貴之	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度、活動を行った地点の現状確認 ・ まだ大型のウニが見られるため、駆除を継続するよう指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置した基質への海藻の着生状況確認および改善指導 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部の設置した基質に海藻を着生させることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 増殖させたい海藻の生育に適した地点を適切に選択する必要がある。
8	徳島県	阿武の藻場を守る会	中島泰 三橋公夫	中島泰 三橋公夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動開始に向けた藻場の事前調査および報告会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藻場の定期モニタリング実施および報告会の開催 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健全な四季藻場が維持されている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海藻に魚類による食痕が見られるため、今後も注意して観察を行う必要がある。
9	徳島県	日和佐藻場再生委員会	中島泰 三橋公夫	中島泰 三橋公夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動開始に向けた藻場の事前調査および報告会の開催 ・ アラメのスボアバッグ設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藻場の定期モニタリング実施および報告会の開催 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アラメやカジメが魚類に食害されていることが分かった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食害魚の種類を特定する。

表 3-3-1 (3) サポートの成果と課題 (3)

No	都道府県	活動組織名	専門家氏名		サポート内容		サポートの成果と課題
			H30	H31	H30	H31	
10	徳島県	牟岐の藻場を守る会	中島泰 三橋公夫	中島泰 三橋公夫	<ul style="list-style-type: none"> ・間欠撮影カメラを使用した食害魚の種類特定 ・藻場の現況調査 ・今後の対策の進め方について助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・藻場の定期モニタリング実施および報告会の開催 ・小型ネット方式によるヨレモクモドキの母藻設置 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニの除去活動により、前回と比べて個体密度が減少した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型海藻を回復させるため、食植生魚類の駆除を行う必要がある
11	福岡県	糸島磯根漁場保全協議会	南里海児	南里海児	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリングの取りまとめと成果・状況についての説明 ・採苗用ブロックの設置方法の説明 ・クロメ種糸の設置方法を説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリングの取りまとめと成果・状況についての説明 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニ密度の高い場所がまだ多いが、保全活動により徐々に低くなってきている。海藻の被度も徐々に高くなってきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニは小型化しているが、密度が若干高くなっている。駆除活動は範囲を明確にし、集中して除去する必要がある。
12	福岡県	博多湾環境保全伊崎作業部会	南里海児	南里海児	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを用いてアサリの生態、生育条件、外敵種、耕耘の有効性や耕耘に適した時期などについて改めて説明するとともに、昨年度の活動成果をとりまとめて説明した。また、春から初夏に集中する耕耘は、秋の着底前にも行なった方が良くと指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度から藻場の保全活動を行うため、プロジェクターを用いて福岡県における食害生物、その除去方法および母藻や種苗の設置方法等についての研修会を行った。また、写真撮影方法等のモニタリングの手法も説明した。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成員が藻場の保全活動の内容について一通りの知識を得た。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度から計画に従って保全活動を実践する。
13	福岡県	脇の浦磯資源保全部会	南里海児	南里海児	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリング結果について取りまとめ、成果と状況について説明 ・今年度から耕耘を行うため、耕耘の実施方法やモニタリング方法、調査項目等について説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリング結果の取りまとめ、成果と状況および今年度の対策についての助言 ・干潟の分析結果等について説明 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガンガゼ類のほかに浅所のムラサキウニの除去も行われたため、全ての地点でウニ密度が低く抑えられていた。 ・全体的に海藻の被度が高くなっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きウニ類の生息密度が高い場所の除去活動を行う。
14	福岡県	藍島藻場保全部会	南里海児	南里海児	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリング結果について取りまとめ、成果と状況について説明 ・良い種苗を作るために、成熟したアラメを採取し、水温や光量の管理をしっかりと行うよう指導 種苗は早期に基質に取り付けて中間育成するよう助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリング結果を取りまとめ、成果と状況についてプロジェクターを用いて説明 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型海藻の構成種が昨年より増加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きウニ類の生息密度が高い場所の除去活動を行う。

表 3-3-1 (4) サポートの成果と課題 (4)

No	都道府県	活動組織名	専門家氏名		サポート内容		サポートの成果と課題
			H30	H31	H30	H31	
15	福岡県	馬島活動組織	南里海児	南里海児	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリング結果について取りまとめ、成果と状況について説明 ・母藻の設置やアラメ種系による種苗の設置を提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリング結果を取りまとめ、成果と状況についてプロジェクターを用いて説明 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニは順調に減少している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニの生息密度は順調に減少しているが、まだ浅所に密度がやや高い場所があるため、集中して除去を行う。
16	福岡県	唐泊海士組	南里海児	南里海児	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリング結果について取りまとめ、成果と状況について説明 ・過年度の結果から、ウニ除去を重点的に行う場所を指導 ・近くのダイビングショップへウニ除去への参加呼び掛けを提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のウニ密度および海藻の生育状況や被度などのモニタリング結果について取りまとめ、成果と状況についてプロジェクターを用いて説明 ・昨年の結果からウニ除去を重点的に行う場所の指導 ・モニタリング方法を改めて指導 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニの密度が低くなり、藻場が少しづつ増えている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の横展開を図る。
17	長崎県	三重地区活動組織	穴口裕司	穴口裕司	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな母藻設置場所検討のための潜水調査の実施及び助言 ・貝類の種苗放流に適した藻場造成の場所や設置する母藻の種類について助言 ・定点観測の際は方形枠内だけでなく周囲の状況も含めて写真等で記録するよう指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を行っている各モニタリングポイントの状況を、ダイバー（漁協の潜水部会）と一緒に確認し、海藻の種類や被度について助言 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニ駆除を行っていない場所と比較するとウニの密度は明らかに少なくなっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続してウニ駆除の活動に取り組む。
18	長崎県	福田地区活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> ・定期モニタリングの指導 ・藻場の現況確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から構成員となったダイバーに定期モニタリングについて 2 回目の講習 ・携行GPSによるモニタ定点への誘導方法を指導 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウニ除去や母藻移植等の対策をきちんと実施し、春藻場を拡大することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多年生の大型海藻を移植し、四季藻場の再生を目指す。 ・深所の藻場再生を目指す。
19	長崎県	深堀地区活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> ・定期モニタリングの指導 ・藻場の現況確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・磯焼け対策の進め方についての講習会および対策への助言 ・藻場の現状把握およびモニタリング定点の提案 ・定期モニタリングの実習 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春藻場が維持されている。 ・ウニの密度は減少傾向にある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度4月に移植した多年生大型海藻のノコギリモクとヨレモクが定着するかどうかモニタリングする必要がある。

表 3-3-1 (5) サポートの成果と課題 (5)

No	都道府県	活動組織名	専門家氏名		サポート内容		サポートの成果と課題
			H30	H31	H30	H31	
20	長崎県	瀬川地区海渚を再生する会	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの指導 藻場の現況確認 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 母藻移植の方法等の指導 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニ密度は低く、春藻場が維持されている。 昨年度にアカモクの母藻移植を行った 4 定点のうち、2定点にアカモクが生育していた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四季藻場の再生を目指す。
21	長崎県	大瀬戸地区藻場育成会	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施 ウニハードルの改良を提案 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニの密度は昨年度とほぼ同じ程度に維持されている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 植食性魚類の動向に注意する必要がある。
22	長崎県	西彼南部地区活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施 漁業者が行う定期モニタリングの方法について、景観被度の見方、主な海藻の種類の見分け方、ウニ密度の測定方法などについて指導 ウニハードルの設置方法について指導 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 大型海藻の見分け方の指導 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度にウニ駆除が実施された場所での藻場が回復している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後もウニ類駆除を継続する。
23	長崎県	崎山地区活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施 モニタリングの定点の候補地を選定 景観被度による定期モニタリングの方法を指導 刺網による食植生魚類駆除を提案 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 今後の対策の進め方について打合せ 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成員と専門家の藻場の景観被度（大型海藻・小型海藻・その他）の目合わせが一致するなど、景観被度の見方を身につけている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕切網内のブダイの駆除を検討する必要がある。
24	長崎県	鰐浦地区藻場保全組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施 景観被度による定期モニタリングの方法を指導 今後に向けて食植生魚類への対策も検討するよう提案 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 今後の対策の進め方について打合せ 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニの密度は低く保たれている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚の食害状況を把握し、駆除に取り組む必要がある。
25	長崎県	豊地区藻場保全組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施 魚類の食痕が認められたため、保護籠を用いて魚の食害の有無を確認することを提案 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 今後の対策の進め方について打合せ 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニの密度は低く保たれている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚類の食害によりノコギリモクが激減しているため、保護籠や仕切網などにより保護する必要がある。

表 3-3-1 (6) サポートの成果と課題 (6)

No	都道府県	活動組織名	専門家氏名		サポート内容		サポートの成果と課題
			H30	H31	H30	H31	
26	長崎県	塩浜地区藻場保全組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施 今後の活動の進め方について指導 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 今後の対策の進め方について打合せ 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ノコギリモクが優占するガラモ場が維持されている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚対策はイスズミ類を対象としているが、今後はアイゴを対象とした駆除も薦められる。
27	長崎県	橘湾地区活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者が実際に景観被度を記録し、専門家と観察結果比較を繰り返し実施 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニの密度は前回5月から大きく減少し、局所的な磯焼け（ハロ）も見られなくなった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚の食害が徐々に進行しているため、魚の食害に重点をおいたモニタリングを継続していくことが勧められる。
28	長崎県	橘湾東部地域活動組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 潜水での藻場のモニタリング 漁業者とともに潜り、藻場のモニタリングについて指導 ウニ密度の高い区域での駆除を継続するよう指導 1年生のアカモクが多いため、多年生大型海藻を増やすよう助言 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 今後の対策の進め方について打合せ 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニの密度は減少傾向にある。 藻場の被度は順調に増加している。 漁業者と専門家が一緒にモニタリングを実施した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後もウニ駆除を継続する必要がある。
29	長崎県	琴海地区活動組織	益原寛文	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング方法をヒアリングし、被度の簡便な観察方法を指導 結果整理表の内容について助言 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 今後の対策の進め方について打合せ 景観被度の見方等のモニタリングの方法について説明し、現場において目合わせを実施 海藻の見分け方を指導 来春はボランティアダイバーと協働することを提案 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニの駆除を行っているところはウニの密度が低く、藻場が形成されている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 潜水してウニ除去を行うことができる人材を確保する。
30	長崎県	外海地区活動組織	南里海児	南里海児	<ul style="list-style-type: none"> ウニフェンス設置の指導と実施海域への設置 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者と専門家がモニタリングを実施 今後のウニ除去や植食性魚類駆除および母藻設置などについて助言 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニ密度が低下するとともに、小型海藻の生育がみられるようになった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 春藻場構成種を増やす。 ウニ除去に継続して取り組む。

表 3-3-1 (7) サポートの成果と課題 (7)

No	都道府県	活動組織名	専門家氏名		サポート内容		サポートの成果と課題
			H30	H31	H30	H31	
31	長崎県	賀谷地区藻場保全組織	南里海児	犬塚ゆかり	<ul style="list-style-type: none"> 水産多面的の概要や食害生物の駆除方法、モニタリング方法、種苗の設置方法などについて、プロジェクターを用いて説明 現地で漁業者と一緒に潜水し、定点の設定について助言を行い、モニタリング方法を指導 保護区域の設置方法について簡単に説明 	<ul style="list-style-type: none"> イソズミはおいしく食べられることを説明 一緒にイソズミをさばき、調理を実施 家庭にある調味料で簡単にできる内容のレシピを配布 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> イソズミに利用価値があることを知ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> イソズミを水産資源として利用する方法を開拓する。
32	長崎県	佐須奈地区藻場保全組織	中嶋泰 渡辺耕平	中嶋泰 渡辺耕平	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 今後の対策の進め方について打合せ 景観被度の見方を説明し、各定点において漁業者と専門家との目合わせを実施 五島で開発された竹野-西水研型植食魚トラップを紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 定期モニタリングの実施および結果報告 今後の対策の進め方について打合せ 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウニを駆除した結果、ウニ密度は対策開始前の 1/10 に低下した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後は、魚対策に重点的に取り組んでいくことが薦められる。
33	鹿児島県	あいら藻場・干潟再生協議会	渡辺耕平	渡辺耕平 安藤亘	<ul style="list-style-type: none"> アマモ群落のモニタリング方法の指導 アマモ種苗移植（ポット）補助 	<ul style="list-style-type: none"> 海底状況の確認 紙粘土法によるアマモの移植指導 アマモの移植場所の選定 翌春の繁茂状況を把握するため、これまでのアマモの範囲をドローンで空撮 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元の保育園・幼稚園の園児にアマモ播種に使用する紙粘土のオブジェを制作してもらうことで、横展開を行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> アマモ種苗の育成技術を身につける。
34	鹿児島県	日置市多面的環境保全協議会	川畑友和	川畑友和 酒井章	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に実施したアマモマット及び藻場ブロックの空撮、潜水モニタリング 30年度の活動計画作成補助 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に実施したアマモマットおよび藻場ブロックの空撮 潜水モニタリングの実施 令和元年度の活動計画作成 アマモマットの作成を業者任せにせず、構成員も参加するよう指導 山口県の柳井藻場保全グループの活動内容を紹介 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に設置したアマモマットから約200株のアマモが生育しており、種子も確認できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 潜水してウニ除去を行うことができる構成員を育成する必要がある。
35	沖縄県	伊江島の会	永田昭廣 石田和敬	永田昭廣 石田和敬	<ul style="list-style-type: none"> サンゴのモニタリング方法や場所の選定、比較方法について指導 小学生にサンゴについて説明し、取り扱い方法やプレートへの固定方法について指導 移植用母サンゴの確保、断片化、移植場所の選定・移植方法、モニタリング（追跡）方法等を指導 天然サンゴの現状と移植サンゴの生存、成長の現況調査 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング方法や場所の選定、比較方法を指導 天然サンゴの現状と移植サンゴの生存、成長についてモニタリングを実施 小学生にサンゴとの関わりについて説明し、移植用サンゴの取り扱いやプレートへの固定方法を指導 移植用親サンゴの確保、断片化、移植場所の選定、移植方法の指導 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度と同様、現在移植している場所の周辺は順調にサンゴが回復してきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移植地点周辺では、サンゴがかじられるなど食害の影響が各所に見られた。大型の食害魚類の影響を避けるため、水深を変えて移植する必要がある。

表 3-3-2 (1) 活動紹介シート公開状況 (1)

No.	都道府県	活動組織名	ヒアリング実施 年度		備考
			H30	H31	
1	北海道	奥尻地区藻場保全活動組織	●		
2		太櫛地区藻場保全活動組織	●		
3		貝取澗地区藻場保全活動組織	●		
4		北斗市アサリ漁場環境保全活動組織		●	活動組織作成
5		北斗市ホッキ貝環境保全活動組織		●	活動組織作成
6		北斗市藻場環境保全活動組織		●	活動組織作成
7		富浜ホッキ部会		●	
8		生花苗沼シジミ保存会	●		
9		浜中地区干潟保全活動組織		●	
10		浜中町海難救助活動組織		●	
11		野付地区干潟造成保全会	●		
12		別海地区藻場・干潟・浅場保全会	●		
13		湧別あさり礁環境保全活動組織		●	
14		戸井の海を豊かにする会		●	活動組織作成
15		奥尻地区水域監視活動組織	●		
16		船泊水域監視活動組織	●		
17		香深水域監視活動組織	●		
18		簗泊地区水域監視委員会	●		
19		鬼脇地区水域監視委員会	●		
20		杵形地区水域監視委員会	●		
21		仙法志地区水域監視委員会	●		
22		別海沿岸海難救助組織	●		
23		標津沿岸海難救助組織		●	
24		散布海域を保全する会		●	
25		霧多布西地区藻場保全活動組織		●	
26		霧多布東地区藻場保全活動組織		●	
27	青森県	新深浦町漁協地域多面的機能発揮活動組織	●		
28		中泊町沿岸訓練実施隊	●		
29		三厩地区環境保全活動組織		●	
30		三厩地区海岸環境美化活動組織		●	
31		蟹田平館地区海岸環境美化活動組織		●	
32		平内町地域協議会		●	
33		佐井村漁協保全活動の会	●		
34		奥戸地区藻場保全の会	●		
35		蛇浦地区藻場保全活動の会	●		
36		尻屋地区藻場保全活動の会		●	
37		小川原湖地区漁場保全の会	●		
38		今別町地域協議会	●		
39		三沢地区漁場保全の会		●	
40	岩手県	宮古湾干潟環境保全委員会	●		
41		盛川の環境を守る会	●		
42		豊沢川の環境を守る会		●	
43	宮城県	登米市平筒沼水・いきもの保全隊	●		
44	秋田県	天王の風	●		
45		湯沢市河川愛護会		●	
46		小猿部川の伝統漁法を守る会	●		
47	山形県	遊佐町海づくりの会	●		
48		小岩川地域藻場保全活動組織	●		
49	福島県	いわき藻場保全研究会	●		
50		相馬双葉漁業協同組合松川浦支所干潟保全協議会	●		
51	茨城県	大津水産多面的機能活動組織	●		
52		大洗町多面的機能活動組織		●	
53		鹿島灘多面的機能活動組織	●		
54		かすみがうら市地区環境・生態系保全活動組織	●		
55		大和地区活動組織		●	
56		大野地区活動組織		●	
57		桜川多面的機能活動組織	●		
58	群馬県	渡良瀬川水系魚ふれあい振興会		●	
59	埼玉県	高麗川流域地区活動組織		●	
60		入間川流域地区活動組織	●		
61	神奈川県	城ヶ島藻場保全活動組織		●	
62		江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト		●	
63		千歳川を守る活動組織	●		
64		諸磯藻場保全活動組織		●	
65	新潟県	加茂湖活動組織	●		
66		魚津市漁場環境保全会		●	
67		滑川高校海洋科海洋クラブ		●	
68		富山市水辺をきれいにする会	●		
69		射水市豊かな海を愛する会		●	
70		国分の岬藻場再生会		●	活動組織作成

表 3-3-2 (2) 活動紹介シート公開状況 (2)

No.	都道府県	活動組織名	ヒアリング実施 年度		備考
			H30	H31	
71	石川県	七尾西島フグ縄組合		●	
72		安宅の里海を守る会		●	
73		大杉谷川をよみがえらせる会	●		
74		おおかわの会		●	
75		輪島の里海を守る会		●	
76	福井県	崎生態系保全活動グループ		●	活動組織作成
77		米ヶ脇里海を守る会	●		
78		勝山九頭竜川環境ネットワーク		●	
79		南川ラインレスキュー隊	●		
80	長野県	上小水産多面的機能発揮対策事業活動組織	●		
81		千曲川の自然を守る会活動組織		●	
82	静岡県	伊豆FNY活動組織	●		
83		北限域(内浦湾)の造礁サンゴ群落保全会	●		
84		榛南磯焼け対策活動協議会	●		
85		南伊豆伊浜藻場保全協議会	●		
86		伊豆稲取藻場保全会	●		
87	愛知県	常滑市地先漁場環境保全会	●		
88		美浜町漁場環境保全会	●		
89		大井漁場環境保全会	●		
90		幡豆地区干潟・藻場を保全する会	●		
91	愛知県	蒲都市漁場環境保全協議会	●		
92		渥美半島地域漁業環境保全会	●		
93		矢作川の環境を守る会		●	
94		巴川環境保全会	●		
95		名倉川環境保全ネットワーク		●	
96		一色干潟保全会	●		
97	三重県	菅島地区藻場保全活動組織	●		
98		答志支所青年部		●	
99		櫛田川第一漁業協同組合活動組織		●	
100		宮川上流の環境を守る会	●		
101		銚子川環境保全会		●	
102		白浦活動組織		●	
103	滋賀県	野洲市びわ湖を守る会		●	
104		百瀬水と暮らし保全会		●	
105		野洲川の環境を良くする会		●	
106		愛知川清流会	●		
107	京都府	京の川の恵みを活かす会		●	
108		上桂川を守る会	●		
109	兵庫県	明石地区林崎の浅場を守る会		●	協議会作成
110		明石地区江井ヶ島豊かな海を守る会		●	協議会作成
111		播磨町豊かな海を守る会		●	協議会作成
112		香住の海の会	●		
113		猪名川を守る会		●	協議会作成
114		夢前川の環境を守る会		●	協議会作成
115		みんなの川・揖保川会	●		
116		清流竹野川を豊かにする会		●	協議会作成
117		矢田川を守る会		●	
118		武庫川環境保全隊		●	協議会作成
119		みんなで育てる ひょうごの川		●	協議会作成
120		加古川の河川環境を守る会	●		
121		兵庫運河の自然を再生するプロジェクト	●		
122		五色地区豊かな海づくり活動組織		●	協議会作成
123	和歌山県	和歌浦活性化活動組織	●		
124	鳥取県	酒津地区海の環境保全活動組織		●	
125		浜村地区環境保全活動組織		●	
126		夏泊地区環境保全活動組織		●	
127		青谷地区海の環境保全活動組織		●	
128		泊地区藻場保全活動グループ		●	
129		東地区海洋環境保全対策活動組織		●	
130		浦富地区海の環境保全活動組織	●		
131		網代港地区海洋環境保全対策活動組織		●	
132	島根県	太田地区海域保全協議会		●	
133		浜田地区海域保全協議会		●	
134		益田地区海域保全協議会		●	
135		知夫村海守隊		●	活動組織作成
136		宍道湖流域保全協議会	●		
137		益田川と海をつなぐ自然環境保全活動組織		●	
138		出雲地区海域保全協議会		●	
139	広島県	前潟干潟研究会	●		
140		広島県東部アサリ協議会(浦島地区)	●		

表 3-3-2 (3) 活動紹介シート公開状況 (3)

No.	都道府県	活動組織名	ヒアリング実施 年度		備考
			H30	H31	
141	広島県	江の川かっぱ道場	●		
142		安芸津干潟研究会	●		
143	山口県	阿武藻場保全グループ		●	
144		萩藻場保全グループ		●	
145		江崎・須佐藻場保全グループ		●	
146		大井川環境サービス活動組織		●	
147		長門東藻場保全グループ	●		
148		長門西藻場保全グループ	●		
149		通藻場保全グループ		●	
150		王司干潟改良グループ		●	
151		六連島藻場保全グループ	●		
152		下関ひびき藻場保全グループ	●		
153		吉母地区藻場保全グループ	●		
154		室津地区藻場保全活動組織		●	活動組織作成
155		東岐波里づくりグループ		●	
156		床波海域保全グループ		●	
157		宇部岬地区浅場保全グループ		●	
158		藤曲浦地区活性化グループ		●	
159		榎野川河口干潟を守る会	●		
160		柳井藻場保全グループ		●	
161		神代藻場保全グループ	●		
162		湊藻場保全グループ	●		
163		越ヶ浜藻場保全グループ		●	
164		吉見藻場保全グループ		●	
165		津黄藻場保全グループ		●	
166	徳島県	阿部の藻場を守る会		●	活動組織作成
167	香川県	鴨庄漁協活動組織	●		
168	愛媛県	中山川流域環境保全活動組織		●	
169		瀬戸地区環境保全協議会		●	
170		町見地区環境保全協議会		●	
171		愛南さんごを守る協議会		●	
172		愛南町漂流ごみ回収処理部会		●	
173		三浦アサリ研究会		●	
174		日振島活動組織		●	
175	高知県	宇佐地区協議会	●		
176		仁淀川流域の山、川、海の環境保全推進協議会	●		
177		池ノ浦・久通磯焼け対策部会	●		
178		上ノ加江漁村文化伝承活動組織	●		
179		志和藻場を守る会	●		
180		興津藻場保全会	●		
181	高知県	川漁を伝承する会		●	
182		黒潮町藻場保全推進協議会	●		
183		みんなの海を育てる会	●		
184		窪津藻場保全対策協議会	●		
185		宿毛湾環境保全連絡協議会	●		
186		室戸沿岸海難(津波)救助組織	●		
187	福岡県	馬島活動組織	●		
188		柏原地区保全活動組織		●	
189		唐泊海士組	●		
190	佐賀県	肥前地区海底環境を守る会	●		
191	長崎県	三重地区活動組織	●		
192		橘湾地区活動組織		●	
193		外海地区活動組織		●	
194		佐世保市浅子地区活動組織	●		
195		島原地区環境・生態系保全活動組織	●		
196		有喜地区藻場保全の会		●	
197		江の浦地区藻場を大切に作る会		●	
198		池下地区資源を守る会		●	
199		津水湾環境保全	●		
200		伊木力漁場保全の会		●	
201		小長井西部活動組織		●	
202		小長井中央活動組織		●	
203		小長井東部活動組織		●	
204		大村市新城活動組織		●	
205		大村市松原活動組織	●		
206		大村湾東部東浦活動組織		●	
207		志々伎地区磯焼け対策活動組織	●		
208		大島地区藻場を守る会		●	
209		瀬川地区海苔を再生する会	●		
210		大瀬戸地区藻場育成会	●		

表 3-3-2 (4) 活動紹介シート公開状況 (4)

No.	都道府県	活動組織名	ヒアリング実施 年度		備考
			H30	H31	
211	長崎県	西有家地区環境保全活動組織	●		
212		長与浦再生活動組織	●		
213		西彼南部地区活動組織		●	
214		琴海地区活動組織		●	
215		野母崎三和地区活動組織	●		
216		福田地区活動組織	●		
217		茂木地区活動組織		●	
218		深堀地区活動組織		●	
219		針尾藻場造成協議会		●	
220		佐世保市南部地域活動組織		●	
221		鴨居瀬地区藻場保全組織	●		
222		江島・平島地域活動組織		●	
223		大村湾地域漁業環境保全会		●	
224		勝本地区活動組織	●		
225		崎山地区活動組織	●		
226	熊本県	川口二枚貝保全活動組織	●		
227		鏡町アサリ活動組織	●		
228		芦北地域アマモ場再生・保全活動組織	●		
229	大分県	宇佐干潟保全の会	●		
230		国見地区藻場保全組織	●		
231		佐伯湾地区藻場保全活動組織		●	
232		米水津地区藻場保全活動組織		●	
233		日出地域活動組織	●		
234		臼杵地区藻場・海岸保全活動組織	●		
235		四浦地区藻場保全活動組織	●		
236	宮崎県	庵川藻場干潟保全会	●		
237		平岩探貝藻グループ	●		
238	鹿児島県	広瀬川川守隊		●	
239		高尾野川をきれいにする会	●		
240		枕崎の海を守る会	●		
241		万之瀬川振興会	●		
242		きりしま藻場守り隊		●	活動組織作成
243		あいら藻場・干潟再生協議会		●	
244		網掛川干潟再生の会		●	
245		鹿屋市漁協アマモ会		●	
246		大根占藻場保全会		●	活動組織作成
247		高山磯焼対策チーム		●	
248		ふくやま藻場守り隊		●	活動組織作成
249	沖縄県	いげな島のサンゴ礁を愛する会	●		
250		伊江島海の会		●	
251		恩納村美ら海を育む会		●	
252		与那原地区美ら海会	●		
			124	129	